

科目名	キャリア教育(1)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	鈴木倅歩
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会(クラス)」のなかの役割のなかで 主体的に行動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力(主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チームワー ク力」を理解する。 「社会(クラス)」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点□						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	クラスのノームの意識付けを行い「学生生活の基盤」を作る、クラス目標の作成を行う・学校のルール	配布プリントを記入し次回提出
2		講義・演習	グループワーク: 友達づくり	配布プリントを記入し次回提出
3		講義・演習	「主体性」: 状況を読みとり自分のすべきことを見つけて行動することが出来るようになる	配布プリントを記入し次回提出
4		講義・演習	「計画力」: 起こり得る学校行事においての学生の状況やモチベーションを説明し、計画的に主体的行動がとれるよう考えさせる	配布プリントを記入し次回提出
5		講義・演習	力を学ぶ スペシャリストになるために	配布プリントを記入し次回提出
6		講義・演習	「傾聴力」「発信力」をワークショップ形式で実践させ講義で覚えるだけでなく行動出来るようにする	配布プリントを記入し次回提出
7		講義・演習	プロとしての言葉遣いやマナーを学ぶ メールマナー・電話マナー	配布プリントを記入し次回提出
8		講義・演習	学園祭やイベントを通じて自分自身の課題を発見し、解決していく力を養う	配布プリントを記入し次回提出
9		講義・演習	日常スコアシートを用い、仕事の上での自分の特性を知り自己理解を深める	配布プリントを記入し次回提出
10		講義・演習	「計画力」: 計画的に行動する力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
11		講義・演習	「実行力」: 目標を設定して着実に行動する力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
12		講義・演習	「課題発見力」: 今の状況から課題を見つける力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
13		講義・演習	夏休みに入るにあたり現場での態度・マナーや「明日への扉」について説明しやる気や成長に繋げる	配布プリントを記入し次回提出
14		講義・演習	「明日への扉」の参加を通じてクラス・先輩とのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	参加した経験をレポートにて提出
15		講義・演習	「明日への扉」の参加を通じてクラス・先輩とのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	参加した経験をレポートにて提出
準備学習 時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】				
個人作成プリント・日常スコアシート・学生サポートハンドブック				

科目名	キャリア教育(2)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	鈴木倅歩
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 1年次後期では滋慶学園グループが必修で行っている「コミュニケーションスキルアップ検定」の問題内容を基に人間教育を行う。 また、キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力(主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チームワーク力」を理解する。 「社会(クラス)」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。 コミュニケーションスキルアップ検定の合格。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点口						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己理解 ① 働く意義(勤労観・職業観)を理解し考える	配布プリントを記入し次回提出
2		講義・演習	② 履歴書の書き方にこれまで取り組んできた学習イベントを整理し、自らの経験を伝えられるようになる	配布プリントを記入し次回提出
3		講義・演習	「働きかけ力」: 自分から進んで取り組む力、チームワーク力と共に必要であることを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
4		講義・演習	「創造力」: 新しい価値を生み出す力をグループワークショップ方式で学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
5		講義・演習	グループワーク: 業界が求める人材を理解し、自己の目標を設定する/履歴書	就職活動に挑戦したい企業一覧を記入し提出
6		講義・演習	③ 履歴書の書き方にこれまで取り組んできた学習イベントを整理し、自らの経験を伝えられるようになる	学校指定履歴書の学歴欄を記入し提出
7		講義・演習	自己理解 自己PR/プロフィールシート作成 <自己PR・趣味特技> <専門分野・関心事>	学校指定履歴書の右欄を記入し提出
8		講義・演習	社会人準備 ① マネー教育(収入と支出のバランスを学ぶ)	授業に引き続きジョブカードの作成を行う
9		講義・演習	社会人準備 ② 夢をかなえた先輩たちの「行動の原則 + α 」を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
10		講義・演習	社会人準備 ③ 夢をかなえた先輩たちの「行動の原則 + α 」を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
11		講義・演習	社会人準備 ④ 社会保険や税の仕組みなどを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
12		講義・演習	社会人準備 ⑤ 社会人の基礎を身につける	配布プリントを記入し次回提出
13		講義・演習	コミュニケーションスキルアップ検定試験の受験	本日の試験で出来なかった部分を各自復習
14		講義・演習	進級制作展の参加を通じてクラス・他セクションとのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	進級制作展の参加を通じてクラス・他セクションとのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】				
個人作成プリント・キャリアプランシート・キャリアプラン作成補助シート・ジョブカード・学生サポートハンドブック				
東京スクールオブミュージック専門学校渋谷				

科目名	キャリア教育(3)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	鈴木倅歩
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会(クラス)」のなかの役割のなかで主体的に行 動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力(主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チーム ワーク力」を理解する。 「社会(クラス)」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点□						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	クラスのノームの意識付を行い「学生生活の基盤」を作る、クラス目標の作成を行う	配布プリントを記入し次回提出
2		講義・演習	「主体性」: 状況を読みとり自分のすべきことを見つけて行動することが出来るようになる	配布プリントを記入し次回提出
3		講義・演習	起こり得る学校行事においての学生の状況やモチベーションを説明し、計画的に主体的行動がとれるよう考えさせる	配布プリントを記入し次回提出
4		講義・演習	「傾聴力」: 人の話を聞くことの重要性を知り、相手との信頼関係を作ることから仕事とは何かを知る	配布プリントを記入し次回提出
5		講義・演習	「発信力」: 伝える内容をわかりやすく伝える力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
6		講義・演習	「傾聴力」「発信力」をワークショップ形式で実践させ講義で覚えるだけでなく行動出来るようにする	配布プリントを記入し次回提出
7		講義・演習	プロとして活動する上での言葉遣いやマナーを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
8		講義・演習	学園祭やイベントを通じて自分自身の課題を発見し、解決していく力を養う	配布プリントを記入し次回提出
9		講義・演習	エンターテインメント業界で活躍している企業の方をお招きし、職種や働き方を学ぶ	本日の感想をレポートにて提出
10		講義・演習	「計画力」: 計画的に行動する力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
11		講義・演習	「実行力」: 目標を設定して着実に行動する力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
12		講義・演習	「課題発見力」: 今の状況から課題を見つける力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
13		講義・演習	夏休みに入るにあたり現場での態度・マナーや「明日への扉」について説明しやる気や成長に繋げる	配布プリントを記入し次回提出
14		講義・演習	「明日への扉」の参加を通じてクラス・後輩とのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	参加した経験をレポートにて提出
15		講義・演習	「明日への扉」の参加を通じてクラス・後輩とのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	参加した経験をレポートにて提出
準備学習 時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】				
個人作成プリント・日常スコアシート・学生サポートハンドブック				

科目名	キャリア教育(4)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	鈴木倅歩
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会(クラス)」のなかの役割のなかで主体的に行動 できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力(主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チームワー ク力」を理解する。 「社会(クラス)」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点口						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	合同企業説明会を前にして仕事という理解を深めると共に社会の中での自分の役割とは何かを考える	配布プリントを記入し次回提出
2		講義・演習	「チームワーク力」:現状と役割を理解して協力し合う大切さを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
3		講義・演習	「働きかけ力」:自分から進んで取り組む力、チームワーク力と共に必要であることを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
4		講義・演習	「創造力」:新しい価値を生み出す力をグループワークワークショップ方式で学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
5		講義・演習	ジョブカードを用い、職業理解を深める	就職活動に挑戦したい企業一覧を記入し提出
6		講義・演習	【履歴書の書き方】これまで取り組んできた学内イベントを整理し、自らの経験を伝えられるようになる	学校指定履歴書の学歴欄を記入し提出
7		講義・演習	【履歴書の書き方】自分について伝えられるようになるため自己理解を深め客観視出来るようになる	学校指定履歴書の右欄を記入し提出
8		講義・演習	【履歴書の書き方】ジョブカード作成内、自分の長所・短所が伝えられるようになる	授業に引き続きジョブカードの作成を行う
9		講義・演習	エンターテインメント業界で活躍している企業の方をお招きし、職種や働き方を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
10		講義・演習	日常スコアシートを用い、仕事の上での自分の特性を知り自己理解を深める	配布プリントを記入し次回提出
11		講義・演習	SMBCファイナンスの方をお招きし、マネー講座を開催、社会人になった時に掛かるお金について学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
12		講義・演習	社会に出る際のビジネスマナー・身なり・挨拶の大切さを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
13		講義・演習	社会に出る際のビジネスマナー・メールのやり取り・座席位置	本日の試験で出来なかった部分を各自復習
14		講義・演習	進級制作展の参加を通じてクラス・他セクションとのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	参加した経験をレポートにて提出
15		講義・演習	進級制作展の参加を通じてクラス・他セクションとのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	参加した経験をレポートにて提出
準備学習 時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】				
個人作成プリント・キャリアプランシート・キャリアプラン作成補助シート・ジョブカード・学生サポートハンドブック				
東京スクールオブミュージック専門学校渋谷				

科目名	キャリア教育(5)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	鈴木倅歩
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会(クラス)」のなかの役割のなかで 主体的に行動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力(主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」 「チームワーク力」を理解する。 「社会(クラス)」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点口						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	新社会人の心得ワーク	新社会人の心得を使用し復讐を行う。
2		講義・演習	ハートビーイングワーク	七つの習慣の実践作業
3		講義・演習	10年後の目標の立て方	キューブについて研究しレポートをまとめる。
4		講義・演習	5年後の目標の立て方	新社会人の心得を使用し復讐を行う。
5		講義・演習	3年後の目標の立て方	セルフプレゼンテーション自主確認。
6		講義・演習	自分の世界観をまとめていく方法	七つの習慣の実践作業
7		講義・演習	キューブを使つてのコミュニケーションワーク	キューブについて研究しレポートをまとめる。
8		講義・演習	アンケート形式、プレゼンテーション	セルフプレゼンテーション自主確認。
9		講義・演習	パズルワーク	七つの習慣の実践作業
10		講義・演習	自分の世界観をまとめていく方法	新社会人の心得を使用し復讐を行う。
11		講義・演習	キューブを使つてのコミュニケーションワーク	新社会人の心得を使用し復讐を行う。
12		講義・演習	アンケート形式、プレゼンテーション	セルフプレゼンテーション自主確認。
13		講義・演習	ハートビーイングワーク	セルフプレゼンテーション自主確認。
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】				
個人作成プリント・キャリアプランシート・キャリアプラン作成補助シート・ジョブカード・学生サポートハンドブック				

科目名	キャリア教育(6)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	鈴木倅歩
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会(クラス)」のなかの役割のなかで 主体的に行動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力(主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」 「チームワーク力」を理解する。 「社会(クラス)」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点口						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	新社会人の心得ワーク	新社会人の心得を使用し復讐を行う。
2		講義・演習	ハートビーイングワーク	七つの習慣の実践作業
3		講義・演習	10年後の目標の立て方	キューブについて研究しレポートをまとめる。
4		講義・演習	5年後の目標の立て方	新社会人の心得を使用し復讐を行う。
5		講義・演習	3年後の目標の立て方	セルフプレゼンテーション自主確認。
6		講義・演習	自分の世界観をまとめていく方法	七つの習慣の実践作業
7		講義・演習	キューブを使つてのコミュニケーションワーク	キューブについて研究しレポートをまとめる。
8		講義・演習	アンケート形式、プレゼンテーション	セルフプレゼンテーション自主確認。
9		講義・演習	パズルワーク	七つの習慣の実践作業
10		講義・演習	自分の世界観をまとめていく方法	新社会人の心得を使用し復讐を行う。
11		講義・演習	キューブを使つてのコミュニケーションワーク	新社会人の心得を使用し復讐を行う。
12		講義・演習	アンケート形式、プレゼンテーション	セルフプレゼンテーション自主確認。
13		講義・演習	ハートビーイングワーク	セルフプレゼンテーション自主確認。
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】				
個人作成プリント・キャリアプランシート・キャリアプラン作成補助シート・ジョブカード・学生サポートハンドブック				

科目名	ダンス基礎(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	木本雄
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①基礎的なダンスを深めると共に魅せることを意識する ②ダンスに関しては全般 ③一線で活躍できるアーティスト ④単純な振り落しの授業ではなく、体の使い方なども含めた内容						
到達目標	ダンスの技術的向上、その習慣化。						
評価方法と基準	実技テストによる採点と授業の出席率による平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	業界の仕事をすると言うこと。授業を受けるうえでの心構え	授業内容を自主練習
2		講義・演習	筋トレストレッチによる体づくり	授業内容を自主練習
3		講義・演習	基礎的な振付	授業内容を自主練習
4		講義・演習	振付けの踊りこみ	授業内容を自主練習
5		講義・演習	振付けの応用	授業内容を自主練習
6		講義・演習	応用の踊り込み	授業内容を自主練習
7		講義・演習	HIPHOPの振付け	授業内容を自主練習
8		講義・演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付け開始。	授業内容を自主練習
9		講義・演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付けの応用	授業内容を自主練習
10		講義・演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付けの応用踊りこみ	授業内容を自主練習
11		講義・演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付けの応用踊りこみ②	授業内容を自主練習
12		講義・演習	テスト振付	授業内容を自主練習
13		講義・演習	テスト	授業内容を自主練習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	ダンス基礎(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	木本雄
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①基礎的なダンスを深めると共に魅せることを意識する ②ダンスに関しては全般 ③一線で活躍できるアーティスト ④単純な振り落しの授業ではなく、体の使い方なども含めた内容						
到達目標	ダンスの技術的向上、その習慣化。						
評価方法と基準	実技テストによる採点と授業出席率の平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の復習。体づくりの見直し	授業内容を自主練習
2		講義・演習	前期のダンスの見直し、復習。	授業内容を自主練習
3		講義・演習	前期より難易度を高めた振付	授業内容を自主練習
4		講義・演習	難易度を高めた振付の踊り込み	授業内容を自主練習
5		講義・演習	より難しい振付。	授業内容を自主練習
6		講義・演習	振付の踊り込み	授業内容を自主練習
7		講義・演習	これまでの物を入れたうえで自由度を高めた振付	授業内容を自主練習
8		講義・演習	自由度を高めた振付の踊り込み	授業内容を自主練習
9		講義・演習	より自由度と難易度の高い振付	授業内容を自主練習
10		講義・演習	前週の踊り込み	授業内容を自主練習
11		講義・演習	自己表現を求めた踊り	授業内容を自主練習
12		講義・演習	テスト振付	授業内容を自主練習
13		講義・演習	テスト	授業内容を自主練習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Music notation Introduction (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大貫和紀
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽譜制作ソフトの定番であるSibeliusの使い方をマスターするとともに、アレンジを構築する際にDAWで音を探しながら行う方法から脱却し頭の中のイメージから構築する方法を習得する						
到達目標	Sibeliusの使い方を理解し入力ができるようにする。管楽器の特性を理解して2管のアレンジができるようになる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	リードシートの作成方法について	リードシートの作成方法について振り返りと自習。
2		講義・演習	リードシートの作成の演習	リードシートの作成の演習振り返りと自習。
3		講義・演習	リードシート+ピアノ伴奏譜の作成について	リードシート+ピアノ伴奏譜の作成について振り返りと自習。
4		講義・演習	リードシート+ピアノ伴奏譜の作成の演習	リードシート+ピアノ伴奏譜の作成の演習振り返りと自習。
5		講義・演習	リズム譜の作成	リズム譜の作成振り返りと自習。
6		講義・演習	リードシート+ピアノ+リズム譜を作成	リードシート+ピアノ+リズム譜を作成振り返りと自習。
7		講義・演習	ギター譜を作成について	ギター譜を作成について振り返りと自習。
8		講義・演習	ギター譜を作成の演習	ギター譜を作成の演習振り返りと自習。
9		講義・演習	イントロを作成について	イントロを作成について振り返りと自習。
10		講義・演習	アウトロを作成について	アウトロを作成について振り返りと自習。
11		講義・演習	管楽器のレンジとトランスポーズ	管楽器のレンジとトランスポーズ振り返りと自習。
12		講義・演習	ユニゾンとガイドトーンのアレンジ	ユニゾンとガイドトーンのアレンジ振り返りと自習。
13		講義・演習	前期のアレンジ課題の提出	レポート提出
14		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Music notation Introduction (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大貫和紀
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽譜制作ソフトの定番であるSibeliusの使い方をマスターするとともに、アレンジを構築する際にDAWで音を探しながら行う方法から脱却し頭の中のイメージから構築する方法を習得する						
到達目標	Sibeliusの使い方を理解し、管楽器の特性を理解して5管+ストリングスのアレンジができるようになる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	インストゥルメンテーションを理解する。	インストゥルメンテーションを理解する。振り返りと自習。
2		講義・演習	管弦楽器によるSolo Unisonのアレンジ	管弦楽器によるSolo Unisonのアレンジ振り返りと自習。
3		講義・演習	2part Soliの構築が出来る様になる。	2part Soliの構築が出来る様になる。振り返りと自習。
4		講義・演習	4way close Drop2 Drop3 Drop2+4のVoicingの構築	4way close Drop2 Drop3 Drop2+4のVoicingの構築振り返りと自習。
5		講義・演習	4part Soliの構築が出来る様になる。	4part Soliの構築が出来る様になる。振り返りと自習。
6		講義・演習	3part Soliの構築が出来る様になる。	3part Soliの構築が出来る様になる。振り返りと自習。
7		講義・演習	5part Soliの構築が出来る様になる。	5part Soliの構築が出来る様になる。振り返りと自習。
8		講義・演習	Spread voicingとアプローチノート	Spread voicingとアプローチノート振り返りと自習。
9		講義・演習	Guide Tone backing	Guide Tone backing振り返りと自習。
10		講義・演習	Inner voicing embellishment	Inner voicing embellishment振り返りと自習。
11		講義・演習	5管と弦を含むアレンジ1	5管と弦を含むアレンジ1振り返りと自習。
12		講義・演習	5管と弦を含むアレンジ2	5管と弦を含むアレンジ2振り返りと自習。
13		講義・演習	後期アレンジ課題提出	レポート提出
14		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	ProTools (1) (ProTools Basic (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	田中実
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	業界録音標準のアプリProToolsの機能と使用方法をマスターする						
到達目標	録音実習過程と並行してProToolsの機能とオペレーション方法を理解し、留まる事なくオペレート出来るようにする						
評価方法と基準	1) 配布資料の補足レポート40% 2) 定期テスト(実技)30% 3) 出席率30% ProToolsでの録音、編集の基礎となるオペレーションができるようになる						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	Macとアプリの適正使用できるようにする	Macの適正使用、ファイル管理を出来るようにする振り返りと自習
2		講義・演習	セッション作成、セッション管理できるようにする	個人でセッションを作成、保存
3		講義・演習	ウインドウ構成、トランスポートを理解する	ウインドウ構成、トランスポートを理解する振り返りと自習
4		講義・演習	各種モードを理解する	各種モードを理解する振り返りと自習
5		講義・演習	各種ツールを理解する	各種ツールを理解する振り返りと自習
6		講義・演習	録音用トラックセッティングをできるようにする	録音用トラックセッティングをできるようにする振り返りと自習
7		講義・演習	セッションに音を取り込めるようにする	セッションに音を取り込めるようにする振り返りと自習
8		講義・演習	簡単な録音、編集をできるようにする	個人で録音セッションのセッティングを行う
9		講義・演習	トラックの構成、グループ管理などの機能を理解する	トラックの構成、ミックス機能を理解する振り返りと自習
10		講義・演習	ラフミックスを実際に行い、機能を理解する	課題曲を使用して個人でミックス作業を行う
11		講義・演習	プレイリストによるテイクの管理を理解する	レポート提出
12		講義・演習	MIDI機能の初段階を理解する	MIDI機能の初段階を理解する振り返りと自習
13		講義・演習	新規セッションからダビングまでのセッティング実技	これまでの授業を通じて学んだポイントをポートフォリオとしてまとめる
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	ProTools (1) (ProToos 101 (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	田中実
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	業界録音標準のアプリProToolsの機能と使用方法をマスターする						
到達目標	録音実習過程と並行してProToolsの機能とオペレーション方法を理解し、留まる事なくオペレート出来るようにする						
評価方法と基準	1)配布資料の補足レポート40% 2)定期テスト(実技)30% 3)出席率30% ProToolsでの録音、編集の基礎となるオペレーションができるようになる						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	Macとアプリの適正使用できるようにする	Macの適正使用、ファイル管理を出来るようにする振り返りと自習
2		講義・演習	セッション作成、セッション管理できるようにする	個人でセッションを作成、保存
3		講義・演習	ウインドウ構成、トランスポートを理解する	ウインドウ構成、トランスポートを理解する振り返りと自習
4		講義・演習	各種モードを理解する	各種モードを理解する振り返りと自習
5		講義・演習	各種ツールを理解する	各種ツールを理解する振り返りと自習
6		講義・演習	録音用トラックセッティングをできるようにする	録音用トラックセッティングをできるようにする振り返りと自習
7		講義・演習	セッションに音を取り込めるようにする	セッションに音を取り込めるようにする振り返りと自習
8		講義・演習	簡単な録音、編集をできるようにする	個人で録音セッションのセッティングを行う
9		講義・演習	トラックの構成、グループ管理などの機能を理解する	トラックの構成、ミックス機能を理解する振り返りと自習
10		講義・演習	ラフミックスを実際に行い、機能を理解する	課題曲を使用して個人でミックス作業を行う
11		講義・演習	プレイリストによるテイクの管理を理解する	レポート提出
12		講義・演習	MIDI機能の初段階を理解する	MIDI機能の初段階を理解する振り返りと自習
13		講義・演習	新規セッションからダビングまでのセッティング実技	これまでの授業を通じて学んだポイントをポートフォリオとしてまとめる
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	ProTools (2) (ProTools Basic (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	田中実
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	業界録音標準のアプリProToolsの機能と使用方法をマスターする						
到達目標	録音実習過程と並行してProToolsの機能とオペレーション方法を理解し、留まる事なくオペレート出来るようにする						
評価方法と基準	1) 配布資料の補足レポート40% 2) 定期テスト(実技)30% 3) 出席率30% ProToolsでの録音、編集の基礎となるオペレーションができるようになる						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ミックス時におけるプラグインを理解する	ミックス時におけるプラグインの振り返りと自習
2		講義・演習	サブグループ等高度なルーティン構成を理解する	サブグループ等高度なルーティン構成の振り返りと自習
3		講義・演習	マスターレベルのコントロール仕上げ方を理解する	マスターレベルのコントロール仕上げ方の振り返りと自習
4		講義・演習	実際にミックスを仕上げ、File化できるようにする	実際にミックスを仕上げ、File化の振り返りと自習
5		講義・演習	Voトラックのコンピング機能を理解する	Voトラックのコンピング機能の振り返りと自習
6		講義・演習	Voトラックのコンピングを出来るようにする	Voトラックのコンピングの振り返りと自習
7		講義・演習	2Mixでの編集プロセス、手法を理解する	2Mixでの編集プロセス、手法の振り返りと自習
8		講義・演習	実際にサイズ編集してFile完成させる	実際にサイズ編集してFileを作成する
9		講義・演習	テンポ検出を理解する	テンポ検出の振り返りと自習
10		講義・演習	テンポ管理、テンポ変更プロセスを理解する	テンポ管理、テンポ変更プロセスの振り返りと自習
11		講義・演習	キーの変更手順を理解する	キーの変更手順の振り返りと自習
12		講義・演習	テンポ、キーを管理したダビングセッション作成実技	テンポ、キーを管理したダビングセッション作成の振り返りと自習
13		講義・演習	Voダビングができる整合性の取れたセッションを完成する	これまでの授業を通じて学んだポイントをポートフォリオとしてまとめる
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	ProTools (2) (ProToos 101 (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	田中実
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	業界録音標準のアプリProToolsの機能と使用方法をマスターする						
到達目標	録音実習過程と並行してProToolsの機能とオペレーション方法を理解し、留まる事なくオペレート出来るようにする						
評価方法と基準	1) 配布資料の補足レポート40% 2) 定期テスト(実技)30% 3) 出席率30% ProToolsでの録音、編集の基礎となるオペレーションができるようになる						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ミックス時におけるプラグインを理解する	ミックス時におけるプラグインの振り返りと自習
2		講義・演習	サブグループ等高度なルーティン構成を理解する	サブグループ等高度なルーティン構成の振り返りと自習
3		講義・演習	マスターレベルのコントロール仕上げ方を理解する	マスターレベルのコントロール仕上げ方の振り返りと自習
4		講義・演習	実際にミックスを仕上げ、File化できるようにする	実際にミックスを仕上げ、File化の振り返りと自習
5		講義・演習	Voトラックのコンピング機能を理解する	Voトラックのコンピング機能の振り返りと自習
6		講義・演習	Voトラックのコンピングを出来るようにする	Voトラックのコンピングの振り返りと自習
7		講義・演習	2Mixでの編集プロセス、手法を理解する	2Mixでの編集プロセス、手法の振り返りと自習
8		講義・演習	実際にサイズ編集してFile完成させる	実際にサイズ編集してFileを作成する
9		講義・演習	テンポ検出を理解する	テンポ検出の振り返りと自習
10		講義・演習	テンポ管理、テンポ変更プロセスを理解する	テンポ管理、テンポ変更プロセスの振り返りと自習
11		講義・演習	キーの変更手順を理解する	キーの変更手順の振り返りと自習
12		講義・演習	テンポ、キーを管理したダビングセッション作成実技	テンポ、キーを管理したダビングセッション作成の振り返りと自習
13		講義・演習	Voダビングができる整合性の取れたセッションを完成する	これまでの授業を通じて学んだポイントをポートフォリオとしてまとめる
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	音響機器オペレート(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	田中実
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	レコーディングにおける作業内容の理解と学習、様々な機器の操作法をマスターし、技術と芸術性を身につけさせる						
到達目標	音響技術と知識の習得、作品の制作実習によってレコーディングエンジニアとして必要な機器の基本的な操作ができる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(筆記40% 実技60%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	機器名と基礎的な使用法の理解	機器名と基礎的な使用法の理解 振り返りと自習
2		講義・演習	機器名と基礎的な操作法の理解と習得	機器名と基礎的な操作法の理解と習得 振り返りと自習
3		講義・演習	コンソールの回線フローの説明と使用法習得	コンソールの回線フローの説明と使用法習得 振り返りと自習
4		講義・演習	コンソールのレコーディング及びミックスモード機能の説明と使用法習得	コンソールのレコーディング及びミックスモード機能の説明と使用法習得 振り返りと自習
5		講義・演習	コンソール各セクションの操作法習得	コンソール各セクションの操作法習得 振り返りと自習
6		講義・演習	ボーカル録音によるマイキング技術習得	ボーカル録音によるマイキング技術習得 振り返りと自習
7		講義・演習	ボーカル録音によるモニターバランス技術習得	ボーカル録音によるモニターバランス技術習得 振り返りと自習
8		講義・演習	ボーカル録音によるエフェクト処理技術習得	ボーカル録音によるエフェクト処理技術習得 振り返りと自習
9		講義・演習	ドラム録音によるマイキング技術習得	ドラム録音によるマイキング技術習得 振り返りと自習
10		講義・演習	ギター、ベース録音によるマイキング技術習得	ギター、ベース録音によるマイキング技術習得 振り返りと自習
11		講義・演習	ProToolsの編集法習得	ProToolsの編集法習得 振り返りと自習
12		講義・演習	前期テスト アウトボードの操作法習得	前期テスト アウトボードの操作法習得 振り返りと自習
13		講義・演習	ボーカル録音の実演を行なった総合技術習得	ボーカル録音の実演を行なった総合技術習得 振り返りと自習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			JAPRSテキストでの予習	
【使用教科書・教材・参考書】				
JAPRSテキスト 問題集				

科目名	音響機器オペレート(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	田中実
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	レコーディングにおける作業内容の理解と学習、様々な機器の操作法をアスターし、技術と芸術性を身につけさせる。						
到達目標	音響技術と知識の習得、作品の制作実習によってレコーディングエンジニアとして必要な機器の基本的な操作ができる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(筆記40% 実技60%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	MixDown時の機器の操作法習得	MixDown時の機器の操作法習得 振り返りと自習
2		講義・演習	MixDown実習による技術習得	MixDown実習による技術習得 振り返りと自習
3		講義・演習	MixDown時のサウンドメイクについて	MixDown時のサウンドメイクについて 振り返りと自習
4		講義・演習	MixDown時のアウトボード操作法習得	MixDown時のアウトボード操作法習得 振り返りと自習
5		講義・演習	MixDownのミックスバランスのテクニック習得	MixDownのミックスバランスのテクニック習得 振り返りと自習
6		講義・演習	MixDown課題曲①発表による制作実習(技術習得)	Mix課題曲①制作
7		講義・演習	MixDown課題曲②発表による制作実習(技術習得)	Mix課題曲②制作
8		講義・演習	MixDown課題曲③発表による制作実習(技術習得)	Mix課題曲③制作
9		講義・演習	MixDown課題曲④発表による制作実習(技術習得)	Mix課題曲④制作
10		講義・演習	MixDown課題曲⑤発表による制作実習(技術習得)	Mix課題曲⑤制作
11		講義・演習	MixDown課題曲⑥発表による制作実習(技術習得)	Mix課題曲⑥制作
12		講義・演習	試験による学習内容のまとめ	テスト
13		講義・演習	マスタリング実習による技術習得	マスタリング実習による技術習得 振り返りと自習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			JAPRSテキストでの予習	
【使用教科書・教材・参考書】				
JAPRSテキスト 問題集				

科目名	MaxプログラミングBasic (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	有馬知章
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	現在各方面で注目されているAIを音楽に導入するために必要な基本的な知識をMAXを使って学習します。AIで音楽を作るには、音楽理論、DTMの経験、MIDIの知識が不可欠です。まだ始まったばかりのこの分野においていち早く技術を習得し新しい音楽の専門家として活躍して欲しいです。Maxで音を出す、自動演奏させるなどの基本を学び、自分のアイデアを形にすることを重視します。音楽を数学的に考察します。						
到達目標	MAXの基本操作をマスターします。ソフトの起動から、オブジェクトの設定、MIDIの設定、プログラミングの基礎ができる。						
評価方法と基準	作品の提出・指定した企画の作品70%とオリジナル作品30%で評価します。授業での指示にしたがって作業することが重要です。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	コンピュータミュージックについて	授業内容を記録し復讐する
2		講義・演習	MAXの起動・設定	前回の授業内容を記録し復讐する
3		講義・演習	基本的な操作・ボタンの作成	前回の授業内容を記録し復讐する
4		講義・演習	MIDI関連の設定・オブジェクトの作成	前回の授業内容を記録し復讐する
5		講義・演習	自動演奏の作成	前回の授業内容を記録し復讐する
6		講義・演習	リズムボックスの作成 音を繰り返す	前回の授業内容を記録し復讐する
7		講義・演習	和音を演奏させる 数字で和音を表現	前回の授業内容を記録し復讐する
8		講義・演習	ランダムに音を繰り返す	前回の授業内容を記録し復讐する
9		講義・演習	PCのキーボードを鍵盤にする 1	前回の授業内容を記録し復讐する
10		講義・演習	課題作成	課題の指示を確認
11		講義・演習	課題作成・提出	指示に従って制作する
12		講義・演習	課題作成・提出	指示に従って制作する
13		講義・演習	課題最終提出	指示に従って制作する
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	MaxプログラミングBasic (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	有馬知章
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	現在各方面で注目されているAIを音楽に導入するために必要な基本的な知識をMAXを使って学習します。AIで音楽を作るには、音楽理論、DTMの経験、MIDIの知識が不可欠です。まだ始まったばかりのこの分野においていち早く技術を習得し新しい音楽の専門家として活躍して欲しいです。Maxで音を出す、自動演奏させるなどの基本を学び、自分のアイデアを形にすることを重視します。音楽を数学的に考察します。AbletonLiveが使用できない場合は、グラフィックと音楽の合成。						
到達目標	MAXの基本操作をマスターします。ソフトの起動から、オブジェクトの設定、MIDIの設定、プログラミングの基礎ができる。						
評価方法と基準	作品の提出・指定した企画の作品70%とオリジナル作品30%で評価します。授業での指示にしたがって作業することが重要です。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	MAXの基本操作確認	授業内容を記録し復讐する
2		講義・演習	counter sel metroの使用	前回の授業内容を記録し復讐する
3		講義・演習	Randomの使用 AI作曲	前回の授業内容を記録し復讐する
4		講義・演習	tempo、同期の設定	前回の授業内容を記録し復讐する
5		講義・演習	自動演奏の作成	前回の授業内容を記録し復讐する
6		講義・演習	今まで作ったファイルを合体させる	前回の授業内容を記録し復讐する
7		講義・演習	Abletonの設定	前回の授業内容を記録し復讐する
8		講義・演習	Abletonの設定	前回の授業内容を記録し復讐する
9		講義・演習	課題作成	前回の授業内容を記録し復讐する
10		講義・演習	課題作成	課題の指示を確認
11		講義・演習	課題作成・提出	指示に従って制作する
12		講義・演習	課題最終提出	指示に従って制作する
13		講義・演習	課題最終提出	指示に従って制作する
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	セルフプロデュースBasic(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	石井伸昂 高橋涼
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	スケジュールをもとに自分のなりたい職業に向かって制作し、作品を発表(配信)する。 レコーディングチームと制作を共にし、作品の完成に向けた準備やコミュニケーションを学習する。						
到達目標	オリジナル楽曲の作成。 チーム制作の学習。						
評価方法と基準	出席50%課題提出50% 自分で設定した制作スケジュールに対して確実に目標に向かって制作・学習できているか。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業説明・プロフィールシート作成	プロフィールシート作成
2		講義・演習	プロフィールシート・スケジュール作成	スケジュール作成
3		講義・演習	スケジュール作成スケジュールに沿った制作	楽曲の作成必要に応じてレコーディングチームの編成
4		講義・演習	スケジュールに沿った制作	楽曲の作成必要に応じてレコーディングチームの編成
5		講義・演習	スケジュールに沿った制作	楽曲の作成必要に応じてレコーディングチームの編成
6		講義・演習	スケジュールに沿った制作	楽曲の作成必要に応じてレコーディングチームの編成
7		講義・演習	スケジュールに沿った制作	楽曲の作成必要に応じてレコーディングチームの編成
8		講義・演習	スケジュールに沿った制作	楽曲の作成必要に応じてレコーディングチームの編成
9		講義・演習	スケジュールに沿った制作	楽曲の作成必要に応じてレコーディングチームの編成
10		講義・演習	スケジュールに沿った制作	楽曲の作成必要に応じてレコーディングチームの編成
11		講義・演習	スケジュールに沿った制作	楽曲の作成必要に応じてレコーディングチームの編成
12		講義・演習	作品の提出	作品の提出準備
13		講義・演習	長期休み明けの活動報告	後期に向けたスケジュールの確認
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	セルフプロデュースBasic(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	石井伸昂 高橋涼
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	スケジュールをもとに自分のなりたい職業に向かって制作し、作品を発表(配信)する。 レコーディングチームと制作を共にし、作品の完成に向けた準備やコミュニケーションを学習する。						
到達目標	オリジナル楽曲の作成。 チーム制作の学習。						
評価方法と基準	出席50%課題提出50% 自分で設定した制作スケジュールに対して確実に目標に向かって制作・学習できているか。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	スケジュールに沿った制作	楽曲の作成必要に応じてレコーディングチームの編成
2		講義・演習	スケジュールに沿った制作	楽曲の作成必要に応じてレコーディングチームの編成
3		講義・演習	スケジュールに沿った制作	楽曲の作成必要に応じてレコーディングチームの編成
4		講義・演習	スケジュールに沿った制作	楽曲の作成必要に応じてレコーディングチームの編成
5		講義・演習	スケジュールに沿った制作	楽曲の作成必要に応じてレコーディングチームの編成
6		講義・演習	スケジュールに沿った制作	楽曲の作成必要に応じてレコーディングチームの編成
7		講義・演習	スケジュールに沿った制作	楽曲の作成必要に応じてレコーディングチームの編成
8		講義・演習	スケジュールに沿った制作	楽曲の作成必要に応じてレコーディングチームの編成
9		講義・演習	スケジュールに沿った制作	楽曲の作成必要に応じてレコーディングチームの編成
10		講義・演習	スケジュールに沿った制作	楽曲の作成必要に応じてレコーディングチームの編成
11		講義・演習	スケジュールに沿った制作	楽曲の作成必要に応じてレコーディングチームの編成
12		講義・演習	作品の提出	作品の提出準備
13		講義・演習	授業内容まとめ及び活動成果の振り返り	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Art of K-POP(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	KYO-HEY
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ダンスヴォーカルとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。 ②ヴォーカルとダンスの科目に関係し、その両方を同時に行えるようになスキルを身につける。 ③自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドも含め学んで欲しい。 ④踊っても歌がブレない身体作りや両立させる為の体の使い方等を、作品作りを通して向上させる。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	・課題成果「出席・授業態度」:40%・実技試験:60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	個人目標設定を行う	設定した目標に対するアプローチを考える
2		講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (アイソレーション、ヒット、ウォークアウト)	次の講義までに復習を要する
3		講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (アイソレーション、ポップ、サイドスライド)	次の講義までに復習を要する
4		講義・演習	リズムとグループの仕組みを知る	次の講義までに復習を要する
5		講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (体重移動)	次の講義までに復習を要する
6		講義・演習	簡単な動きをつけた時の体の使い方(歌唱)を知る	次の講義までに復習を要する
7		講義・演習	簡単なステップをつけた時の体の使い方(歌唱)を知る	次の講義までに復習を要する
8		講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (リズムを意識して振り付けを行える)	次の講義までに復習を要する
9		講義・演習	振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを行う	次の講義までに復習を要する
10		講義・演習	ステージパフォーマンスの流れを知る	次の講義までに復習を要する
11		講義・演習	振り付け、構成付き歌唱パフォーマンスを行うことができる	次の講義までに復習を要する
12		講義・演習	試験	試験対策
13		講義・演習	試験総括(改善点を知る)	試験で出来なかった部分を復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持って来ること	
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、ワイヤレスマイク、ダミーマイク、キーボード、スニーカー				

科目名	Art of K-POP(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	KYO-HEY
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ダンスヴォーカルとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。 ②ヴォーカルとダンスの科目に関係し、その両方を同時に行えるようになスキルを身につける。 ③自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドも含め学んで欲しい。 ④踊っても歌がブレない身体作りや両立させる為の体の使い方等を、作品作りを通して向上させる。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	・課題成果「出席・授業態度」:40%・実技試験:60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	歌唱時の振付に対する体の使い方を理解する	次の講義までに復習を要する
2		講義・演習	リズムを持続したまま歌唱パフォーマンスが出来る	次の講義までに復習を要する
3		講義・演習	リズム＋グループを持続したまま歌唱パフォーマンスが出来る	次の講義までに復習を要する
4		講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる(アイソレーション、ポップ、フレックス)	次の講義までに復習を要する
5		講義・演習	ボディウェイブ初級が出来る	次の講義までに復習を要する
6		講義・演習	ボディウェイブ中級が出来る	次の講義までに復習を要する
7		講義・演習	歌唱パフォーマンス時の体のバランスを自分自身で整えることができる	次の講義までに復習を要する
8		講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる(アイソレーション、ストップ、エアポーズ)	次の講義までに復習を要する
9		講義・演習	自分で振り付け、ステージパフォーマンスを考えることができる	次の講義までに復習を要する
10		講義・演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを行うことができる	次の講義までに復習を要する
11		講義・演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める	次の講義までに復習を要する
12		講義・演習	試験	試験対策
13		講義・演習	試験総括(改善点を知る)	試験で出来なかった部分を復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持って来ること	
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、ワイヤレスマイク、ダミーマイク、キーボード、スニーカー				
東京スクールオブミュージック専門学校渋谷				

科目名	Self accompaniment(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	日高優貴
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	アコースティックギターを使用して自己表現を試みるシンガーソングライターをサポート 授業進行状況により作詞作曲のディレクション						
到達目標	自信を持って自作曲を表現できるようにする						
評価方法と基準	弾き語りに必要とされるアコースティックギターの演奏技術 平常点(受講姿勢、復習状況、出席率)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	講義1年間の説明。生徒のプレイアビリティ診断。	資料をもとに予習・復習・練習を要する
2		講義・演習	アコースティックギターに必要な道具の紹介、説明	資料をもとに予習・復習・練習を要する
3		講義・演習	作成した資料を用いてローポジションでのコード紹介	資料をもとに予習・復習・練習を要する
4		講義・演習	3コード紹介	資料をもとに予習・復習・練習を要する
5		講義・演習	ダイアトニックコード紹介、説明	資料をもとに予習・復習・練習を要する
6		講義・演習	ストローク紹介、説明	資料をもとに予習・復習・練習を要する
7		講義・演習	カポタスト使用方法や目的を説明	資料をもとに予習・復習・練習を要する
8		講義・演習	アルペジオ奏法を紹介、説明	資料をもとに予習・復習・練習を要する
9		講義・演習	指弾きについて1	資料をもとに予習・復習・練習を要する
10		講義・演習	指弾きについて2	資料をもとに予習・復習・練習を要する
11		講義・演習	選択した楽曲演奏1	資料をもとに予習・復習・練習を要する
12		講義・演習	選択した楽曲演奏2	資料をもとに予習・復習・練習を要する
13		講義・演習	選択した楽曲演奏3	資料をもとに予習・復習・練習を要する
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
teamsにて共有				

科目名	Self accompaniment(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	日高優貴
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	アコースティックギターを使用して自己表現を試みるシンガーソングライターをサポート 授業進行状況により作詞作曲のディレクション						
到達目標	自信を持って自作曲を表現できるようにする						
評価方法と基準	弾き語りに必要とされるアコースティックギターの演奏技術 平常点(受講姿勢、復習状況、出席率)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを 実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを 実践、確認動画でチェックする。
2		講義・演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを 実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを 実践確認動画でチェックする。
3		講義・演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォー マンスが実践できる。	リズム＋グループを意識した歌唱パフォー マンスが実践確認動画でチェックする。
4		講義・演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォー マンスが実践できる。	リズム＋グループを意識した歌唱パフォー マンスが実践確認動画でチェックする。
5		講義・演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画で チェックする。
6		講義・演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画で チェックする。
7		講義・演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画で チェックする。
8		講義・演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画で チェックする。
9		講義・演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践で きる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確 認動画でチェックする。
10		講義・演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践で きる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確 認動画でチェックする。
11		講義・演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パ フォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パ フォーマンスを実践確認動画でチェックする。
12		講義・演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パ フォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パ フォーマンスを実践確認動画でチェックする。
13		講義・演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践 する	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践 確認動画でチェックする。
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	DJワークショップ（1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	U.D.
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 （単位）	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	本授業では、DJの基礎知識および機材操作を学び、音楽の構造理解を深めながら、実践的な操作スキルの習得を目指す。具体的には、DJ機材（デッキ・ミキサー）の基本操作、DJソフトの使用方法、楽曲の再生・頭出し（CUE）の技術を習得する。また、BPMや拍（4拍子）、フレーズ（8小節・16小節）といった音楽の基本構造を理解し、波形の視覚情報と聴覚の両面から楽曲を分析する力を養う。さらに、2曲の同時再生を通して、次段階のミックス技術につながる基礎的な感覚を身につける。						
到達目標	本授業終了時に、受講者は以下を達成できることを目標とする。 DJの基本的な役割および機材構成を説明できる DJ機材およびソフトを用いて、楽曲の再生・停止・CUE操作ができる BPMや拍の概念を理解し、リズムに合わせて楽曲を扱うことができる 楽曲の構造（イントロ・フレーズ等）を理解し、適切なタイミングで再生できる						
評価方法と基準	実技テストによる採点と授業出席率の平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	DJとは何か／授業説明／デモを見る	音楽を聴きながら「DJっぽい曲のつながり」を意識する
2		講義・演習	機材の名前と役割(デッキ・ミキサー)	DJ機材の画像や動画を見る(コントローラーの全体像を把握)
3		講義・演習	再生・停止・CUE操作	好きな曲を1曲選び、何秒から始まるか確認する
4		講義・演習	ヘッドホンの使い方(キューイング)	普段の音楽視聴で「次に来る展開」を予測する
5		講義・演習	DJソフトの基本操作(曲読み込み)	使用ソフトをインストール(または画面を見る)
6		講義・演習	BPMとは何か／テンポの違い	好きな曲のテンポの速い・遅いを比べる
7		講義・演習	拍の数え方(4拍子・リズム)	曲に合わせて「1・2・3・4」と手でリズムを取る
8		講義・演習	曲の構造(イントロ・サビなど)	曲の「サビ・静かな部分」をメモする
9		講義・演習	フレーズ(8小節・16小節)理解	曲を聴きながら8拍ごとに区切ってみる
10		講義・演習	波形の見方(視覚で曲を読む)	DJソフトや動画で波形表示を観察する
11		講義・演習	頭出し練習(フレーズ頭で再生)	曲の最初のリズムが始まる位置を探す
12		講義・演習	2曲同時再生の体験(つなぎ前段階)	つなげてみたい曲を2曲選ぶ
13		講義・演習	まとめ／ミニ実技(1人1曲操作)	発表用の曲を1曲決めて聴き込む
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	DJワークショップ（2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	U.D.
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 （単位）	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	DJワークショップ（1）で習得した機材操作および楽曲理解を基に、楽曲同士をつなぐ「ミックス技術」の基礎を学ぶ。BPMの調整（SYNC機能および手動調整）、クロスフェーダー操作、フレーズを意識したタイミングでの楽曲切り替えを習得する。また、EQ（LOW／MID／HIGH）を活用し、音の重なりを整理しながら自然なミックスを行う。						
到達目標	BPMを合わせて楽曲を同期させることができる クロスフェーダーを用いて2曲をつなげることができる フレーズを意識したタイミングで楽曲を切り替えられる EQを用いて音の重なりを調整できる 2～3曲の連続ミックスができる						
評価方法と基準	実技テストによる採点と授業出席率の平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ミックスとは何か／デモ	DJミックス動画を1本見る
2		講義・演習	SYNC機能でつなぐ	同じテンポっぽい曲を2曲探す
3		講義・演習	クロスフェーダー操作	曲の音量変化に注目して聴く
4		講義・演習	タイミング合わせ(フレーズ)	曲の入りを意識して聴く
5		講義・演習	2曲ミックス実習①	つなぎたい2曲を持参
6		講義・演習	ピッチ操作(BPM調整)	テンポ差のある曲を探す
7		講義・演習	手動ビートマッチ基礎	リズムに合わせて手拍子
8		講義・演習	手動ミックス実習	同ジャンルの曲を選ぶ
9		講義・演習	EQ基礎(LOW)	低音に意識して聴く
10		講義・演習	EQミックス	音の重なりを意識して聴く
11		講義・演習	安定したミックス	3曲選曲
12		講義・演習	通し練習	セット練習(自宅でイメージ)
13		講義・演習	ミニ発表	発表曲の最終確認
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Self Recording(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	高橋涼
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ヴォーカリスト・演奏者が活動に使用する作品を自力で録音できる技術の獲得 ○自身の歌唱・演奏を自身で録音し、プロモーションに使用する宣伝材料を作成する技術の獲得 ○レコーディングスタジオ標準のDAW「ProTools」の基本操作の習得 ○レコーディングを経て、ディレクター・プロデューサーとのコミュニケーションを学ぶ						
到達目標	○ProTools基本操作の習得 ○セルフレコーディング=宅録技術の習得 ○必要に応じた編集・ミックス・簡易マスタリングの習得						
評価方法と基準	○出席率重視(学校規定出席率の達成度合い) ○各自授業課題の提出 ○各生徒の目標に応じた成果物のチェック(アーティストであれば事務所提出用ポートフォリオ。ネットアーティストであれば自身のチャンネル投稿用の作品)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介・授業説明・機材紹介	用語・操作の復習
2		講義・演習	ProTools基本操作①	用語・操作の復習
3		講義・演習	ProTools基本操作②	用語・操作の復習
4		講義・演習	ProTools基本操作③	用語・操作の復習
5		講義・演習	ProTools基本操作④	用語・操作の復習
6		講義・演習	I/Oを用いた録音①	用語・操作の復習
7		講義・演習	I/Oを用いた録音②	用語・操作の復習
8		講義・演習	MIDI・インストゥルメントの学習①	用語・操作の復習
9		講義・演習	MIDI・インストゥルメントの学習②	用語・操作の復習
10		講義・演習	レコーディングに向けたショートカット・時短操作	用語・操作の復習
11		講義・演習	レコーディングに必要なもの①	用語・操作の復習
12		講義・演習	レコーディングに必要なもの②	用語・操作の復習
13		講義・演習	前期振り返り学習・前期総括	用語・操作の復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Self Recording(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	高橋涼
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	○セルフレコーディング(1)で習得した基本操作を基に、録音から編集への発展的な制作技術の習得 ○DAW(Pro Tools等)を用いたオーディオ編集(カット・フェード等)の基本技術の習得 ○複数トラックを用いた録音と簡易ミックスの基礎理解 ○マイク録音・ライン録音の違いや適切な録音方法の理解 ○完成度を高めるための音の整理やバランス調整の基礎を学ぶ						
到達目標	○DAW上で録音した音源の基本的な編集ができる ○複数トラックを管理しながら録音・再生ができる ○音量バランスを調整し簡易的なミックスができる ○録音環境や収録方法の違いを理解し、適切に選択できる ○簡単な音源作品(1曲またはデモ音源)を完成させることができる						
評価方法と基準	○出席率重視(学校規定出席率の達成度合い) ○各自授業課題の提出 ○各生徒の目標に応じた成果物のチェック(アーティストであれば事務所提出用ポートフォリオ。ネットアーティストであれば自身のチャンネル投稿用の作品)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前回復習／編集の全体像	前期内容の復習
2		講義・演習	オーディオ編集①(カット・分割)	音源をよく聴く
3		講義・演習	オーディオ編集②(フェード)	音のつながりを意識
4		講義・演習	ノイズ処理・整音基礎	ノイズのある音を探す
5		講義・演習	複数トラック管理	複数音を意識して聴く
6		講義・演習	マルチトラック録音①	録音したい素材を検討
7		講義・演習	マルチトラック録音②	素材準備
8		講義・演習	ミックス基礎(音量バランス)	音量差に注目
9		講義・演習	パンニング基礎	左右の広がりを意識
10		講義・演習	簡易エフェクト(EQなど)	音の違いを聴く
11		講義・演習	簡易ミックス制作	制作素材を選ぶ
12		講義・演習	制作・調整	ミックスイメージ整理
13		講義・演習	まとめ・成果発表	最終確認
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	企画プロデュース・プラクティス ワークショップ 1 (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	片桐豊
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴	ラジオ局で番組やイベント・コンサート等、そして芸能事務所でファンイベントや演劇等、30年以上に渡り、様々な企画制作に携わっている。						
授業の学習 内容	エンタメ業界(社会)は、仕事やプロジェクトを遂行する上で、様々な職業の方達が関わっており、それぞれの職種やポジションで多様な役割を担い、その役割を果たすことで成立しています。この授業では、仕事や就職に対して近視眼的かつ短絡的に考えがちな学生たちの視野を広げ、大局を洞察しながら自分が携わっているプロジェクトの中で、全体の成功を目指して自分の役割を果たしていけるよう、多様な視点や深い洞察を持つためのヒントを教授、さらには業界の歴史や仕組みなど、上の世代の先輩たちと働く上で必要な心構えも伝授します。また、学生が提案するアイデアを元に学科横断的なオーガナイズやプロデュースワークを実践するイベント制作を行い、ゼロから1を生み出す楽しさや、やり遂げることの充実感を体感し、そうした経験から学生自身の将来目標の選択肢や可能性を広げる場とする。						
到達目標	これまで知らなかった職種の存在や立場を認識し、業界の全体像を理解できるようになる。 企画書や台本の文章の文脈から行間を読み取り、作り手の意図やターゲットに対する訴求ポイントを考察できるようになる。 自分の意思やアイデアを言語化し、他者に伝えるように説明できるようになる。(コミュニケーション・プレゼンスキルの向上) 独善的な行動ではなく、他者の意見を尊重しチームとして協調しながらアジェンダ(課題)に取り組めるようになる。 対外的あるいは社会への影響も意識した俯瞰的視点を持ちながら、目の前の課題に取り組めるようになる。 日本や世界の歴史、宗教やイデオロギーも含め、これからの時代のエンタメを生み出すために世の中のことに興味を持てるようになる。						
評価方法と基準	■出席率:50%(勤勉さ、持続性、基礎体力) ■受講態度:25% (アイデアや協調性、質問力、キャラクターなどを含む人間性) ■到達目標に対する達成度:25%(業務遂行スキル)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業ガイダンス／自己紹介(講師＆各生徒)	現時点での将来目標を語れるようにしておく
2		講義・演習	エンタメ業界の仕事概論 番組やコンサート、イベントに関わる職種と役割	ライブやコンサート、舞台等のパンフレットのなもの(スタッフクレジット掲載)を見つけてみる
3		講義・演習	文章や台本を読み解く(考察・分析する)ために	自分が得意な分野、苦手な分野を認識しておく
4		講義・演習	学校内定番イベントを企画しよう 企画の発想の仕方と企画書の書き方	企画考案にむけての疑問点・質問を考えておく
5		講義・演習	今注目しているエンタメコンテンツとその魅力の考察	好きなコンテンツを選び、その魅力について言語化、分析説明する準備をしておく
6		講義・演習	企画プレゼン① 生徒が考えたイベント企画の発表	学内定番イベントの企画考案
7		講義・演習	企画プレゼン② 生徒が考えたイベント企画の発表	学内定番イベントの企画考案
8		講義・演習	企画会議 提案された企画のブラッシュアップミーティング	他者の企画へのプラスアイデアの検討
9		講義・演習	企画会議 実施プラン検討・実現に向けた留意点	実施に向けた疑問点を挙げておく
10		講義・演習	実施プランの決定と役割分担 担当業務における課題の共有	学校各所への相談調整
11		講義・演習	企画遂行経過報告とアドバイス、意見交換 ●業界考察(メディアと芸能プロの関係)	学校各所や対外的な交渉、役割ごとの準備
12		講義・演習	企画実施に向けた段階チェックと広報計画 ●業界考察(SNSとの関わり方)	学校HP等での宣伝活動
13		講義・演習	企画遂行経過報告とアドバイス、意見交換 ●業界考察(エンタメ業界と広告企業の関係)	学校各所や対外的な交渉、役割ごとの準備
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	企画プロデュース・プラクティス ワークショップ 1 (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	片桐豊
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴	ラジオ局で番組やイベント・コンサート等、そして芸能事務所でファンイベントや演劇等、30年以上に渡り、様々な企画制作に携わっている。						
授業の学習 内容	エンタメ業界(社会)は、仕事やプロジェクトを遂行する上で、様々な職業の方達が関わっており、それぞれの職種やポジションで多様な役割を担い、その役割を果たすことで成立しています。この授業では、仕事や就職に対して近視眼的かつ短絡的に考えがちな学生たちの視野を広げ、大局を洞察しながら自分が携わっているプロジェクトの中で、全体の成功を目指して自分の役割を果たしていけるよう、多様な視点や深い洞察を持つためのヒントを教授、さらには業界の歴史や仕組みなど、上の世代の先輩たちと働く上で必要な心構えも伝授します。また、学生が提案するアイデアを元に学科横断的なオーガナイズやプロデュースワークを実践するイベント制作を行い、ゼロから1を生み出す楽しさや、やり遂げることの充実感を体感し、そうした経験から学生自身の将来目標の選択肢や可能性を広げる場とする。						
到達目標	これまで知らなかった職種の存在や立場を認識し、業界の全体像を理解できるようになる。 企画書や台本の文章の文脈から行間を読み取り、作り手の意図やターゲットに対する訴求ポイントを考察できるようになる。 自分の意思やアイデアを言語化し、他者に伝わるように説明できるようになる。(コミュニケーション・プレゼンスキルの向上) 独善的な行動ではなく、他者の意見を尊重しチームとして協調しながらアジェンダ(課題)に取り組めるようになる。 対外的あるいは社会への影響も意識した俯瞰的視点を持ちながら、目の前の課題に取り組めるようになる。 日本や世界の歴史、宗教やイデオロギーも含め、これからの時代のエンタメを生み出すために世の中のことに興味を持てるようになる。						
評価方法と基準	■出席率:50%(勤勉さ、持続性、基礎体力) ■受講態度:25% (アイデアや協調性、質問力、キャラクターなどを含む人間性) ■到達目標に対する達成度:25%(業務遂行スキル)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	イベント実施を受けての反省会	夏休み期間にイベント実施
2		講義・演習	学校内定番イベントを企画しよう 企画の発想の仕方と企画書の書き方	企画考案にむけての疑問点・質問を考えておく
3		講義・演習	今注目しているエンタメコンテンツとその魅力の考察	好きなコンテンツを選び、その魅力について言語化、分析説明する準備をしておく
4		講義・演習	企画プレゼン① 生徒が考えたイベント企画の発表	学内定番イベントの企画考案
5		講義・演習	企画プレゼン② 生徒が考えたイベント企画の発表	学内定番イベントの企画考案
6		講義・演習	企画会議 提案された企画のブラッシュアップミーティング	他者の企画へのプラスアイデアの検討
7		講義・演習	企画会議 実施プラン検討・実現に向けた留意点	実施に向けた疑問点を挙げておく
8		講義・演習	実施プランの決定と役割分担 担当業務における課題の共有	学校各所への相談調整
9		講義・演習	企画遂行経過報告とアドバイス、意見交換 ●業界考察(メディアと芸能プロの関係)	学校各所や対外的な交渉、役割ごとの準備
10		講義・演習	企画実施に向けた段階チェックと広報計画 ●業界考察(SNSとの関わり方)	学校HP等での宣伝活動
11		講義・演習	企画遂行経過報告とアドバイス、意見交換 ●業界考察(エンタメ業界と広告企業の関係)	学校各所や対外的な交渉、役割ごとの準備
12		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ①	レポート提出
13		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ①	レポート提出
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ②	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ②	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	プリプロダクションゼミ(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	勝守理
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	実際にクライアントさんから発注を頂いた案件を少人数のグループを組み試行錯誤しながら政策を進めていき作品を完成させる。						
到達目標	発注を頂いたクライアントさんからの採用をコンペで勝ち取る作品を作る。その過程の中で今の音楽業界で本当に必要とされる制作能力、プロデュース能力、作曲能力、作詞能力、編曲能力、グループワークの実践力、コミュニケーション能力、などを身につける。						
評価方法と基準	3回のコンペの成績(優勝、準優勝、佳作、提出、未提出)+夏休み課題提出の合計点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業内容ガイダンス、第1クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
2		講義・演習	第1クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
3		講義・演習	第1クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業
4		講義・演習	第1クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業
5		講義・演習	第1クールコンペ、第2クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
6		講義・演習	第2クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
7		講義・演習	第2クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業
8		講義・演習	第2クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業
9		講義・演習	第2クールコンペ、第3クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
10		講義・演習	第3クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
11		講義・演習	第3クール実習2	コンペに向けて録音、ミックス、マスタリング作業
12		講義・演習	第3クールコンペ、夏休み課題発注、チーム分け	夏休み課題制作
13		講義・演習	夏休み課題発表	作品の管理とまとめ
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各課題に取り組む	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	プリプロダクションゼミ(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	勝守理
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	実際にクライアントさんから発注を頂いた案件を少人数のグループを組み試行錯誤しながら政策を進めていき作品を完成させる。						
到達目標	発注を頂いたクライアントさんからの採用をコンペで勝ち取る作品を作る。その過程の中で今の音楽業界で本当に必要とされる制作能力、プロデュース能力、作曲能力、作詞能力、編曲能力、グループワークの実践力、コミュニケーション能力、などを身につける。						
評価方法と基準	3回のコンペの成績(優勝、準優勝、佳作、提出、未提出)+春休み課題提出の合計点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	第4クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
2		講義・演習	第4クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
3		講義・演習	第4クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業
4		講義・演習	第4クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業
5		講義・演習	第4クールコンペ、第5クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
6		講義・演習	第5クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
7		講義・演習	第5クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業
8		講義・演習	第5クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業
9		講義・演習	第5クールコンペ、第6クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
10		講義・演習	第6クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
11		講義・演習	第6クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業
12		講義・演習	第6クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業
13		講義・演習	第6クールコンペ、春休み課題発注、チーム分け	作品の管理とまとめ
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各課題に取り組む	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	作詞基礎 (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇津本直 紀
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽曲制作のプロセス、作曲理論と実践、作詞理論と実践、劇伴音楽の作曲と制作、クリエイティブの方法論、トータルプロデュースから見た楽曲の役割を学ぶ。 課題を随時提出して「楽曲デモ」のクオリティーの向上をはかる。						
到達目標	映画・アニメ・ドラマ・ゲームで使用され、メジャーリリースされるクオリティーの楽曲の作詞・作曲・編曲・デモ制作ができるだけの知識とスキルの修得。						
評価方法と基準	定期テスト(筆記40% 実技60%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	作詞作曲概論、本ゼミの講義全体の流れ	作詞作曲概論、本ゼミの講義全体の流れについて振り返りレポートをまとめる。
2		講義・演習	作詞・作曲の目的と目標とプロセス① 日本の音楽業界における作詞作曲の役割口	作詞・作曲の目的と目標とプロセス① 日本の音楽業界における作詞作曲の役割について振り返りレポートをまとめる。
3		講義・演習	作詞・作曲の目的と目標とプロセス② 日本の音楽業界における作詞・作曲の実際の流れ	作詞・作曲の目的と目標とプロセス② 日本の音楽業界における作詞・作曲の実際の流れについて振り返りレポートをまとめる。
4		講義・演習	作詞・作曲の目的と目標とプロセス③ 誰のために作詞・作曲をするのか？	作詞・作曲の目的と目標とプロセス③ 誰のために作詞・作曲をするのか？について振り返りレポートをまとめる。
5		講義・演習	作曲理論①コード・Keyとは？コードとは？ ベースラインとは？	作曲理論①コード・Keyとは？コードとは？ベース ラインとは？について振り返りレポートをまとめる。
6		講義・演習	作曲理論②コード・基本的なコードの構成音	作曲理論②コード・基本的なコードの構成音 について振り返りレポートをまとめる。
7		講義・演習	作曲理論③応用的なコード・特殊なコードの 構成音、およびテンション	作曲理論③応用的なコード・特殊なコードの構成音、およ びテンションについて振り返りレポートをまとめる。
8		講義・演習	作曲理論④メロディーあるいはモチーフのつくり方	作曲理論④メロディーあるいはモチーフのつくり方について 振り返りレポートをまとめる。
9		講義・演習	作曲理論⑤劇伴について	作曲理論⑤劇伴について振り返りレポートをまとめる。
10		講義・演習	楽曲分析の方法 すべてのコードを「Ckey」に直して、相対的なコードとして楽曲を 分析する方法を学びます。	楽曲分析の方法 すべてのコードを「Ckey」に直して、相対的なコードとして楽曲を 分析する方法について振り返りレポートをまとめる。
11		講義・演習	楽曲分析をみんなで実際にやってみる 前週学んだ楽曲分析の方法をつかってみんなで実際に楽曲を分析してみま す。また、楽曲分析の課題を指示します。	楽曲分析をみんなで実際にやってみる 楽曲分析の課題に対して、レポートをまとめる。
12		講義・演習	楽曲分析の個別指導	次回テストに向けたデモ楽曲の制作
13		講義・演習	定期テスト	テスト復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	作詞基礎 (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇津本直 紀
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽曲制作のプロセス、作曲理論と実践、作詞理論と実践、劇伴音楽の作曲と制作、クリエイティブの方法論、トータルプロデュースから見た楽曲の役割を学ぶ。 課題を随時提出して「楽曲デモ」のクオリティーの向上をはかる。						
到達目標	映画・アニメ・ドラマ・ゲームで使用され、メジャーリリースされるクオリティーの楽曲の作詞・作曲・編曲・デモ制作ができるだけの知識とスキルの修得。						
評価方法と基準	定期テスト(筆記40% 実技60%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	作詞作曲概論、本ゼミの講義全体の流れ	作詞作曲概論、本ゼミの講義全体の流れについて振り返りレポートをまとめる。
2		講義・演習	作詞・作曲の目的と目標とプロセス① 日本の音楽業界における作詞作曲の役割口	作詞・作曲の目的と目標とプロセス① 日本の音楽業界における作詞作曲の役割について振り返りレポートをまとめる。
3		講義・演習	作詞・作曲の目的と目標とプロセス② 日本の音楽業界における作詞・作曲の実際の流れ	作詞・作曲の目的と目標とプロセス② 日本の音楽業界における作詞・作曲の実際の流れについて振り返りレポートをまとめる。
4		講義・演習	作詞・作曲の目的と目標とプロセス③ 誰のために作詞・作曲をするのか？	作詞・作曲の目的と目標とプロセス③ 誰のために作詞・作曲をするのか？について振り返りレポートをまとめる。
5		講義・演習	作曲理論①コード・Keyとは？コードとは？ ベースラインとは？	作曲理論①コード・Keyとは？コードとは？ベース ラインとは？について振り返りレポートをまとめる。
6		講義・演習	作曲理論②コード・基本的なコードの構成音	作曲理論②コード・基本的なコードの構成音 について振り返りレポートをまとめる。
7		講義・演習	作曲理論③応用的なコード・特殊なコードの 構成音、およびテンション	作曲理論③応用的なコード・特殊なコードの構成音、およ びテンションについて振り返りレポートをまとめる。
8		講義・演習	作曲理論④メロディーあるいはモチーフのつ くり方	作曲理論④メロディーあるいはモチーフのつ くり方について振り返りレポートをまとめる。
9		講義・演習	作曲理論⑤劇伴について	作曲理論⑤劇伴について振り返りレポートを まとめる。
10		講義・演習	楽曲分析の方法 すべてのコードを「Ckey」に直して、相対的なコードとして楽曲を分析する方 法を学びます。	楽曲分析の方法 すべてのコードを「Ckey」に直して、相対的なコードとして楽曲を分析する方 法について振り返りレポートをまとめる。
11		講義・演習	楽曲分析をみんなで実際にやってみる 前週学んだ楽曲分析の方法をつかってみんなで実際に楽曲を分析してみま す。また、楽曲分析の課題を指示します。	楽曲分析をみんなで実際にやってみる 楽曲分析の課題に対して、レポートをまとめる。
12		講義・演習	楽曲分析の個別指導	次回テストに向けたデモ楽曲の制作
13		講義・演習	楽曲分析の個別指導・作曲スキルのまとめ	楽曲分析の個別指導・作曲スキルのまとめに ついて振り返り、レポートをまとめる。
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	音響基礎知識(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	田中実
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	レコーディングエンジニアとしての技術的な知識だけでなく、音響理論、スタジオアコースティック、楽器や楽譜などの音楽的な知識を総合的に身につけさせる。						
到達目標	日本音楽スタジオ協会が行うサウンドレコーディング技術認定試験に向けての音響技術と知識の習得を目指す						
評価方法と基準	1) 定期テスト(筆記60% 実技40%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	音についての基礎的な知識習得	音についての基礎的な知識習得 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
2		講義・演習	音の伝達 基礎知識学習	音の伝達 基礎知識学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
3		講義・演習	音響物理 基礎知識学習	音響物理 基礎知識学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
4		講義・演習	音響物理 基礎知識学習	音響物理 基礎知識学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
5		講義・演習	電気の基礎知識学習	電気の基礎知識学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
6		講義・演習	スタジオ設計の理解	スタジオ設計の理解 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
7		講義・演習	スタジオシステム 機器の学習	スタジオシステム 機器の学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
8		講義・演習	マイクロフォンの構造機能学習	マイクロフォンの構造機能学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
9		講義・演習	調整卓 回路の基礎知識学習	調整卓 回路の基礎知識学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
10		講義・演習	アウトボードの使用法学習	アウトボードの使用法学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
11		講義・演習	アナログ機器の調整法学習	アナログ機器の調整法学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
12		講義・演習	オーケストラの録音法学習	オーケストラの録音法学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
13		講義・演習	ボーカルレコーディング実習	ボーカルレコーディング実習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			JAPRSテキストでの予習	
【使用教科書・教材・参考書】				
JAPRSテキスト 問題集				

科目名	音響基礎知識(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	田中実
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	レコーディングエンジニアとしての技術的な知識だけでなく、音響理論、スタジオアコースティック、楽器や楽譜などの音楽的な知識を総合的に身につけさせる。						
到達目標	日本音楽スタジオ協会が行うサウンドレコーディング技術認定試験に向けての音響技術と知識の習得を目指す						
評価方法と基準	1) 定期テスト(筆記60% 実技40%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ドラムレコング法を習得	ドラムレコング法を習得 振り返りと自習
2		講義・演習	PloToolsの操作法を習得	PloToolsの操作法を習得 振り返りと自習
3		講義・演習	MixDownについての知識と理解、セッティングの重要性和方法について	MixDownについての知識と理解、セッティングの重要性和方法について、振り返りと自習
4		講義・演習	MixDownについての知識と理解、MixDownのフローについて	MixDownについての知識と理解、MixDownのフローについて、振り返りと自習
5		講義・演習	音楽素材の編集技術の習得	音楽素材の編集技術の習得 振り返りと自習
6		講義・演習	マスタリングの技術習得	マスタリングの技術習得 振り返りと自習
7		講義・演習	様々な楽器の録音技術習得	様々な楽器の録音技術習得 振り返りと自習
8		講義・演習	音楽理論と楽器の録音法習得	音楽理論と楽器の録音法習得 振り返りと自習
9		講義・演習	テキストのまとめによる復習	テキストのまとめによる復習 振り返りと自習
10		講義・演習	MixDown実習によるコンプレッサー処理の技術習得	MixDown実習によるコンプレッサー処理の技術習得 振り返りと自習
11		講義・演習	MixDown実習によるイコライザー処理の技術習得	MixDown実習によるイコライザー処理の技術習得 振り返りと自習
12		講義・演習	試験による学習内容のまとめ	試験による学習内容のまとめ 振り返りと自習
13		講義・演習	MixDown実習による空間表現の技術習得	MixDown実習による空間表現の技術習得 振り返りと自習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			JAPRSテキストでの予習	
【使用教科書・教材・参考書】				
JAPRSテキスト 問題集				

科目名	Music Theory (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	北澤由佳
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。 本講義では音楽理論の基礎から応用までをしっかりと理解し、実際に表現に繋げていけるよう学んで行く。						
到達目標	楽曲分析ができるようになり、実際にオリジナル曲作曲や楽曲アレンジができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	楽譜の歴史、五線譜、クレフを理解し説明できる。音名を理解し言える。	五線譜の各部名称とクレフ、音名を復習しレポート作成五線に書かれた音符の音名と鍵盤の位置が一致出来るように復習復習しレポート作成
2		講義・演習	音名、音符、休符を理解し言える。音符、休符を理解し説明できる。	音名、音符、休符の表し方と連符を復習しレポート作成、音符、休符の表し方と連符を復習しレポート作成
3		講義・演習	拍子、複合拍子を理解し説明できる。記譜法、臨時記号を理解し説明できる。	小節線、単純拍子、複合・混合拍子、タイについて復習しレポート作成
4		講義・演習	反復記号を理解し説明できる。音程を理解し説明できる。	調号と臨時記号の区別、臨時記号の効力を学び正しい楽譜が書けるよう復習しレポート作成、反復記号を学び、音源を聴き楽譜を追えるよう復習しレポート作成
5		講義・演習	音程を理解し説明できる。音程を理解し説明できる。	音程(度数の数え方、全音と半音)を復習しレポート作成、音程(2.3.6.7度、＃＼あり)を復習しレポート作成
6		講義・演習	メジャースケールを理解し説明できる。	メジャースケールの仕組みを復習し、復習しレポート作成、5度圏を用い、調号を用いてスケールを書けるようにし、実際に歌ったり楽器で復習しレポート作成
7		講義・演習	マイナースケールを理解し説明できる。	調号を用いてナチュラルマイナースケールを復習しレポート作成、ハーモニクマイナー、メロディックマイナースケールを復習しレポート作成
8		講義・演習	スコアリーディングを理解し説明できる。中間テスト	総復習をし、理解度を高めレポート作成
9		講義・演習	奏法を理解しその説明ができる。近親調を理解しその説明ができる	省略記号、奏法記号、装飾記号を復習しレポート作成、それぞれの調の関係性を理解し復習しレポート作成
10		講義・演習	移調を理解しその説明ができる、トライアドを理解しその説明ができる	五線を用いて移調を理解し復習しレポート作成、コードの概念とトライアドの構造をを理解し復習しレポート作成
11		講義・演習	7thコードを理解しその説明ができる、7thコードの復習とdim7を理解しその説明ができる	トライアドの知識を踏まえ、7thコードに発展させることが出来るようにしを理解し復習しレポート作成、トライアド、7thコード、dimコードの構造をを理解し復習しレポート作成
12		講義・演習	転回形を理解しその説明ができる、その他のコードを理解しその説明ができる	転回形の表記方法を復習し、G-clefでの簡単なヴォイシングが出来るように理解し復習、add9、sus4、6thコードを復習し実際に弾いてを理解し復習しレポート作成
13		講義・演習	テンションを理解しその説明ができる	9th、11th、13thのテンションコードをを理解し復習しレポート9th、11th、13thのテンションコードをを理解し復習しレポート作成
14		講義・演習	スコアリーディングを理解しその説明ができる、まとめ、期末予備テスト	総復習をし、を理解し復習しレポート作成、復習、テスト対策を行い期末テストに備える
15		講義・演習	期末テスト、総復習	復習、テスト対策を行い期末テストに備える
準備学習 時間外学習			前回までの内容をワークを使って復習、次の内容に備える	
【使用教科書・教材・参考書】				
ゼロから始める音楽理論」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行) 株式会社滋慶教育事業部				
東京スクールオブミュージック専門学校渋谷				

科目名	Music Theory (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	北澤由佳
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。 本講義では音楽理論の基礎から応用までをしっかりと理解し、実際に表現に繋げていけるよう学んで行く。						
到達目標	楽曲分析ができるようになり、実際にオリジナル曲作曲や楽曲アレンジができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	楽譜の歴史、五線譜、クレフを理解し説明できる。	五線譜の各部名称とクレフ、音名を復習しレポート作成
2		講義・演習	音名を理解し言える。	五線に書かれた音符の音名と鍵盤の位置が一致出来るように復習復習しレポート作成
3		講義・演習	音名、音符、休符を理解し言える。	音名、音符、休符の表し方と連符を復習しレポート作成
4		講義・演習	音符、休符を理解し説明できる。	音符、休符の表し方と連符を復習しレポート作成
5		講義・演習	拍子、複合拍子を理解し説明できる。	小節線、単純拍子、複合・混合拍子、タイについて復習しレポート作成
6		講義・演習	記譜法、臨時記号を理解し説明できる。	調号と臨時記号の区別、臨時記号の効力を学び正しい楽譜が書けるよう復習しレポート作成
7		講義・演習	反復記号を理解し説明できる。	反復記号を学び、音源を聴き楽譜を追えるよう復習しレポート作成
8		講義・演習	音程を理解し説明できる。	音程（度数の数え方、全音と半音）を復習しレポート作成
9		講義・演習	音程を理解し説明できる。	音程（2.3.6.7度、＃♭あり）を復習しレポート作成
10		講義・演習	音程を理解し説明できる。	音程（1.4.5.8度、＃♭あり）を復習しレポート作成
11		講義・演習	メジャースケールを理解し説明できる。	メジャースケールの仕組みを復習し、復習しレポート作成
12		講義・演習	メジャースケールを理解し説明できる。	5度圏を用い、調号を用いてスケールを書けるようにし、実際に歌ったり楽器で復習しレポート作成
13		講義・演習	マイナースケールを理解し説明できる。	調号を用いてナチュラルマイナースケールを復習しレポート作成
14		講義・演習	マイナースケールを理解し説明できる。	ハーモニックマイナー、メロディックマイナースケールを復習しレポート作成
15		講義・演習	期末テスト	テスト学習し、レポート作成
準備学習 時間外学習			前回までの内容をワークを使って復習、次の内容に備える	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Ear Training (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	北澤由佳
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。 本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、 現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	音の歴史、モールス信号、周波数、効果音について知る リズム打ち・書き取り方について知る 音の高低の判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム書き取りを正確に叩けるように理解しレポートにまとめる。	
2		講義・演習	4分音符、4分休符のリズム打ち 3拍子と4拍子のビート感覚を養う 2線紙を使って音の高低判定 2度音程を歌い音程感を身に付けを理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。	
3		講義・演習	8分音符のリズム打ちと5線紙を使ってリズムの書き取り 3線紙を使って音の高低判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。	
4		講義・演習	4分音符、4分休符、8分音符のリズム打ち、リズムの書き取り、5線紙を使ってメロディーの書き取り を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちやメロディー書き取り、音程を復習し理解しレポートにまとめる。	
5		講義・演習	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り 新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。	
6		講義・演習	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り 新曲視唱を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。	
7		講義・演習	前回までの内容を復習すを理解し説明できる	今までの内容を復習し次の授業に備える	
8		講義・演習	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。	
9		講義・演習	8分休符(裏打ち)のリズム打ち、書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。	
10		講義・演習	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。	
11		講義・演習	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。	
12		講義・演習	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱、Major、minorのコード判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。	
13		講義・演習	期末予備テスト	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習すし理解しレポートにまとめる。	
14		講義・演習	期末テスト	テスト準備対策をする	
15		講義・演習	テスト返却、総復習	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。	
準備学習 時間外学習			前回の内容のリズム打ちや視唱を復習して次回に備える		
【使用教科書・教材・参考書】					
「イヤートレーニング」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行) 株式会社滋慶教育事業部(発売)					
東京スクールオブミュージック専門学校渋谷					

科目名	Ear Training (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	北澤由佳
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	出席点100点満点と期末試験100点満点の合計を2分割し、60点以上を合格とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	音の歴史、モールス信号、周波数、効果音について知る リズム打ち・書き取り方について知る 音の高低の判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム書き取りを正確に叩けるように理解しレポートにまとめる。
2		講義・演習	4分音符、4分休符のリズム打ち 3拍子と4拍子のビート感覚を養う 2線紙を使って音の高低判定 2度音程を歌い音程感を身に付けを理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。
3		講義・演習	8分音符のリズム打ちと5線紙を使ってリズムの書き取り 3線紙を使って音の高低判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。
4		講義・演習	4分音符、4分休符、8分音符のリズム打ち、リズムの書き取り、5線紙を使ってメロディーの書き取り を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちやメロディー書き取り、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
5		講義・演習	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り 新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
6		講義・演習	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り 新曲視唱を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
7		講義・演習	前回までの内容を復習すを理解し説明できる	今までの内容を復習し次の授業に備える
8		講義・演習	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
9		講義・演習	8分休符（裏打ち）のリズム打ち、書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
10		講義・演習	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
11		講義・演習	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
12		講義・演習	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱、Major.minorのコード判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
13		講義・演習	中間予備テスト	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
14		講義・演習	中間テスト	テスト準備対策をする
15		講義・演習	テスト返却、総復習	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。
準備学習 時間外学習			前回の内容のリズム打ちや視唱を復習して次回に備える	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Music Theory (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	北澤由佳
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。 本講義では音楽理論の基礎から応用までをしっかりと理解し、実際に表現に繋げていけるよう学んで行く。						
到達目標	楽曲分析ができるようになり、実際にオリジナル曲作曲や楽曲アレンジができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の復習を理解し説明できる。メジャーダイアトニックコードを理解し説明できる。	MT I & II の内容を復習し、理解度を高めダイアトニックコードのコードネーム、ディグリーネームを復習し、理解度を高めレポート作成	
2		講義・演習	メジャーダイアトニックコードの機能を理解し説明できる。ドミナントモーションを理解し説明できる。	各機能の意味を理解し、主要和音(スリーコード)と代理和音を復習理解度を高めドミナントモーションを復習し、響きを聴いて理解度を高めレポート作成	
3		講義・演習	マイナーダイアトニックコードを理解し説明できる。	ダイアトニックコードの仕組みを五線譜に書けるよう理解度を高めマイナーダイアトニックコードの仕組みを五線譜に書けるよう理解度を高める	
4		講義・演習	マイナーダイアトニックコードの機能を理解し説明できる。	マイナーコードが持つ機能を理解し復習レポート作成、前回までの理解し復習レポート作成	
5		講義・演習	ケーデンスを理解し説明できる。	終止形、ドミナントモーション、トゥーフアイブ、偽終止についてを理解し復習セカンダリードミナントについてを理解し復習レポート作成	
6		講義・演習	代理コード(裏コード)を理解し説明できる。定番コードパターンを理解し説明できる。	V7の代理コードを理解し、V7と代理コードを弾き比べてを理解し復習コードパターンを使って曲を作ってを理解し復習レポート作成	
7		講義・演習	クリシェを理解し説明できる。パッシングコードを理解し説明できる。	クリシェの手法を使ってアレンジしてを理解し復習レポート作成、パッシングの手法を使ってアレンジしてを理解し復習レポート作成	
8		講義・演習	代理コード(裏コードを含むダイアトニック外の代理コード)を理解し説明できる。借用和音を理解し説明できる。	メジャー、マイナーのダイアトニックコードの代理コードとダイアトニック外の代理コードを使ってを理解し復習レポート作成	
9		講義・演習	転調を理解し説明できる。アナライズを理解し説明できる。	転調のパターンを知り、実践を理解し復習楽譜と音源から楽曲分析を理解し復習レポート作成	
10		講義・演習	ヴォイスングを理解し説明できる。アペイラブルノートスケール(メジャー)を理解し説明できる。	ケーデンスを実際に5線に書けるようにするを理解し復習コードスケールを使ってフレーズを作ってを理解し復習レポート作成	
11		講義・演習	アペイラブルノートスケール(マイナー)を理解し説明できる。ドミナントスケールを理解し説明できる。	コードスケールを使ってフレーズを作ってを理解し復習V7に適したスケールを使ってフレーズを作ってを理解し復習レポート作成	
12		講義・演習	コードに適したスケールを理解し説明できる。その他のスケールを理解し説明できる。	それぞれのコードに適したスケールを使ってフレーズを作って理解し復習前回までに学んだスケール以外のスケールを使ってアレンジし理解し復習レポート作成	
13		講義・演習	スコアリーディングを理解し説明できる。	復習をしを理解し復習今までの内容を復習し理解度を高める 期末テストを理解し復習レポート作成	
14		講義・演習	期末テスト	復習、テスト対策をし期末テストを振り返る。	
15		講義・演習	テスト返却と総復習	実際に楽譜を読み、自分なりに分析し、表現に繋げる応用力を身に付けレポート作成する。	
準備学習 時間外学習			前回までの内容をワークを使って復習、次の内容に備える		
【使用教科書・教材・参考書】					
ゼロから始める音楽理論」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行) 株式会社滋慶教育事業部					
東京スクールオブミュージック専門学校渋谷					

科目名	Music Theory (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	北澤由佳
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。 本講義では音楽理論の基礎から応用までをしっかりと理解し、実際に表現に繋げていけるよう学んで行く。						
到達目標	楽曲分析ができるようになり、実際にオリジナル曲作曲や楽曲アレンジができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の復習を理解し説明できる。	MT I & II の内容を復習し、理解度を高めレポート作成
2		講義・演習	メジャーダイアトニックコードを理解し説明できる。	ダイアトニックコードのコードネーム、ディグリーネームを復習し、理解度を高めレポート作成
3		講義・演習	メジャーダイアトニックコードの機能を理解し説明できる。	各機能の意味を理解し、主要和音(スリーコード)と代理和音を復習理解度を高めレポート作成
4		講義・演習	ドミナントモーションを理解し説明できる。	ドミナントモーションを復習し、響きを聴いて理解度を高めレポート作成
5		講義・演習	マイナーダイアトニックコードを理解し説明できる。	ダイアトニックコードの仕組み(ナチュラルマイナー)を五線譜に書けるよう理解度を高めレポート作成
6		講義・演習	マイナーダイアトニックコードを理解し説明できる。	マイナーダイアトニックコードの仕組みを五線譜に書けるよう理解度を高めレポート作成
7		講義・演習	マイナーダイアトニックコードの機能を理解し説明できる。	マイナーコードが持つ機能を理解し復習レポート作成
8		講義・演習	マイナーダイアトニックコードの機能を理解し説明できる。	前回までのを理解し復習レポート作成
9		講義・演習	ケーデンスを理解し説明できる。	終止形、ドミナントモーション、トゥーフाइブ、偽終止についてを理解し復習レポート作成
10		講義・演習	ケーデンスを理解し説明できる。	セカンダリドミナントについてを理解し復習レポート作成
11		講義・演習	代理コード(裏コード)を理解し説明できる。	V7の代理コードを理解し、V7と代理コードを弾き比べてを理解し復習レポート作成
12		講義・演習	定番コードパターンを理解し説明できる。	コードパターンを使って曲を作ってを理解し復習レポート作成
13		講義・演習	クリシェを理解し説明できる。	クリシェの手法を使ってアレンジしてを理解し復習レポート作成
14		講義・演習	パッシングコードを理解し説明できる。	パッシングの手法を使ってアレンジしてを理解し復習レポート作成
15		講義・演習	期末テスト	これまでの確認
準備学習 時間外学習			前回までの内容をワークを使って復習、次の内容に備える	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Ear Training (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	北澤由佳
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。 本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、 現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	既習リズムを使ったリズム打ち・書き取り、6/8拍子のリズム打ち、メロディー書き取り(CMajor)、2声メロディー、音程ドリルを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム書き取りを正確に叩けるように確認理解しレポート作成	
2		講義・演習	リズム打ち・書き取り(C,G,Gを使って)、メロディー書き取り(Cminor、2声ハーモニー)、3度音程のハーモニー練習、音程ドリルを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習する確認理解しレポート作成	
3		講義・演習	リズム打ち・書き取り(C,G,Gを使って)、メロディー書き取り(Cminor)、3度音程の2声ハーモニー書き取り、音程ドリル コードⅠ、Ⅳ、Ⅴの聴き取りを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習確認理解しレポート作成	
4		講義・演習	リズム打ち・書き取り(C,G,Gを使って) メロディー書き取り(Aminor、2声メロディー) P4,P5,トライトーンのハーモニー練習 コードⅠ、Ⅳ、Ⅴの聴き取りを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちやメロディー書き取り、音程を復習確認理解しレポート作成	
5		講義・演習	リズム打ち・書き取り(C,G,Gを使って) メロディー書き取り(16分音符導入、Aminor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅠ、Ⅳ、Ⅴの聴き取りを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成	
6		講義・演習	リズム打ち・書き取り(C,G,Gを使って) メロディー書き取り(Aminor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅠ、Ⅳ、Ⅴの聴き取りを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成	
7		講義・演習	リズム打ち・書き取り(C,G,Gを使って) メロディー書き取り(Aminor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅠ、Ⅳ、Ⅴの聴き取りを理解し説明ができる。	今までの内容を復習し次回の授業に備え確認理解しレポート作成	
8		講義・演習	リズム打ち・書き取り(C,G,G,Fを使って) メロディー書き取り(Aminor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅠ、Ⅳ、Ⅴの聴き取り、Ⅳ(Ⅱm)ーⅤーⅠの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成	
9		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,G,Fを使って) メロディー書き取り(Aminor、2声メロディー) 6度音程のハーモニー練習 コードⅣ(Ⅱm)ーⅤーⅠの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成	
10		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,G,Fを使って) メロディー書き取り(FMajor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅣ(Ⅱm)ーⅤーⅠの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成	
11		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,G,Fを使って) メロディー書き取り(FMajor、2声メロディー) オクターブとユニゾンのハーモニー練習 コードⅣ(Ⅱm)ーⅤーⅠの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成	
12		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,G,Fを使って) メロディー書き取り(FMajor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅣ(Ⅱm)ーⅤーⅠの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成	
13		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,G,Fを使って) メロディー書き取り(FMajor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅣ(Ⅱm)ーⅤーⅠの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成	
14		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,G,Fを使って) メロディー書き取り(FMajor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅣ(Ⅱm)ーⅤーⅠの聴き分けを理解し説明ができる。	総復習を行い中間テストに備え確認理解しレポート作成	
15		講義・演習	中間テスト	総復習を確認理解しレポート作成	
準備学習 時間外学習			前回の内容のリズム打ちや視唱を復習して次回に備える		
【使用教科書・教材・参考書】					
「イヤートレーニング」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行) 株式会社滋慶教育事業部(発売)					
東京スクールオブミュージック専門学校渋谷					

科目名	Ear Training（2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	北澤由佳
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 （単位）	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	出席点100点満点と期末試験100点満点の合計を2分割し、60点以上を合格とする。						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り (GMajor、2声メロディーは三連符導入、2声ハーモニーは2度音程導入)を理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成	
2		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り (GMajor、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅣ(Ⅱm)ーⅤーⅠの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成	
3		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り (GMajor、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅣ(Ⅱm)ーⅤーⅠの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成	
4		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り (GMajor、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅥmを含む聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成	
5		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り (GMajor、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅥmを含む聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成	
6		講義・演習	曲を題材にしたリズム打ち、リズム書き取り、メロディー書き取り メロディー書き取り(6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅥmを含む聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成	
7		講義・演習	前回までの内容を復習する	今までの内容を復習し次の授業に備え確認理解しレポート作成	
8		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り (Key:C,G,F,Am,Cm、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コード Ⅰ、Ⅱm、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵmの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成	
9		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り (Key:C,G,F,Am,Cm、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コード Ⅰ、Ⅱm、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵmの聴き分け	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成	
10		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り (Key:C,G,F,Am,Cm、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コード Ⅰ、Ⅱm、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵmの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成	
11		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って)、メロディー書き取り (Key:C,G,F,Am,Cm、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コード Ⅰ、Ⅱm、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵmの聴き分け	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成	
12		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って)、メロディー書き取り (Key:C,G,F,Am,Cm、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コード Ⅰ、Ⅱm、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵmの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成	
13		講義・演習	期末予備テスト	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成	
14		講義・演習	期末テスト	総復習を行い中間テストに備える確認理解しレポート作成	
15		講義・演習	テスト返却、総復習	聴こえる音やリズムを正しく楽譜に書き、コードの響きや種類を聴き分けられる	
準備学習 時間外学習			前回の内容のリズム打ちや視唱を復習して次回に備える		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	韓国語(1) (韓国語Basic(1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	李美姫
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ハングルの理解、発音、読み、聞き、作文、会話スキルをアップする ②実用的なコミュニケーションができるように話す力を身につける ③教科書で勉強したものを生かして活用できるようにペア又はグループで練習したり発表する						
到達目標	①韓国語で日常会話が可能になること ②必要な韓国語を身につけて気軽に話せるようにする ③韓国語に対して抵抗感、違和感、恐怖心を持たないようにする						
評価方法と基準	1) 定期試験80% 2) 出席数 10% 3) 態度 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介・目標設定・関心事	ハングルの仕組み知る
2		講義・演習	数字を数える	書き方、覚える方法を知る
3		講義・演習	教科書とワークブックを活用	プリント配布
4		講義・演習	リスニングスキルを身につける	CD、Netflix,YouTubeで学習する
5		講義・演習	ペアで学習ができる	会話練習をする
6		講義・演習	韓国の文化を知る	日本の文化との違いを学習する
7		講義・演習	趣味、関心事について作文、発表	授業中に作文、発表する
8		講義・演習	食べ物、映画、ドラマについて話す	宿題として前もって作文してもらう
9		講義・演習	否定・賛成表現を練習する	単語を使って文章を作る練習
10		講義・演習	定期試験	試験前に復習をする
11		講義・演習	過去形を学習する	文法を活用して話す練習をする
12		講義・演習	ゲームをしながら学習する	日記の宿題を出す
13		講義・演習	韓国映画を見る	日本語字幕で鑑賞
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				
できる韓国語初級1, 2、ワークブック、プリント、イラストとゴロで覚える韓国語				

科目名	韓国語(1) (韓国語Entry(1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	李美姫
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ハングルの理解、発音、読み、聞き、作文、会話スキルをアップする ②実用的なコミュニケーションができるように話す力を身につける ③教科書で勉強したものを生かして活用できるようにペア又はグループで練習したり発表する						
到達目標	①韓国語で日常会話が可能になること ②必要な韓国語を身につけて気軽に話せるようにする ③韓国語に対して抵抗感、違和感、恐怖心を持たないようにする						
評価方法と基準	1) 定期試験80% 2) 出席数 10% 3) 態度 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介・目標設定・関心事	ハングルの仕組み知る
2		講義・演習	ハングル文字を覚える	書き方、覚える方法を知る
3		講義・演習	教科書とワークブックを活用	プリント配布
4		講義・演習	リスニングスキルを身につける	CD、Netflix,YouTubeで学習する
5		講義・演習	ペアで学習ができる	会話練習をする
6		講義・演習	韓国の文化を知る	日本の文化との違いを学習する
7		講義・演習	趣味、関心事について作文、発表	授業中に作文、発表する
8		講義・演習	食べ物、映画、ドラマについて話す	宿題として前もって作文してもらう
9		講義・演習	否定・賛成表現を練習する	単語を使って文章を作る練習
10		講義・演習	定期試験	試験前に復習をする
11		講義・演習	可能形を学習する	文法を活用して話す練習をする
12		講義・演習	ゲームをしながら学習する	日記の宿題を出す
13		講義・演習	時間・日程・数字を練習する	書きながら暗記するように進行
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				
できる韓国語初級1, 2、ワークブック、プリント、イラストとゴロで覚える韓国語				

科目名	韓国語(1) (韓国語Advance(1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	徐慧精
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1) 韓国語のスキルをアップする。 2) ペアやグループで会話の練習をする。 3) 韓国の社会や文化について学ぶ。						
到達目標	1) 適切なコミュニケーションができるようになる。 2) 韓国の社会や文化について理解を深める。 3) 意思を伝達することができるようになる。						
評価方法と基準	1) 定期試験 60% 2) 出席 10% 3) 授業準備 10% 4) 授業態度 10% 5) 課題 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介、目標設定	自己紹介を書く。
2		講義・演習	初級Ⅱの復習をする。	プリントで練習する。
3		講義・演習	性格について	学んだ文法の練習をする。
4		講義・演習	発表会	発表した作文を直す。
5		講義・演習	TOPIK	TOPIKの練習する。
6		講義・演習	買い物をする。	作文をする。
7		講義・演習	発表会と会話	学んだ文法の練習をする。
8		講義・演習	手紙を書く。	作文をする。
9		講義・演習	-아/어 있다	学んだ文法の練習をする。
10		講義・演習	定期試験	復習をする。
11		講義・演習	TOPIK	TOPIKの練習する。
12		講義・演習	-(으)ㄴ/는/(으)ㄹ 것 같다	学んだ文法の練習をする。
13		講義・演習	CDを聴く。	聴いて書く。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				
できる韓国語初級Ⅱ & ワークブック、プリント。				

科目名	韓国語(1) (韓国語Optional(1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	徐慧精
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1) ハングルの表記を覚える。 2) ペアやグループで会話の練習をする。 3) 韓国の文化について学ぶ。						
到達目標	1) 会話の練習を通して、簡単な挨拶や自己紹介ができるようになる。 2) 言葉を学ぶことで、韓国の社会や文化に対する関心を高める。						
評価方法と基準	1) 定期試験 60% 2) 出席 10% 3) 授業準備 10% 4) 授業態度 10% 5) 課題 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介、目標設定	プリントで練習する。
2		講義・演習	基本母音を知る。	書く練習と発音の練習をする。
3		講義・演習	子音 + 母音 の組み合わせを読む。	書く練習と単語を覚える。
4		講義・演習	激音について	書く練習と発音の練習をする。
5		講義・演習	濃音について	書く練習と発音の練習をする。
6		講義・演習	バッチム	書く練習と発音の練習、単語を覚える。
7		講義・演習	合成母音	書く練習と発音の練習、単語を覚える。
8		講義・演習	発音の変化	発音の練習をする。
9		講義・演習	簡単な会話	会話の練習をする。
10		講義・演習	定期試験	単語や簡単な会話を覚える。
11		講義・演習	-입니다 / -입니까?	文章を作る練習をする。
12		講義・演習	韓国語で自己紹介をする。	自己紹介を書く。
13		講義・演習	発表会と話し合い	聴いて書く。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				
できる韓国語初級Ⅰ & ワークブック、プリント。				

科目名	韓国語(2) (韓国語Basic(2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	李美姫
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ハングルの理解、発音、読み、聞き、作文、会話スキルをアップする ②実用的なコミュニケーションができるように話す力を身につける ③教科書で勉強したものを生かして活用できるようにペア又はグループで練習したり発表する						
到達目標	①韓国語で日常会話が可能になること ②必要な韓国語を身につけて気軽に話せるようにする ③韓国語に対して抵抗感、違和感、恐怖心を持たないようにする						
評価方法と基準	1) 定期試験80% 2) 出席数 10% 3) 態度 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	勉強したいことを聞く・後期の目標設定	予習と復習することの大切さを話す
2		講義・演習	憧れの存在について話し合う	副教材を利用する
3		講義・演習	スポーツについて話し合う	プリント配布
4		講義・演習	感情・関係について話し合う	辞書・翻訳機の使い方を教える
5		講義・演習	旅行・行きたいところについて話し合う	ペアの相手と話し合う
6		講義・演習	最新ニュース、記事を学習する	調べて書いてきてもらう
7		講義・演習	身体・美容について学習する	ネット検索をしてもらって作文を書く
8		講義・演習	地理・国名について学習する	韓国の地理と世界について学習
9		講義・演習	天気・植物について学習する	テスト準備を呼びかける
10		講義・演習	定期試験	試験前に復習を行う
11		講義・演習	季節・気分について学習する	前に出て発表してもらう
12		講義・演習	トレーニング・運動について学習する	ペアを組んで練習する
13		講義・演習	乗り物・歴史について学習する	1年を振り返る
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	韓国語(2) (韓国語Entry(2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	李美姫
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ハングルの理解、発音、読み、聞き、作文、会話スキルをアップする ②実用的なコミュニケーションができるように話す力を身につける ③教科書で勉強したものを生かして活用できるようにペア又はグループで練習したり発表する						
到達目標	①韓国語で日常会話が可能になること ②必要な韓国語を身につけて気軽に話せるようにする ③韓国語に対して抵抗感、違和感、恐怖心を持たないようにする						
評価方法と基準	1) 定期試験80% 2) 出席数 10% 3) 態度 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	勉強したいことを聞く・後期の目標設定	予習と復習することの大切さを話す
2		講義・演習	憧れの存在について話し合う	副教材を利用する
3		講義・演習	スポーツについて話し合う	プリント配布
4		講義・演習	感情・関係について話し合う	辞書・翻訳機の使い方を教える
5		講義・演習	旅行・行きたいところについて話し合う	ペアの相手と話し合う
6		講義・演習	最新ニュース、記事を学習する	調べて書いてきてもらう
7		講義・演習	身体・美容について学習する	ネット検索をしてもらって作文を書く
8		講義・演習	地理・国名について学習する	韓国の地理と世界について学習
9		講義・演習	天気・植物について学習する	テスト準備を呼びかける
10		講義・演習	定期試験	試験前に復習を行う
11		講義・演習	季節・気分について学習する	前に出て発表してもらう
12		講義・演習	トレーニング・運動について学習する	ペアを組んで練習する
13		講義・演習	乗り物・歴史について学習する	1年を振り返る
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	韓国語(2) (韓国語Advance(2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	徐慧精
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1) 韓国語のスキルをアップする。 2) ペアやグループで会話の練習をする。 3) 韓国の社会や文化について学ぶ。						
到達目標	1) 適切なコミュニケーションができるようになる。 2) 韓国の社会や文化について理解を深める。 3) 意思を伝達することができるようになる。						
評価方法と基準	1) 定期試験 60% 2) 出席 10% 3) 授業準備 10% 4) 授業態度 10% 5) 課題 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の復習をする。	復習する。
2		講義・演習	TOPIK	TOPIKの練習する。
3		講義・演習	설날とお正月	長文の作文をする。
4		講義・演習	韓国と日本の違い	会話の練習をする。
5		講義・演習	TOPIK	TOPIKの練習する。
6		講義・演習	집들이について	招待状を書く。
7		講義・演習	CDを聞く。	聴いて書く。
8		講義・演習	学生としての生活について	長文の作文をする。
9		講義・演習	キーボードの使い方	ハングルでメールを送る。
10		講義・演習	定期試験	復習をする。
11		講義・演習	最新のニュース	ニュースの内容を書く。
12		講義・演習	自分将来について	夢の作文
13		講義・演習	一年間の振り返り	意思表示をする。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	韓国語(2) (韓国語Optional(2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	徐慧精
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1) 韓国語のスキルをアップする。 2) ペアやグループで会話の練習をする。 3) 韓国の文化について学ぶ。						
到達目標	1) 会話の練習を通して、簡単な挨拶や自己紹介ができるようになる。 2) 言葉を学ぶことで、韓国の社会や文化に対する関心を高める。						
評価方法と基準	1) 定期試験 60% 2) 出席 10% 3) 授業準備 10% 4) 授業態度 10% 5) 課題 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の復習をする。	プリントでの復習。
2		講義・演習	-이 / 가 아닙니다.	否定文の練習をする。
3		講義・演習	職業について	会話の練習をする。
4		講義・演習	部屋の中を観察してみよう。	新しい単語を学ぶ。
5		講義・演習	簡単な質問ができる。	相手の話を聞いて返答をする。
6		講義・演習	家族関係が分かる。	文章を作る。授業内容の復習をする。
7		講義・演習	地名や場所名を覚える。	プリントで単語を覚える。
8		講義・演習	約束について会話する。	会話の練習をする。
9		講義・演習	位置に関する説明ができる。	作文の練習をする。
10		講義・演習	定期試験	復習をする。
11		講義・演習	動画をみて見よう。	聴いて書く練習をする。
12		講義・演習	学んだ単語を確認しよう。	学んだ単語の復習をする。
13		講義・演習	一年間を振り返る。	会話の練習をする。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Global Communication (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	池末信
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	外国人を前に怖がったり恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。						
到達目標	よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、個人的な情報について、質問をしたり、答えたりできる。会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートをしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。						
評価方法と基準	定期テスト(筆記100%)による採点						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	be 動詞 (am, are) を使って自己紹介 (国籍や出身) する、または出身地を尋ねる会話を練習、疑問代名詞 [What] を使って、自分の個人情報相手を伝え、また相手の情報を聞く		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
2		講義・演習	ホテルにチェックインする際の会話を練習する、個人的な経歴等のプロフィールを読む・書く		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
3		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「パーティで新しい人に出会う」・前期発表と運動する内容		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
4		講義・演習	be動詞を使って、家族構成について話す、be動詞の否定文を使って、友達や家族について説明する		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
5		講義・演習	年齢や誕生日について聞く、話す、写真に写っている友達のことについて話す、友達についての紹介文を書く		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
6		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「友達や家族についての情報を比較する」・前期発表と運動する内容		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
7		講義・演習	名詞の所有を表す[s] と[s']を使って、自分の家について話す、[it is]を使って、家具について話す、		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
8		講義・演習	飲み物やお菓子を提供する、受け取る際の会話を練習する、分からない単語について質問する、ホームシェアについてのEメールのやり取りを読む、または、そのEメールを書く		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
9		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「好きな音楽について」・前期発表と運動する内容		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
10		講義・演習	一般動詞「現在形」を使って、お気に入りの物について話す、一般動詞の「現在形」の疑問文を使って、どのようにテクノロジーを使用しているのかを話す		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
11		講義・演習	コミュニケーション手段について話す、相手の話を聞いていることを示す、商品のレビューを読む、書く		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
12		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「異なる週の活動について比較する」・前期発表と運動する内容		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
13		講義・演習	「現在形」肯定文、否定文を使って、平日、週末の行動について話す、「現在形」疑問文を使って、時間・自分のルーティン(日課)について話す		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
14		講義・演習	相手の意見に賛成したり、相手と共通していることを伝える表現を練習する、自分の行動についてのレポートを読む、書く		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
15		講義・演習	Time to Speak: 前期発表		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
準備学習 時間外学習			反復練習を通して身につける		
【使用教科書・教材・参考書】					
EVOLVE 1					

科目名	Global Communication (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	池末信
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	外国人を前に怖がったり恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。						
到達目標	よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、個人的な情報について、質問をしたり、答えたりできる。会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートをしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。						
評価方法と基準	定期テスト(筆記100%)による採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	「現在進行形」肯定文を使って、家事や自宅での行動について話す 「現在進行形」疑問文を使って、旅行について質問する、または答える	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
2		講義・演習	電話で情報を共有する会話を練習する、今起こっていることについてのブログを読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
3		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「最近の生活について」 ・後期発表と運動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
4		講義・演習	[Can / Can' t] (能力) を使って、自分の能力や才能について話す [Can / Can' t] (可能性) を使って、職場や学校でできること、できないことについて話す	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
5		講義・演習	自分が何故その仕事の適任者なのか、説明するための表現を練習する、インターネット上で自分の考えをコメントする	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
6		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「自国民が何が得意かについて」 ・後期発表と運動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
7		講義・演習	[this] と [these] を使って、休暇、旅行について話す [like to, want to, need to, have to] を使って、旅行計画を立てる	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
8		講義・演習	お店でいろいろな情報を聞く時の表現を使って、会話する場所についての説明を読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
9		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「休暇の計画をたてる」 ・後期発表と運動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
10		講義・演習	[be going to] を使って、週末のアウトドア（野外）プランについて話す、[be going to]（疑問文）を使って、異なる様々な旅で何を着るかについて話し合う	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
11		講義・演習	夕方出かける計画を提案するなど、相手を誘う時の表現を練習する オンラインでの招待状を読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
12		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「自分の町での楽しい週末を計画する」・後期発表と運動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
13		講義・演習	be動詞の過去形[was / were]の肯定文と否定文を使って、過去における人物、場所、物について話す、be動詞の過去形[was / were]の疑問文を使って、記憶にある色について話す	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
14		講義・演習	自分の記憶を表現し、映画、俳優について話す 過去の思い出として保管している物についてEメールを書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
15		講義・演習	Time to Speak:後期発表	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
準備学習 時間外学習			反復練習を通して身につける	
【使用教科書・教材・参考書】				
EVOLVE 1				

科目名	日本語講座 (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	神田智子
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	日本国内での就職・デビュー活動に必要な日本語能力を養います。 * 前期は、日本の就職活動の概要理解、業界・企業・職種研究、企業担当者やOB・OG訪問、インターンシップ準備などを行い、日本で働くことをイメージできるようにします。また日本語能力試験の対策を行います。 * 後期は、日本語能力試験対策及び、就職・デビューに関わる面接対策等を行います。						
到達目標	1. 日本の企業や業界について理解する。 2. OB・OG訪問やインターンシップを通じて日本での就業を体験し、就職への具体的なイメージを掴む。 3. 日本語で履歴書が書けるようになる。 4. 面接に対応できる日本語力やビジネスマナーを身に付ける。 5. 日本語能力試験N1への合格、または同等の日本語力を身につける。						
評価方法と基準	毎回の授業で出される課題(提出物、口頭発表)と前期・後期末試験について、 (1)論理性 (2)独自性 (3)正確性 (4)表現力 (5)意欲 の観点から評価						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	日本の就職・デビュー活動の概要	〈準備〉学歴、資格取得年月の整理
2		講義・演習	履歴書①基本情報の書き方	〈準備〉学歴、資格取得年月の整理
3		講義・演習	業界研究 調査①	業界の自主研究及び資料作成
4		講義・演習	業界研究 調査②	業界の自主研究及び資料作成
5		講義・演習	企業研究 調査① 好きなアーティストの所属先	企業の自主研究及び資料作成
6		講義・演習	企業研究 調査② 好みの企業BEST 5	企業の自主研究及び資料作成
7		講義・演習	N1の試験についての心構え～ 例題①	〈課題〉資料作成
8		講義・演習	レベルチェックテスト（20～30分）テスト答え合わせ解説 N1 状況状態に関する語彙	建前、矛盾 チームワークなどの語彙を使う状況を挙げ、例文作成 読解問題宿題
9		講義・演習	N1文法 導入文型 ～とあって、～ならでは、～にもまして、～からして 例文作成、会話練習 N1語彙 人を見て思う感情表現語彙	あさましい めざましい 根拠り業掘りなどの語彙を使う状況を挙げ、例文作成 読解問題宿題
10		講義・演習	N1文法 導入文型 ～を余儀なくされる ～たりとも ～きらいがある ～あっての 例文作成会話練習 N1相手を気遣う語彙	あいにく 何気ない 独自の などの語彙を使う状況を挙げ 例文作成 読解問題宿題
11		講義・演習	N1文法 導入文型 ～をよそに ～なりに ～ないでもない ～すら～なかった 例文作成、会話練習 N1困惑する感情の語彙 実践問題	不審な 閉口する 反発する などの語彙を使う状況を挙げ 例文作成 読解問題宿題
12		講義・演習	N1文法 導入文型 文法～とは(驚き)～がはやいか ～そばから ～ずにはおかない 例文作成、会話練習 N1時間 時期の語彙 。夏休みに向けて	適宜、時折 古参の などの語彙を使う状況を挙げ例文作成 読解問題宿題。夏休み課題の取り組み
13		講義・演習	振り返り。N1 試験について	夏休み課題の復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			反復練習を通して身につける	
【使用教科書・教材・参考書】				
『外国人留学生のための就活ガイド』				

科目名	日本語講座(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	神田智子
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	日本国内での就職に有利なJLPTN1取得を目標とし、特に出題されやすい接続詞を抜粋して導入、定着を目指す。併せてすべての基礎となる語彙力向上も目標とする またN1レベルの文法や語彙の使い分けも身につける * 講習ごとに語彙テストを行い、また「使える」語彙力を前提に積極的に会話練習を行う * わかりやすく導入するために例文提示と例文作成を行う						
到達目標	1. JLPTN1合格を目指す 2. 正しい接続詞の使い方を学び、実際に使えるようにする 3. 実際に使える語彙を増やす 読める漢字を増やす						
評価方法と基準	1・前期 期末試験の得点 2・N1レベル文法の習得度 N1レベル語彙の実践問題 正解率 3・出席率 授業態度 以上を基準として総合的に評価する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	N1文法 導入文型 ～ともなると ～もさることながら ～に即した ～を～において他にない 例文作成、会話練習 N1相手に対応する語彙	報いる 用心する 勘違い などの語彙を使う状況を挙げ、例文作成 読解問題宿題
2		講義・演習	N1文法 導入文型 ～までもなく ～いかに ～とは言えないまでも ～とい～とい 例文作成、会話練習 N1将来未来の語彙	果てしなく 遠からず 粘り強く などの語彙を使う状況を考え 例文作成 読解問題宿題
3		講義・演習	N1文法 導入文型～のをいいことに ～にもほどがある ～ならまだしも ～以前の 例文作成、会話練習 N1物に働きかける語彙	活性化 正常化 目に見えて などの語彙を使う状況を挙げ 例文作成 読解問題宿題
4		講義・演習	N1文法 導入文型 ～たら～たで ～ようものなら ～ならいざしらず ～にこしたことはない 例文作成、会話練習 N1経済の語彙	不況 不振 盛況などの語彙を使う状況を挙げ 例文を作成 読解問題宿題
5		講義・演習	N1文法 導入文型～とはいえ ～といったところだ ～に～ない ～にかこつけて 例文作成、会話練習 N1仕事の語彙	打ち込んでいる 立て込んでいる 乗り切る などの語彙を使う状況を挙げ 例文を作成 読解問題宿題
6		講義・演習	N1模擬試験問題 文法 語彙	文法例文作成 + 読解問題宿題
7		講義・演習	N1模擬試験問題 語彙 漢字	語彙例文作成 + 読解問題宿題
8		講義・演習	N1模擬試験問題 文法 漢字	文法例文作成 + 読解問題宿題
9		講義・演習	N1試験対策	レポート提出
10		講義・演習	企業研究 調査② 好みの企業BEST 5	レポート提出
11		講義・演習	インターンシップ② プロフィールシート作成	〈課題〉資料作成
12		講義・演習	企業に入ってからのこと。OB OGIに聞きたいこと。	レポート提出
13		講義・演習	1年のまとめをプレゼンテーションする。	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			反復練習を通して身につける	
【使用教科書・教材・参考書】				
『外国人留学生のための就活ガイド』				

科目名	ダンス基礎 (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	木本雄
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①基礎的なダンスを深めると共に魅せることを意識する ②ダンスに関しては全般 ③一線で活躍できるアーティスト ④単純な振り落しの授業ではなく、体の使い方なども含めた内容						
到達目標	ダンスの技術的向上、その習慣化。						
評価方法と基準	実技テストによる採点と授業の出席率による平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	業界の仕事をすると言うこと。授業を受けるうえでの心構え	授業内容を自主練習
2		講義・演習	筋トレストレッチによる体づくり	授業内容を自主練習
3		講義・演習	基礎的な振付	授業内容を自主練習
4		講義・演習	振付けの踊りこみ	授業内容を自主練習
5		講義・演習	振付けの応用	授業内容を自主練習
6		講義・演習	応用の踊り込み	授業内容を自主練習
7		講義・演習	HIPHOPの振付け	授業内容を自主練習
8		講義・演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付け開始。	授業内容を自主練習
9		講義・演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付けの応用	授業内容を自主練習
10		講義・演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付けの応用踊りこみ	授業内容を自主練習
11		講義・演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付けの応用踊りこみ②	授業内容を自主練習
12		講義・演習	テスト振付	授業内容を自主練習
13		講義・演習	テスト	授業内容を自主練習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	ダンス基礎 (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	木本雄
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①基礎的なダンスを深めると共に魅せることを意識する ②ダンスに関しては全般 ③一線で活躍できるアーティスト ④単純な振り落しの授業ではなく、体の使い方なども含めた内容						
到達目標	ダンスの技術的向上、その習慣化。						
評価方法と基準	実技テストによる採点と授業出席率の平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の復習。体づくりの見直し	授業内容を自主練習
2		講義・演習	前期のダンスの見直し、復習。	授業内容を自主練習
3		講義・演習	前期より難易度を高めた振付	授業内容を自主練習
4		講義・演習	難易度を高めた振付の踊り込み	授業内容を自主練習
5		講義・演習	より難しい振付。	授業内容を自主練習
6		講義・演習	振付の踊り込み	授業内容を自主練習
7		講義・演習	これまでの物を入れたうえで自由度を高めた振付	授業内容を自主練習
8		講義・演習	自由度を高めた振付の踊り込み	授業内容を自主練習
9		講義・演習	より自由度と難易度の高い振付	授業内容を自主練習
10		講義・演習	前週の踊り込み	授業内容を自主練習
11		講義・演習	自己表現を求めた踊り	授業内容を自主練習
12		講義・演習	テスト振付	授業内容を自主練習
13		講義・演習	テスト	授業内容を自主練習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Ableton Advance (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	阿瀬文彦
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コンサートや舞台などの現場を想定したAbleton Liveの使用法の学習。						
到達目標	・PA現場で必須となっているAbleton Liveのオペレートを習得。 ・現場でのLiveセットの仕込みをスピーディーに行える。 ・オーディオトラック、MIDIトラックの編集技術を習得。						
評価方法と基準	定期テスト(実技試験:70%) 出席率30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	起動方法からLiveの初期設定、基本概念と特徴、PA現場での具体的な活用方法	授業内容の復習
2		講義・演習	Ableton Liveセッションビューについて	セッションビューについて復習
3		講義・演習	Ableton Liveアレンジメントビューについて	アレンジメントビューについて復習
4		講義・演習	Ableton LiveのWarpモードでの各パラメーターの特性	授業で学んだ特性について復習
5		講義・演習	舞台を想定したポン出しの仕込み1	仕込みと手順について復習1
6		講義・演習	舞台を想定したポン出しの仕込み2	仕込みと手順について復習2
7		講義・演習	MIDIコントローラーの設定と操作	設定と操作について復習
8		講義・演習	ライブ・コンサートでのマニピュレート技術を学習	授業内容の復習
9		講義・演習	ライブ・コンサートでのオケの仕込み	授業内容の復習
10		講義・演習	演者のイヤモニへ送るクリック・トラックの作成とルーティングを学習	授業内容の復習
11		講義・演習	ライブ・トラックのサイズや構成の変更を学習	授業内容の復習
12		講義・演習	内蔵エフェクトについて学習	授業で紹介した各エフェクトについて復習
13		講義・演習	実技試験	試験で作成したLiveセットを再度確認し内容を復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Ableton Advance (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	阿瀬文彦
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コンサートや舞台などの現場を想定したAbleton Liveの使用法の学習。						
到達目標	・PA現場で必須となっているAbleton Liveのオペレートを習得。 ・現場でのLiveセットの仕込みをスピーディーに行える。 ・オーディオトラック、MIDIトラックの編集技術を習得。						
評価方法と基準	定期テスト(実技試験:70%) 出席率30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	Ableton Liveでのオーディオレコーディング実習	授業内容の復習
2		講義・演習	前回の授業でレコーディングしたオーディオ素材のエディット作業	学習したエディット方法の復習
3		講義・演習	Ableton Liveでマルチマイクで収録したドラム素材のミックス処理	学習したミックスの復習
4		講義・演習	Ableton Liveでの楽曲パラデータを使用してのミックスを学習1	授業で配布したデータの確認と整理1
5		講義・演習	Ableton Liveでの楽曲パラデータを使用してのミックスを学習2	授業で配布したデータの確認と整理2
6		講義・演習	MIDIトラックでの基本的な打ち込みを学習1	授業内容の復習
7		講義・演習	MIDIトラックでの基本的な打ち込みを学習2	授業内容の復習
8		講義・演習	Ableton Live内蔵サンプラーの学習	授業内容の復習
9		講義・演習	Ableton Live内蔵シンセサイザーの学習	授業内容の復習
10		講義・演習	Ableton Liveのグループクオンタイズについて学習	オーディオのクオンタイズについて復習
11		講義・演習	サンプルエディタを使用したオーディオのタイミング補正を学習	タイミング補正について復習
12		講義・演習	セッションビューを使用してのライブパフォーマンス。素材仕込み	授業で作成したデータの整理
13		講義・演習	実技試験	試験で作成したLiveセットを再度確認し内容をしっかり復習する
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Mastering Technique Basic (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	前田基彦
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽制作におけるマスタリングの基本的な知識と技術を、DAWや各種プラグインを用いて体系的に学ぶ。マスタリングに必要な音響理論、ツールの操作方法、音質評価、フォーマット別納品要件など、実務レベルで求められる要素を段階的に習得する。						
到達目標	・マスタリングの役割と工程を理解し、他工程(ミックス、配信)との関係を説明できる ・EQ・コンプ・リミッター・マルチバンド処理などの基本的なマスタリングツールを目的に応じて使用できる ・音源のステレオバランス、ラウドネス、音質を評価し、改善点を見つけられる ・目的に応じたマスタリングチェーンを自分で構築し、処理内容を言語化できる ・CDや配信ストリーミングなど、メディア別の納品基準を理解し、正しく書き出せる ・マスタリング済み音源を自信を持って発表でき、ポートフォリオとして提出できる						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 出席数40% シラバスを基に要事前学習。上記到達目標項目に関する定期テストを行う。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	オリエンテーション／マスタリングの全体像	「自分の考えるマスタリングとは何か？」A4レポート1枚(300字以上)提出
2		講義・演習	マスタリングの歴史と音楽産業との関係	配信プラットフォームのマスタリング仕様を調べ、要点をまとめる(表形式)
3		講義・演習	マスタリング環境の構築①(モニタリング)	自宅・学校のモニタリング環境を写真付きで記録し、改善点を考察(提出)
4		講義・演習	マスタリング環境の構築②(DAWとプラグイン)	自分が使うマスタリング用ツールのリスト作成＋基本設定をスクショ提出
5		講義・演習	音質評価とリファレンス音源の聞き方	市販音源(3曲)のリファレンス分析(周波数・音圧・ステレオ感)レポート提出
6		講義・演習	実習①(自分のミックスを持参し試しにマスタリング)	自分のミックス音源を使って、簡単なマスタリング処理(EQ＋LIM)を実施・提出
7		講義・演習	EQ(イコライザー)の基礎	EQを使って「不要帯域のカット」と「補正EQ」の2パターンを作成・比較提出
8		講義・演習	実習②(EQによる音色補正と試聴)	別の音源(配布素材)をマスタリングEQ処理。A/B比較音源を提出
9		講義・演習	コンプレッサーの役割とセッティング基礎	同じ素材で「軽いコンプ」と「強めのコンプ」の2種類を適用・提出
10		講義・演習	実習③(コンプのかけ比べと評価)	複数の設定でLUFS値・ピーク値を比較。数値＋音源で提出
11		講義・演習	リミッターとラウドネス(LUFS)管理	曲を-14LUFSに収めた状態と-9LUFSの2パターンで提出。メモ付き
12		講義・演習	実習④(マスター音圧の調整と確認)	今までの処理を統合し、ワンループ(60秒)をマスタリングして提出
13		講義・演習	マスタリングチェーンの考え方	自分なりのマスタリングチェーン設計図を作成(図解＋説明)
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Mastering Technique Basic (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	前田基彦
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽制作におけるマスタリングの基本的な知識と技術を、DAWや各種プラグインを用いて体系的に学ぶ。マスタリングに必要な音響理論、ツールの操作方法、音質評価、フォーマット別納品要件など、実務レベルで求められる要素を段階的に習得する。						
到達目標	・マスタリングの役割と工程を理解し、他工程(ミックス、配信)との関係を説明できる ・EQ・コンプ・リミッター・マルチバンド処理などの基本的なマスタリングツールを目的に応じて使用できる ・音源のステレオバランス、ラウドネス、音質を評価し、改善点を見つけられる ・目的に応じたマスタリングチェーンを自分で構築し、処理内容を言語化できる ・CDや配信ストリーミングなど、メディア別の納品基準を理解し、正しく書き出せる ・マスタリング済み音源を自信を持って発表でき、ポートフォリオとして提出できる						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 出席数40% シラバスを基に要事前学習。上記到達目標項目に関する定期テストを行う。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	実習⑤(簡単なマスタリングチェーン構築)	実際に組んだチェーンを用いてマスタリングした音源(配布素材)提出
2		講義・演習	マルチバンド処理の基本	MBコンプ適用の音源と、適用前の比較音源を提出(A/B比較)
3		講義・演習	実習⑥(実際のミックス音源を使って処理)	EQ/コンプ/MB/リミッター含むフルチェーンの60秒マスタリング音源
4		講義・演習	ステレオイメージと空間の広がり調整	MS処理やステレオ拡張を適用したバージョンと元のバージョンを提出
5		講義・演習	中間プレゼン/学生が自分で行ったマスタリング発表+講評	自分でマスタリングした1曲を発表(MP3提出+簡単な処理解説メモ)
6		講義・演習	マスタリングとメディア形式の関係	各納品形式(CD用, 配信用, YouTube等)の仕様を1枚の資料にまとめる
7		講義・演習	配信プラットフォームごとの仕様(Spotify, Apple, YouTube etc.)	Spotify, Apple, YouTubeのラウドネス基準を表で比較(LUFS・TPなど)
8		講義・演習	マスタリングのトラブルシューティング①(歪み・ノイズ)	提出された課題音源のうち、問題のあるものを1つ選び、改善案をレポート
9		講義・演習	マスタリングのトラブルシューティング②(ラウドネス・バランス)	ノイズ除去やラウドネス調整を実践。問題音源を修正して提出
10		講義・演習	実習⑦(実案件を想定した課題提出)	「他人のミックス音源」(配布)をマスタリングして納品音源として提出
11		講義・演習	成果発表リハーサル(講師からのフィードバック)	Week10の課題に関して、書き出し設定/ラウドネス/処理内容を文書化し提出
12		講義・演習	成果発表会(マスタリング済音源をプレゼン+試聴)	マスタリング音源(フル尺 or 2分以内)を発表(講師+クラス講評)
13		講義・演習	総まとめ・レビュー・ポートフォリオ提出と今後の学習指針	全課題のポートフォリオを1ファイルにまとめて提出(処理解説つき)
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Music Production Techniques (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	檜谷瞬六
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①音楽制作に於けるレコーディング及びミキシングプロダクションを、現場を想定したスタジオワークより学ぶ。 ②レコーディングエンジニアとして求められるスピーディーな録音技術や、クリエイティブなサウンドメイクはもちろん、スタジオワークを通じた共同作業によるチームワーク、コミュニケーション能力なども学ぶ。						
到達目標	①現場を想定した様々なスタジオワークを通じて、レコーディングエンジニアとして必要なスピーディーなオペレート能力及びサウンドメイクを身に付ける。 ②レコーディングエンジニアとしてだけでなく、音楽プロデューサーとしての考え方、視点、音楽制作能力なども身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(筆記30% 実技70%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	レコーディングプロダクションについて	レコーディングプロダクションについて、振り返りレポート作成。
2		講義・演習	ドラムレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解	ドラムレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解、振り返りレポート作成。
3		講義・演習	ドラムレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリングバランスおよびProToolsオペレータの習得	ドラムレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリングバランスおよびProToolsオペレータの習得、振り返りレポート作成。
4		講義・演習	ベースレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解	ベースレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解、振り返りレポート作成。
5		講義・演習	ベースレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリングバランスおよびProToolsオペレータの習得	ベースレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリングバランスおよびProToolsオペレータの習得、振り返りレポート作成。
6		講義・演習	ギターレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解	ギターレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解、振り返りレポート作成。
7		講義・演習	ギターレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリングバランスおよびProToolsオペレータの習得	ギターレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリングバランスおよびProToolsオペレータの習得、振り返りレポート作成。
8		講義・演習	キーボードについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解	キーボードについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解、振り返りレポート作成。
9		講義・演習	キーボードについて ・実践を通じて、モニタリングバランスおよびProToolsオペレータの習得	キーボードについて ・実践を通じて、モニタリングバランスおよびProToolsオペレータの習得、振り返りレポート作成。
10		講義・演習	ヴォーカルレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解	ヴォーカルレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解、振り返りレポート作成。
11		講義・演習	ヴォーカルレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリングバランスおよびProToolsオペレータの習得	ヴォーカルレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリングバランスおよびProToolsオペレータの習得、振り返りレポート作成。
12		講義・演習	バンドレコーディングについて ・実践を通じてこれまでのエンジニアリング技術を発揮しながらプロダクションワークを遂行する。	バンドレコーディングについて ・実践を通じてこれまでのエンジニアリング技術を発揮しながらプロダクションワークを遂行する。、振り返りレポート作成。
13		講義・演習	メイン及びアシスタントエンジニアをロールプレイングしながら、バンドレコーディングを実践。実技試験を行う。	メイン及びアシスタントエンジニアをロールプレイングしながら、バンドレコーディングを実践。実技試験を行う。、振り返りレポート作成。
14		講義・演習	ミュージカルのライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について、ビッグバンドのレコーディング技術について	ミュージカルのライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について、ビッグバンドのレコーディング技術について 振り返りと自習
15		講義・演習	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Music Production Techniques (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	檜谷瞬六
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①音楽制作に於けるレコーディング及びミキシングプロダクションを、現場を想定したスタジオワークより学ぶ。 ②レコーディングエンジニアとして求められるスピーディーな録音技術や、クリエイティブなサウンドメイクはもちろん、スタジオワークを通じた共同作業によるチームワーク、コミュニケーション能力なども学ぶ。						
到達目標	①現場を想定した様々なスタジオワークを通じて、レコーディングエンジニアとして必要なスピーディーなオペレート能力及びサウンドメイクを身に付ける。 ②レコーディングエンジニアとしてだけでなく、音楽プロデューサーとしての考え方、視点、音楽制作能力なども身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(筆記30% 実技70%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ミックスプロダクションについて	課題素材を元に時間外にて復習
2		講義・演習	アナログ機材とプラグインについて ・エフェクターの機械構造及びプラグインとの差異について	課題素材を元に時間外にて復習
3		講義・演習	DSPフォーマットとNativeフォーマットの仕組みと性質について	課題素材を元に時間外にて復習
4		講義・演習	ドラムのミックス処理について ・楽曲ジャンル及び素材に適したダイナミクス、EQ、空間処理の理解と実践	ドラムの課題素材に基づいて復習
5		講義・演習	ベースのミックス処理について ・楽曲ジャンル及び素材に適したダイナミクス、EQ、空間処理の理解と実践	ベースの課題素材に基づいて復習
6		講義・演習	ギターのミックス処理について ・楽曲ジャンル及び素材に適したダイナミクス、EQ、空間処理の理解と実践	ギターの課題素材に基づいて復習
7		講義・演習	キーボードのミックス処理について ・楽曲ジャンル及び素材に適したダイナミクス、EQ、空間処理の理解と実践	キーボードの課題素材に基づいて復習
8		講義・演習	ヴォーカルのミックス処理について ・楽曲ジャンル及び素材に適したダイナミクス、EQ、空間処理の理解と実践	ヴォーカルの課題素材に基づいて復習
9		講義・演習	ミックスバランス及びトータル処理について① ・リファレンスレベルとダイナミクスについて、マスターEQ、COMPの概念と処理について	課題素材を元に時間外にて復習
10		講義・演習	ミックスバランス及びトータル処理について② ・音楽的ミックスとオートメーションについて	課題素材を元に時間外にて復習
11		講義・演習	マスタリングの基本概念とプロダクションについて	課題素材を元に時間外にて復習
12		講義・演習	マスタリングに於けるダイナミクス処理について	課題素材を元に時間外にて復習
13		講義・演習	ミックス及びマスタリングプロダクションについて学んだことを活かし、プロデューサー的視点と感性の元、課題曲のミックス及びマスタリング作品を提出	ポートフォリオ作成
14		講義・演習	卒業進級制作のライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について	卒業進級制作のライブレコーディングに向けたシステム構築及びProToolsセッション作成について 振り返りと自習
15		講義・演習	卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理について	卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Art of K-POP(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	KYO-HEY
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ダンスヴォーカルとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。 ②ヴォーカルとダンスの科目に関係し、その両方を同時に行えるようになスキルを身につける。 ③自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドも含め学んで欲しい。 ④踊っても歌がブレない身体作りや両立させる為の体の使い方等を、作品作りを通して向上させる。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	・課題成果「出席・授業態度」:40%・実技試験:60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	個人目標設定を行う	設定した目標に対するアプローチを考える
2		講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (アイソレーション、ヒット、ウォークアウト)	次の講義までに復習を要する
3		講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (アイソレーション、ポップ、サイドスライド)	次の講義までに復習を要する
4		講義・演習	リズムとグループの仕組みを知る	次の講義までに復習を要する
5		講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (体重移動)	次の講義までに復習を要する
6		講義・演習	簡単な動きをつけた時の体の使い方(歌唱)を知る	次の講義までに復習を要する
7		講義・演習	簡単なステップをつけた時の体の使い方(歌唱)を知る	次の講義までに復習を要する
8		講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (リズムを意識して振り付けを行える)	次の講義までに復習を要する
9		講義・演習	振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを行う	次の講義までに復習を要する
10		講義・演習	ステージパフォーマンスの流れを知る	次の講義までに復習を要する
11		講義・演習	振り付け、構成付き歌唱パフォーマンスを行うことができる	次の講義までに復習を要する
12		講義・演習	試験	試験対策
13		講義・演習	試験総括(改善点を知る)	試験で出来なかった部分を復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持って来ること	
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、ワイヤレスマイク、ダミーマイク、キーボード、スニーカー				

科目名	Art of K-POP(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	KYO-HEY
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ダンスヴォーカルとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。 ②ヴォーカルとダンスの科目に関係し、その両方を同時に行えるようになスキルを身につける。 ③自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドも含め学んで欲しい。 ④踊っても歌がブレない身体作りや両立させる為の体の使い方等を、作品作りを通して向上させる。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	・課題成果「出席・授業態度」:40%・実技試験:60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	歌唱時の振付に対する体の使い方を理解する	次の講義までに復習を要する
2		講義・演習	リズムを持続したまま歌唱パフォーマンスが出来る	次の講義までに復習を要する
3		講義・演習	リズム＋グループを持続したまま歌唱パフォーマンスが出来る	次の講義までに復習を要する
4		講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる(アイソレーション、ポップ、フレックス)	次の講義までに復習を要する
5		講義・演習	ボディウェイブ初級が出来る	次の講義までに復習を要する
6		講義・演習	ボディウェイブ中級が出来る	次の講義までに復習を要する
7		講義・演習	歌唱パフォーマンス時の体のバランスを自分自身で整えることができる	次の講義までに復習を要する
8		講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる(アイソレーション、ストップ、エアポーズ)	次の講義までに復習を要する
9		講義・演習	自分で振り付け、ステージパフォーマンスを考えることができる	次の講義までに復習を要する
10		講義・演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを行うことができる	次の講義までに復習を要する
11		講義・演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める	次の講義までに復習を要する
12		講義・演習	試験	試験対策
13		講義・演習	試験総括(改善点を知る)	試験で出来なかった部分を復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持って来ること	
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、ワイヤレスマイク、ダミーマイク、キーボード、スニーカー				

科目名	Self accompaniment(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	日高優貴
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	アコースティックギターを使用して自己表現を試みるシンガーソングライターをサポート 授業進行状況により作詞作曲のディレクション						
到達目標	自信を持って自作曲を表現できるようにする						
評価方法と基準	弾き語りに必要とされるアコースティックギターの演奏技術 平常点(受講姿勢、復習状況、出席率)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	講義1年間の説明。生徒のプレイアビリティ診断。	資料をもとに予習・復習・練習を要する
2		講義・演習	アコースティックギターに必要な道具の紹介、説明	資料をもとに予習・復習・練習を要する
3		講義・演習	作成した資料を用いてローポジションでのコード紹介	資料をもとに予習・復習・練習を要する
4		講義・演習	3コード紹介	資料をもとに予習・復習・練習を要する
5		講義・演習	ダイアトニックコード紹介、説明	資料をもとに予習・復習・練習を要する
6		講義・演習	ストローク紹介、説明	資料をもとに予習・復習・練習を要する
7		講義・演習	カポタスト使用方法や目的を説明	資料をもとに予習・復習・練習を要する
8		講義・演習	アルペジオ奏法を紹介、説明	資料をもとに予習・復習・練習を要する
9		講義・演習	指弾きについて1	資料をもとに予習・復習・練習を要する
10		講義・演習	指弾きについて2	資料をもとに予習・復習・練習を要する
11		講義・演習	選択した楽曲演奏1	資料をもとに予習・復習・練習を要する
12		講義・演習	選択した楽曲演奏2	資料をもとに予習・復習・練習を要する
13		講義・演習	選択した楽曲演奏3	資料をもとに予習・復習・練習を要する
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
teamsにて共有				

科目名	Self accompaniment(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	日高優貴
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	アコースティックギターを使用して自己表現を試みるシンガーソングライターをサポート 授業進行状況により作詞作曲のディレクション						
到達目標	自信を持って自作曲を表現できるようにする						
評価方法と基準	弾き語りに必要とされるアコースティックギターの演奏技術 平常点(受講姿勢、復習状況、出席率)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。
2		講義・演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
3		講義・演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
4		講義・演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
5		講義・演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
6		講義・演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
7		講義・演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
8		講義・演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
9		講義・演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
10		講義・演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
11		講義・演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
12		講義・演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
13		講義・演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Lyrics (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	増田祐生
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	昨今の日本の音楽を含むエンターテインメントコンテンツが海外諸国から評価を得ている事例を元に、顕在化している表面部分だけではなく作品ごとの潜在的インスピレーションの源泉を探りながら「日本らしさ」が好まれる context(文脈)を探り 実際に作品に触れ演奏・歌唱をしながら自身の価値観の多様性、クリエイティビティ、自分の言葉づくり、演奏技術を深め、育んでいきます。						
到達目標	国外から日本の音楽が評価を得ている事由を多方面からクリエイティブに解釈し それを元に自身のアーティスト性、音楽性、テクニカルに落とし込むことが出来る。 また過去の優れた作品へのリスペクト、理解度、考察を深め、それらを再解釈・再構築し、演奏・表現出来る。 同時に自身が好む音楽とボーカル・リリックスのアーキテクチャ(構成・構造)を育み、自分にしか発信できない言葉・ストーリーを自らの作品に活かすことができる。						
評価方法と基準	授業出席率 40点、課題提出 40点、毎週の達成 20点の100点満点にて評価						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	授業概要説明、スライド資料を用いながら昨今の海外でのJ-POPの消費のされ方について理解を深める。	ストリーミングサービスなどを利用して未知の楽曲に触れる。	
2		講義・演習	Unknown Listening ①: ブラインドでInstrumental楽曲の背景を「聴いて」「見る」またシート 項目に従いレタリングする	非言語(歌詞以外)サウンドにフォーカスして様々な楽曲を聴く。	
3		講義・演習	Song Lecture①: 日本の季節を表現するSeasonalな楽曲のリスニング歌詞のcontext(文脈)の考察をして、レタリングする。また詩のモノログをする。	課題曲①のリスニング	
4		講義・演習	Voice Coloring①: 楽曲の考察を元に情緒を感じる声色を選定し、実際に歌唱する。	課題曲①のリスニング	
5		講義・演習	Song Lecture①: の発表 1人ずつ授業3,4をもとに1コーラスずつ歌唱をする。講師によるフィードバック。	自分のデバイスに歌唱している様子を録音し客観的にリスニングする。	
6		講義・演習	Song Lecture②: 日本の秋を表現するSeasonalな楽曲のリスニング歌詞のcontext(文脈)の考察をして、レタリングする。また詩のモノログをする。	課題曲②のリスニング□	
7		講義・演習	Voice Coloring②: 楽曲の考察を元に情緒を感じる声色を選定し、実際に歌唱する。	課題曲②のリスニング□	
8		講義・演習	Song Lecture②: の発表 1人ずつ授業6,7をもとに1コーラスずつ歌唱をする。講師によるフィードバック。	自分のデバイスに歌唱している様子を録音し客観的にリスニングする。	
9		講義・演習	Song Lecture③: 現代のJ-POPシーンに大きな影響を与えた楽曲のリスニング歌詞のcontext(文脈)の考察をして、レタリングする。また詩のモノログをする。	課題曲③のリスニング□	
10		講義・演習	Voice Coloring③: 楽曲の考察を元に情緒を感じる声色を選定し、実際に歌唱する。	課題曲③のリスニング□	
11		講義・演習	Song Lecture③: の発表 1人ずつ授業9,10をもとに1コーラスずつ歌唱をする。講師によるフィードバック。	自分のデバイスに歌唱している様子を録音し客観的にリスニングする。	
12		講義・演習	Unknown Listening②: ブラインドでInst楽曲、海外のヴォーカル楽曲の背景を「聴いて」「見る」またシート項目に従いレタリングする	授業内で触れた音楽を聴くロケーションを変えて「聴いて」「見る」	
13		講義・演習	発表①: 前期取り組んだ楽曲の中から1曲選んで一人ずつ歌唱をする。また楽曲についてのプレゼンテーションをする。	選曲と準備	
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Lyrics (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	増田祐生
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	昨今の日本の音楽を含むエンターテインメントコンテンツが海外諸国から評価を得ている事例を元に、顕在化している表面部分だけではなく作品ごとの潜在的インスピレーションの源泉を探りながら「日本らしさ」が好まれるcontext(文脈)を探り 実際に作品に触れ演奏・歌唱をしながら自身の価値観の多様性、クリエイティビティ、自分の言葉づくり、演奏技術を深め、育んでいきます。						
到達目標	国外から日本の音楽が評価を得ている事由を多方面からクリエイティブに解釈し それを元に自身のアーティスト性、音楽性、テクニカルに落とし込むことが出来る。 また過去の優れた作品へのリスペクト、理解度、考察を深め、それらを再解釈・再構築し、演奏・表現出来る。 同時に自身が好む音楽とボーカル・リリックスのアーキテクチャ(構成・構造)を育み、自分にしか発信できない言葉・ストーリーを自らの作品に活かすことができる。						
評価方法と基準	授業出席率 40点、課題提出 40点、毎週の達成 20点の100点満点にて評価						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	Unknown Listening③: ブラインドでInstrumental楽曲、海外のヴォーカル楽曲の背景を「聴いて」「見る」 またシート項目に従いレタリングする	授業内で触れた音楽を聴く	ロケーションを変えて「聴いて」「見る」
2		講義・演習	Song Lecture④: 日本の演歌・歌謡曲ジャンルの楽曲のリスニング 歌詞のcontext(文脈)の考察をして、レタリングする。また詩のモノログをする。	課題曲④のリスニング	
3		講義・演習	Voice Coloring④: 楽曲の考察を元に情緒を感じる声色を選定し、実際に歌唱する。	課題曲④のリスニング	
4		講義・演習	Song Lecture④: の発表 1人ずつ授業2,3をもとに1コーラスずつ歌唱をする。講師によるフィードバック。	自分のデバイスに歌唱している様子を録音し客観的にリスニングする。	
5		講義・演習	Song Lecture⑤: 日本の「青春」について描かれた楽曲のリスニング 歌詞のcontext(文脈)の考察をして、レタリングする。また詩のモノログをする。	課題曲⑤のリスニング	
6		講義・演習	Voice Coloring⑤: 楽曲の考察を元に情緒を感じる声色を選定し、実際に歌唱する。	課題曲⑤のリスニング	
7		講義・演習	Song Lecture⑤: の発表 1人ずつ授業5,6をもとに1コーラスずつ歌唱をする。講師によるフィードバック。	自分のデバイスに歌唱している様子を録音し客観的にリスニングする。	
8		講義・演習	Song Lecture⑥: 日本の「恋愛」について描かれた楽曲のリスニング 歌詞のcontext(文脈)の考察をして、レタリングする。また詩のモノログをする。	課題曲⑥のリスニング	
9		講義・演習	Voice Coloring⑥: 楽曲の考察を元に情緒を感じる声色を選定し、実際に歌唱する。	課題曲⑥のリスニング	
10		講義・演習	Song Lecture⑥: の発表 1人ずつ授業8,9をもとに1コーラスずつ歌唱をする。講師によるフィードバック。	自分のデバイスに歌唱している様子を録音し客観的にリスニングする。	
11		講義・演習	Unknown Listening④: 授業内で取り扱っていないジャンルの楽曲をリスニングする。 全員でショートフレーズを歌唱しながら楽曲のcontextなどをディスカッションする。	自分の中に芽生えた好きな音楽のアーキテクチャ(構造・構成)を理解する	
12		講義・演習	発表②: 自身が選曲・もしくは作詞作曲した楽曲をフルコーラス歌唱、また楽曲についてのプレゼンテーションをする。	自身の言葉で伝える・自身の声で演奏する準備	
13		講義・演習	発表②: 自身が選曲・もしくは作詞作曲した楽曲をフルコーラス歌唱、また楽曲についてのプレゼンテーションをする。	自身の言葉で伝える・自身の声で演奏する準備	
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	DJワークショップ（3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	U.D.
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 （単位）	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	基本的なミックス技術を発展させ、より安定した再生と自然なつながりを目指す。手動でのビートマッチの精度向上、ミックスの長さや構成の調整、ジャンルや楽曲の違いに応じたつながり方を学ぶ。また、複数曲を連続して扱う中で安定したプレイができるよう反復練習を行う。						
到達目標	手動でBPMを調整しながらミックスできる 安定したリズムでミックスを継続できる 曲の展開に応じてミックスの長さを調整できる 3～4曲を流れを意識して再生できる 基本的なミス（ずれ・音被り）を自分で修正できる						
評価方法と基準	実技テストによる採点と授業出席率の平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前回復習・安定化	自分のミックスを振り返る
2		講義・演習	手動ビートマッチ強化	同BPM曲を探す
3		講義・演習	ズレ修正トレーニング	リズムを聴き分ける
4		講義・演習	ミックスの長さ調整	長くつなげるイメージ
5		講義・演習	曲展開に合わせる	曲構成をメモ
6		講義・演習	ジャンル別ミックス	同ジャンル曲を用意
7		講義・演習	異ジャンルミックス	異なる雰囲気曲を選ぶ
8		講義・演習	ミス対応力	失敗例動画を見る
9		講義・演習	3～4曲連続ミックス	セット考案
10		講義・演習	安定性強化実習	繰り返し練習
11		講義・演習	個別課題練習	弱点整理
12		講義・演習	通しプレイ	本番想定
13		講義・演習	ミニ発表	最終確認
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	DJワークショップ（4）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	U.D.
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 （単位）	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ミックス技術に加え、DJとしての「表現」を強化する。EQの応用操作、フィルターやエフェクト（エコー・リバーブ等）の使用方法を学び、楽曲の盛り上げ方や雰囲気づくりを習得する。「聴かせるミックス」を意識し、音の抜き差しや展開づくりを実践する。						
到達目標	EQを意図的に操作して音の印象を変えられる エフェクトを適切に使用できる 楽曲の盛り上がりを意識したミックスができる 単調でないプレイ（変化のある構成）ができる 「聴かせる」意識を持ったDJプレイができる						
評価方法と基準	実技テストによる採点と授業出席率の平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	表現とは何か	印象的なDJ動画を見る
2		講義・演習	EQ応用(MID/HIGH)	音の違いに注目
3		講義・演習	フィルター操作	音の変化を観察
4		講義・演習	エフェクト基礎	エフェクト動画視聴
5		講義・演習	エコー・リバーブ	空間の変化を意識
6		講義・演習	エフェクト実践	使いたい曲を選ぶ
7		講義・演習	抜き差しテクニック	盛り下げ部分を探す
8		講義・演習	盛り上げの作り方	ドロップ意識
9		講義・演習	表現ミックス実習	3曲用意
10		講義・演習	個性あるプレイ	好きなDJ分析
11		講義・演習	セット改善	自分のクセ把握
12		講義・演習	通し練習	表現意識で練習
13		講義・演習	ミニ発表	最終調整
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	クリエイティブワークショップ(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	金子勝洋
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	この授業は、音楽理論の基礎を学びながら小作品を制作、発表する。それらを通して、ミュージシャンとしての基礎力向上と、自己表現力を育むことを目標としている。ヴォーカリストは耳を使って音楽をすることに長けており、音楽理論に触れる機会が少ない傾向にある。そのため、創作を通して、音楽理論やハーモニー楽器に触れて、広い視野で音楽を理解する力を養う。そして、他人の評価に挫けたり、全てを委ねてしまうことなく、自らの表現を恐れずに発信できるミュージシャンへと成長することを促す。						
到達目標	①小作品の制作を通して、音楽理論の基礎をより深く理解する。②自分の制作の経緯、意図、想いを言語化し発表する。③授業外で時間の調整を行い、多様なスケジュールの下でも、課題を期日までに創る。④定期的なプレゼンテーションを通して、自分の作品が他者の目に晒されることの緊張や不快感と向き合い、自分らしい対処法を見つける。⑤0から1を創る経験を通して、身の回りにある音楽に対して、尊ぶ気持ちを養う。						
評価方法と基準	①1学期を通して、最低3回のプレゼンテーションを行う。②学期末に1コーラス以上の作品を提出する。③授業が全ての生徒にとってセーフスペースになるよう貢献する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業の概要説明、イントロダクション	課題制作
2		講義・演習	インターバルの復習、Top Liningの実践	課題制作
3		講義・演習	テスト、Show vs Tellを理解する	課題制作
4		講義・演習	トライアドコードの復習、比喩のgroup work	課題制作
5		講義・演習	7thコードの復習、ここまでのまとめの小作曲	課題制作
6		講義・演習	メジャーコード、ワンコードの作曲	課題制作
7		講義・演習	マイナーコード、ワンコードの作曲2	課題制作
8		講義・演習	メジャーコード進行を作って小作曲	課題制作
9		講義・演習	マイナーコード進行を作って小作曲	課題制作
10		講義・演習	キーカラーを理解し小作曲	課題制作
11		講義・演習	期末課題に向けてQ&A	期末課題制作
12		講義・演習	作品提出、期末課題プレゼン1	期末課題制作
13		講義・演習	期末課題プレゼン2	期末課題制作
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
The Songwriter's Workshop Melody, Harmony, Writing Better Lyrics, コード理論大全				

科目名	クリエイティブワークショップ(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	金子勝洋
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	この授業は、音楽理論の基礎を学びながら小作品を制作、発表する。それらを通して、ミュージシャンとしての基礎力向上と、自己表現力を育むことを目標としている。ヴォーカリストは耳を使って音楽をすることに長けており、音楽理論に触れる機会が少ない傾向にある。そのため、創作を通して、音楽理論やハーモニー楽器に触れて、広い視野で音楽を理解する力を養う。そして、他人の評価に挫けたり、全てを委ねてしまうことなく、自らの表現を恐れずに発信できるミュージシャンへと成長することを促す。						
到達目標	①小作品の制作を通して、音楽理論の基礎をより深く理解する。②自分の制作の経緯、意図、想いを言語化し発表する。③授業外で時間の調整を行い、多様なスケジュールの下でも、課題を期日までに創る。④定期的なプレゼンテーションを通して、自分の作品が他者の目に晒されることの緊張や不快感と向き合い、自分らしい対処法を見つける。⑤0から1を創る経験を通して、身の回りにある音楽に対して、尊ぶ気持ちを養う。						
評価方法と基準	①1学期を通して3～4回以上プレゼンをする(回数はクラスによって異なる)②学期末にオリジナル曲をパフォーマンスする。③授業が全ての生徒にとってセーフスペースになるよう貢献する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	理論 テーマ作曲1 曲のトーン	課題制作
2		講義・演習	理論 Q&A	作品原案
3		講義・演習	テーマ作曲1プレゼンテーション	課題制作
4		講義・演習	理論 テーマ作曲2 韻を使った作詞	作品原案
5		講義・演習	理論 Q&A	課題制作
6		講義・演習	テーマ作曲2プレゼンテーション	課題制作
7		講義・演習	理論 テーマ作曲3 New Point of View	課題制作
8		講義・演習	理論 Q&A	作品原案
9		講義・演習	テーマ作曲3プレゼンテーション	課題制作
10		講義・演習	期末パフォーマンスについて	作品の完成
11		講義・演習	Q&A	作品の完成
12		講義・演習	プレゼンテーション group1 パフォーマンス	プレゼンテーション準備
13		講義・演習	プレゼンテーション group2 パフォーマンス	プレゼンテーション準備
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
The Songwriter's Workshop Melody, Harmony, Writing Better Lyrics, コード理論大全				

科目名	Rec Basic(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	前田基彦
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	Vocalと楽器のレコーディングをする授業です。実技と座学で機材＆音との接しかたや楽曲の捉え方までエンジニアの立場から多義に渡り解説します。 持ち物は、 ①授業内で使用する音源等持ち帰り用 USBメモリ・ハードディスクなどの外部記憶媒体 ②自分のリファレンス(基準)となるヘッドフォンまたはイヤホン(接続はTRSまたはミニTRS)						
到達目標	レコーディングの実践ワークフロー理解。ミュージシャンとして基礎レベルのレコーディング機材使用が出来るようになる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 出席数40% シラバスを基に要事前学習。上記到達目標項目に関する定期テストを行う。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	1年の計画 録音の流れを説明できる	ノート復習 録音ファイル復習聴取
2		講義・演習	録音しファイルを作成	ノート復習 録音ファイル復習聴取
3		講義・演習	録音しファイルを作成	ノート復習 録音ファイル復習聴取
4		講義・演習	録音したファイルを自身の環境へ展開する	ノート復習 録音ファイル復習聴取
5		講義・演習	録音したファイルを自身の環境へ展開しエフェクトを掛ける	ノート復習 録音ファイル復習聴取
6		講義・演習	ミックスの基礎を習得する	ノート復習 録音ファイル復習聴取
7		講義・演習	さまざまな楽曲のバ表現方法の理解をする 1 ヴォーカル	ノート復習 録音ファイル復習聴取
8		講義・演習	さまざまな楽曲のバ表現方法の理解をする 2 ギター	ノート復習 録音ファイル復習聴取
9		講義・演習	さまざまな楽曲のバ表現方法の理解をする 3 Drums Bass	ノート復習 録音ファイル復習聴取
10		講義・演習	録音を通し自己表現のヒントを見つける	ノート復習 録音ファイル復習聴取
11		講義・演習	録音を通し自己表現のヒントを見つける	ノート復習 録音ファイル復習聴取
12		講義・演習	ミックスの基礎を習得する	ノート復習 録音ファイル復習聴取
13		講義・演習	総括	ノート復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で録音の楽曲のMix作業	
【使用教科書・教材・参考書】				
JAPRS サウンドレコーディング技術概論 Sound & Recording マガジン				

科目名	Rec Basic(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	前田基彦
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	Vocalと楽器のレコーディングをする授業です。実技と座学で機材＆音との接しかたや楽曲の捉え方までエンジニアの立場から多義に渡り解説します。 持ち物は、 ①授業内で使用する音源等持ち帰り用 USBメモリ・ハードディスクなどの外部記憶媒体 ②自分のリファレンス(基準)となるヘッドフォンまたはイヤホン(接続はTRSまたはミニTRS)						
到達目標	レコーディングの実践ワークフロー理解、機材の基礎レベルの使用が出来るようになる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 出席数40% シラバスを基に要事前学習。上記到達目標項目に関する定期テストを行う。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	録音を通し自己表現のヒントを見つける	ノート復習 録音ファイル復習聴取
2		講義・演習	録音を通し自己表現のヒントを見つける	ノート復習 録音ファイル復習聴取
3		講義・演習	録音を通し自己表現のヒントを見つける	ノート復習 録音ファイル復習聴取
4		講義・演習	録音を通し自己表現のヒントを見つける	ノート復習 録音ファイル復習聴取
5		講義・演習	ミックスの基礎を習得する	ノート復習 録音ファイル復習聴取
6		講義・演習	録音を通し自己表現のヒントを見つける	ノート復習 録音ファイル復習聴取
7		講義・演習	録音を通し自己表現のヒントを見つける	ノート復習 録音ファイル復習聴取
8		講義・演習	録音を通し自己表現のヒントを見つける	ノート復習 録音ファイル復習聴取
9		講義・演習	録音を通し自己表現のヒントを見つける	ノート復習 録音ファイル復習聴取
10		講義・演習	録音を通し自己表現のヒントを見つける	ノート復習 録音ファイル復習聴取
11		講義・演習	ミックスの基礎を習得する	ノート復習 録音ファイル復習聴取
12		講義・演習	マスタリング レベル規制に関して説明出来る	ノート復習 録音ファイル復習聴取
13		講義・演習	総括	ノート復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で録音の楽曲のMix作業	
【使用教科書・教材・参考書】				
JAPRS サウンドレコーディング技術概論 Sound & Recording マガジン				

科目名	ProTools for Creator's Basic (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大貫和紀
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	制作現場で常に要求されるPro Toolsを確実にコントロールするための知識を習得する。						
到達目標	Avid Pro tools 110レベルのコントロールを習得する。その上で打ち込みを含めたオリジナル楽曲を作成する。						
評価方法と基準	課題提出 出席重視 ALP Pro Tools110テスト合格(90点以上)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	Mixの基本8 Midi Instrument	レポート提出
2		講義・演習	Mixの基本9 Master FX	レポート提出
3		講義・演習	オリジナル楽曲の基本配置	レポート提出
4		講義・演習	オリジナル楽曲へのMidi Instrument追加	レポート提出
5		講義・演習	MA1	レポート提出
6		講義・演習	MA2	レポート提出
7		講義・演習	MA3	レポート提出
8		講義・演習	MAのMIX課題	時間内に終わらない時は次週迄に終わらせる
9		講義・演習	個別のMixへのアドバイス	時間内に終わらない時は次週迄に終わらせる
10		講義・演習	個別のMixへのアドバイス	時間内に終わらない時は次週迄に終わらせる
11		講義・演習	個別のMixへのアドバイス	時間内に終わらない時は次週迄に終わらせる
12		講義・演習	Mixの最終仕上げ	時間内に終わらない時は次週迄に終わらせる
13		講義・演習	Mixの提出	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	ProTools for Creator's Basic (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大貫和紀
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	制作現場で常に要求されるPro Toolsを確実にコントロールするための知識を習得する。						
到達目標	Avid Pro tools 110レベルのコントロールを習得する。その上で打ち込みを含めたオリジナル楽曲を作成する。						
評価方法と基準	課題提出 出席重視 ALP Pro Tools110テスト合格(90点以上)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ALP Protools101 1	レポート提出
2		講義・演習	ALP Protools101 2	レポート提出
3		講義・演習	ALP Protools101 3	レポート提出
4		講義・演習	ALP Protools101 4	レポート提出
5		講義・演習	ALP Protools101 試験	試験対策
6		講義・演習	ALP Protools110 1	レポート提出
7		講義・演習	ALP Protools110 2	レポート提出
8		講義・演習	ALP Protools110 3	レポート提出
9		講義・演習	ALP Protools110 4	レポート提出
10		講義・演習	ALP Protools110 5	レポート提出
11		講義・演習	ALP Protools110 6	レポート提出
12		講義・演習	ALP Protools110 7	レポート提出
13		講義・演習	ALP Protools110 試験	試験対策
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	MusicProductionTechniques for EngineerProducer 1 (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	勝守理
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1コマの座学に引き続き座学の内容に基づいた1コマの実習を行う。デジタル録音の仕組みから高度な編集技術、レコーディングからマスタリングに至るまでさまざまな知識とスキルの習得を目指す。現在音楽業界でスタンダードに行われているプロフェッショナルレベルの作業の実習。						
到達目標	プロの作曲家、編曲家、エンジニア、アーティストとして最低限知っておかなければいけない制作の知識、録音、編集等のスキルなどを身につける						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ボーカル録音1、レイテンシー、インプットミキサー部屋鳴り、リフレクションフィルター	間違い探し1
2		講義・演習	ボーカル録音2、マイクプリアンプ、ボーカルディレクション1	間違い探し2
3		講義・演習	ボーカル録音3、エンジニアのポジションボーカルディレクション2	間違い探し3
4		講義・演習	アコギ録音、マイキング、ばみり、道具の準備、TIPS、ディレクション	間違い探し4
5		講義・演習	エレキギターの録音1、プラグイン処理、レイテンシーUNISONテクノロジー、歪系エフェクターの種類	反復練習
6		講義・演習	エレキギターの録音2、もっと優れた方法Palmer、Kemper、多くの方法の比較	反復練習
7		講義・演習	アナログ感と歪み1録音機材の進化と音楽発展の歴史	反復練習
8		講義・演習	アナログ感と歪み2、ミックスへの応用、いろんな傾向のプラグイン、リアンプ、	反復練習
9		講義・演習	マスタリング1マスタリングの基礎、DAW上のプラグイン	反復練習
10		講義・演習	マスタリング2ラウドネス、配信用、WAVELAB、	反復練習
11		講義・演習	総合実習1(色)	反復練習
12		講義・演習	総合実習2(国)	反復練習
13		講義・演習	後期まとめ、後期試験	完全解答作成
14		講義・演習	イベント実践を通してレコーディングスキルを学ぶ	イベントに向けての準備
15		講義・演習	イベント実践を通して制作スキルを学ぶ	イベントに向けての準備
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	MusicProductionTechniques for EngineerProducer 1 (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	勝守理
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1コマの座学に引き続き座学の内容に基づいた1コマの実習を行う。デジタル録音の仕組みから高度な編集技術、レコーディングからマスタリングに至るまでさまざまな知識とスキルの習得を目指す。現在音楽業界でスタンダードに行われているプロフェッショナルレベルの作業の実習。						
到達目標	プロの作曲家、編曲家、エンジニア、アーティストとして最低限知っておかなければいけない制作の知識、録音、編集等のスキルなどを身につける						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	レコーディングとは？デジタルとアナログ	身の回りにあるレコーディング機材
2		講義・演習	サンプリング周波数、ビット深度とエイリアスノイズと倍音、LPF	自分の機材を知る
3		講義・演習	各種接続フォーマット、各種保存フォーマット、Dante、MADI、圧縮フォーマット	自分が使用しているフォーマットを知る
4		講義・演習	だまされずにカタログを読む、f特、ダイナミックレンジ、THD+N、	カタログを読み解く
5		講義・演習	他のスタジオとの連携、OMF、AAF、ListenToリモートデスクトップ、	リモートレコーディング、データ互換
6		講義・演習	ワードクロックとは、マスターとスレーブクロックジェネレーター、	外部スタジオで気をつけること
7		講義・演習	MIXの基本、EQの意味、コンプの動作、複数の空間系の掛け方、オートメーション	自分の作品の見直し
8		講義・演習	MIXの応用、ステムミックス、パラレルミックス高度なオートメーション	自分の作品の見直し
9		講義・演習	オーディオ編集、リズム修正の基本エラスティック、スライス	反復練習
10		講義・演習	オーディオ編集、高度なリズム修正マルチトラックスライス、エラスティックの限界	反復練習
11		講義・演習	オーディオ編集、ピッチ修正の基本Melodyne、Auto-Tune	反復練習
12		講義・演習	オーディオ編集、高度なピッチ修正Melodyne2、Auto-Tune2	反復練習
13		講義・演習	前期まとめ、前期試験	完全解答作成
14		講義・演習	イベント実践を通してMIXスキルを学ぶ	イベントに向けての準備
15		講義・演習	イベント実践を通して編集スキルを学ぶ	イベントに向けての準備
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	音楽総合教育実践ゼミ(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	多田彰文
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	学生たちの「わからない」を解決し、高みを目指す授業内容 1年次必修でもあり、音楽制作に重要な「音楽理論」にはじまり、「DAW」「作曲・編曲」「生楽器知識」「スタジオ録音」「ミックス」など、しっかりと理解できていますか？ひょっとして、自身がいま「何をわかっていないか」がわからなくて、困っていませんか？これらを補完する内容として、学生たちが現時点でまだ理解できていない部分を授業で一緒に解決していきましょう！ Q&A形式による楽曲共同制作(Co-Writing)、生楽器スタジオ録音＆ディレクション実習、音楽ジャンルやヒット曲の解析、音楽最先端技術(AI作曲・サウンドメイク・歌声合成ソフト活用)なども取り入れる予定。必要に応じ、個別でのカウンセリング(相談)にも応じます。						
到達目標	☆耳を鍛える ☆音を知る ☆楽器を知る → 音の知識・音楽理論活用・楽器の種類と奏法・ソフトウェア音源への活用術 ☆音場や空間を知る ☆録音方法を知る → 音響知識・ミックス知識・エフェクターの活用方法(補正的から積極的なものまで) ☆時代背景を知る ☆ジャンルを知る ☆なぜヒット曲なのかを知る → 音楽というものの基礎を理解し、自身の作品へ出力する ☆発信とセルフプロデュース能力を養う → 配信動画の作成・模擬インタビュー動画作成・アーティストショット作成など 上記を総合し、卒業後に向かう音楽業界への即戦力をつける						
評価方法と基準	○出席率重視(学校規定出席率) ○各自の楽曲音源提出(早期段階での提出の形をとります) ☆そのほか、各学生の進捗度も常にチェックしていきます						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の概要説明 ～ 作曲共同実践1	わからないことは何かを考えておく
2		講義・演習	課題音源提出の説明 ～ 作曲共同実践2	最新制作音源を準備しておく
3		講義・演習	作曲におけるメロディーとコード(和音)の関係性	音楽理論などはあらかじめ復習しておく
4		講義・演習	編曲共同実践1	レポート提出
5		講義・演習	編曲共同実践2	レポート提出
6		講義・演習	編曲の基本説明	レポート提出
7		講義・演習	作曲と編曲の共同作業(Co-Writing) 1	作曲編曲の作業準備
8		講義・演習	作曲と編曲の共同作業(Co-Writing) 2	作曲編曲の作業準備
9		講義・演習	録音についての説明と実習1	実習のレポートと課題提出
10		講義・演習	録音についての説明と実習2	実習のレポートと課題提出
11		講義・演習	AI作曲の導入と制作	制作準備
12		講義・演習	歌声合成ソフト比較研究	レポート提出
13		講義・演習	前期まとめ	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各課題に取り組む	
【使用教科書・教材・参考書】				
ミュージックセオリー(TSM音楽理論書)／多田作成「MIXDOWN作業のポイント」				

科目名	音楽総合教育実践ゼミ(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	多田彰文
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	学生たちの「わからない」を解決し、高みを目指す授業内容 1年次必修でもあり、音楽制作に重要な「音楽理論」にはじまり、「DAW」「作曲・編曲」「生楽器知識」「スタジオ録音」「ミックス」など、しっかりと理解できていますか？ひょっとして、自身がいま「何をわかっていないか」がわからなくて、困っていませんか？ これらを補完する内容として、学生たちが現時点でまだ理解できていない部分を授業で一緒に解決していきましょう！ Q&A形式による楽曲共同制作(Co-Writing)、生楽器スタジオ録音＆ディレクション実習、音楽ジャンルやヒット曲の解析、音楽最先端技術(AI作曲・サウンドメイク・歌声合成ソフト活用)なども取り入れる予定。必要に応じ、個別でのカウンセリング(相談)にも応じます。						
到達目標	☆耳を鍛える ☆音を知る ☆楽器を知る → 音の知識・音楽理論活用・楽器の種類と奏法・ソフトウェア音源への活用術 ☆音場や空間を知る ☆録音方法を知る → 音響知識・ミックス知識・エフェクターの活用方法(補正的から積極的なものまで) ☆時代背景を知る ☆ジャンルを知る ☆なぜヒット曲なのかを知る → 音楽というものの基礎を理解し、自身の作品へ出力する ☆発信とセルフプロデュース能力を養う → 配信動画の作成・模擬インタビュー動画作成・アーティストショット作成など 上記を総合し、卒業後に向かう音楽業界への即戦力をつける						
評価方法と基準	○出席率重視(学校規定出席率) ○提出小論文(感想文ではありません) A4用紙 800字以内(手書き・テキスト打ち両方可) 課題例:「音楽制作における音楽理論の有効性について、その見解を述べなさい。」 ☆そのほか、各学生の進捗度も常にチェックしていきます						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	後期の概要説明～楽曲制作共同作業1	わからないことは何かを考えておく
2		講義・演習	課題小論文提出の説明～ヒット曲の解析	レポート提出
3		講義・演習	楽曲制作共同作業2	レポート提出
4		講義・演習	楽曲制作共同作業3	レポート提出
5		講義・演習	楽曲制作共同作業4	レポート提出
6		講義・演習	配信の知識とセルフプロデュース	撮影のためのVisualセルフチェック
7		講義・演習	配信動画の作成とセルフプロデュース	撮影のためのVisualセルフチェック
8		講義・演習	模擬インタビュー	撮影のためのVisualセルフチェック
9		講義・演習	録音実習3	実習準備
10		講義・演習	録音実習4	実習準備
11		講義・演習	録音実習5	実習準備
12		講義・演習	業界へのアピール方法と結果の出し方	レポート提出
13		講義・演習	後期まとめ	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各課題に取り組む	
【使用教科書・教材・参考書】				
ミュージックセオリー(ＴＳＭ音楽理論書)／多田作成「MIXDOWN作業のポイント」				

科目名	プリプロダクションゼミ(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	勝守理
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	実際にクライアントさんから発注を頂いた案件を少人数のグループを組み試行錯誤しながら政策を進めていき作品を完成させる。						
到達目標	発注を頂いたクライアントさんからの採用をコンペで勝ち取る作品を作る。その過程の中で今の音楽業界で本当に必要とされる制作能力、プロデュース能力、作曲能力、作詞能力、編曲能力、グループワークの実践力、コミュニケーション能力、などを身につける。						
評価方法と基準	3回のコンペの成績(優勝、準優勝、佳作、提出、未提出)+夏休み課題提出の合計点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業内容ガイダンス、第1クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
2		講義・演習	第1クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
3		講義・演習	第1クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業
4		講義・演習	第1クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業
5		講義・演習	第1クールコンペ、第2クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
6		講義・演習	第2クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
7		講義・演習	第2クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業
8		講義・演習	第2クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業
9		講義・演習	第2クールコンペ、第3クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
10		講義・演習	第3クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
11		講義・演習	第3クール実習2	コンペに向けて録音、ミックス、マスタリング作業
12		講義・演習	第3クールコンペ、夏休み課題発注、チーム分け	夏休み課題制作
13		講義・演習	夏休み課題発表	作品の管理とまとめ
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各課題に取り組む	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	プリプロダクションゼミ(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	勝守理
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	実際にクライアントさんから発注を頂いた案件を少人数のグループを組み試行錯誤しながら政策を進めていき作品を完成させる。						
到達目標	発注を頂いたクライアントさんからの採用をコンペで勝ち取る作品を作る。その過程の中で今の音楽業界で本当に必要とされる制作能力、プロデュース能力、作曲能力、作詞能力、編曲能力、グループワークの実践力、コミュニケーション能力、などを身につける。						
評価方法と基準	3回のコンペの成績(優勝、準優勝、佳作、提出、未提出)+春休み課題提出の合計点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	第4クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
2		講義・演習	第4クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
3		講義・演習	第4クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業
4		講義・演習	第4クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業
5		講義・演習	第4クールコンペ、第5クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
6		講義・演習	第5クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
7		講義・演習	第5クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業
8		講義・演習	第5クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業
9		講義・演習	第5クールコンペ、第6クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
10		講義・演習	第6クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
11		講義・演習	第6クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業
12		講義・演習	第6クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業
13		講義・演習	第6クールコンペ、春休み課題発注、チーム分け	作品の管理とまとめ
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各課題に取り組む	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	アレンジング with Sibelius Basic(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大貫和紀
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽譜制作ソフトの定番であるSibeliusの使い方をマスターするとともに、アレンジを構築する際にDAWで音を探しながら行う方法から脱却し頭の中のイメージから構築する方法を習得する						
到達目標	Sibeliusの使い方を理解し入力ができるようにする。管楽器の特性を理解して2管のアレンジができるようになる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	リードシートの作成方法について	リードシートの作成方法について振り返りと自習。
2		講義・演習	リードシートの作成の演習	リードシートの作成の演習振り返りと自習。
3		講義・演習	リードシート+ピアノ伴奏譜の作成について	リードシート+ピアノ伴奏譜の作成について振り返りと自習。
4		講義・演習	リードシート+ピアノ伴奏譜の作成の演習	リードシート+ピアノ伴奏譜の作成の演習振り返りと自習。
5		講義・演習	リズム譜の作成	リズム譜の作成振り返りと自習。
6		講義・演習	リードシート+ピアノ+リズム譜を作成	リードシート+ピアノ+リズム譜を作成振り返りと自習。
7		講義・演習	ギター譜を作成について	ギター譜を作成について振り返りと自習。
8		講義・演習	ギター譜を作成の演習	ギター譜を作成の演習振り返りと自習。
9		講義・演習	イントロを作成について	イントロを作成について振り返りと自習。
10		講義・演習	アウトロを作成について	アウトロを作成について振り返りと自習。
11		講義・演習	管楽器のレンジとトランスポーズ	管楽器のレンジとトランスポーズ振り返りと自習。
12		講義・演習	ユニゾンとガイドトーンのアレンジ	ユニゾンとガイドトーンのアレンジ振り返りと自習。
13		講義・演習	前期のアレンジ課題の提出	課題に取り組み期限内に提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			振り返りと自習	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	アレンジング with Sibelius Basic (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大貫和紀
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽譜制作ソフトの定番であるSibeliusの使い方をマスターするとともに、アレンジを構築する際にDAWで音を探しながら行う方法から脱却し頭の中のイメージから構築する方法を習得する						
到達目標	Sibeliusの使い方を理解し、管楽器の特性を理解して5管+ストリングスのアレンジができるようになる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	インストゥルメンテーションを理解する。	インストゥルメンテーションを理解する。振り返りと自習。
2		講義・演習	管弦楽器によるSolo Unisonのアレンジ	管弦楽器によるSolo Unisonのアレンジ振り返りと自習。
3		講義・演習	2part Soliの構築が出来る様になる。	2part Soliの構築が出来る様になる。振り返りと自習。
4		講義・演習	4way close Drop2 Drop3 Drop2+4のVoicingの構築	4way close Drop2 Drop3 Drop2+4のVoicingの構築振り返りと自習。
5		講義・演習	4part Soliの構築が出来る様になる。	4part Soliの構築が出来る様になる。振り返りと自習。
6		講義・演習	3part Soliの構築が出来る様になる。	3part Soliの構築が出来る様になる。振り返りと自習。
7		講義・演習	5part Soliの構築が出来る様になる。	5part Soliの構築が出来る様になる。振り返りと自習。
8		講義・演習	Spread voicingとアプローチノート	Spread voicingとアプローチノート振り返りと自習。
9		講義・演習	Guide Tone backing	Guide Tone backing振り返りと自習。
10		講義・演習	Inner voicing embellishment	Inner voicing embellishment振り返りと自習。
11		講義・演習	5管と弦を含むアレンジ1	5管と弦を含むアレンジ1振り返りと自習。
12		講義・演習	5管と弦を含むアレンジ2	5管と弦を含むアレンジ2振り返りと自習。
13		講義・演習	後期アレンジ課題提出	課題に取り組み期限内に提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			振り返りと自習	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	セルフプロデュース(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	藤井文司
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	「セルフプロデュース」は、年間6回の発表の日と、「J-POPの歴史」「DTM基礎」を2～3限の中で1コマずつ授業を行う日に分 かれます。 発表日には、オリジナル楽曲(作詞／作曲／アレンジ／歌入れ／ミックス)を提出します。 提出した楽曲を、学生が聞いて採点、その集計結果は授業グループのLINEで発表します。						
到達目標	「プリプロ」のようにクライアントからのOKではなく、同じ学校の同世代から支持される楽曲を作ること。 これが、この授業の目的です。制作は個人でも、チーム(授業外の学生を含む)どちらも可です。						
評価方法と基準	出席/平常点 20% 課題 40%(演習) テスト 40%(楽曲/ペーパーテスト)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	オリエン	レポート提出
2		講義・演習	60年代のJ-POP	レポート提出
3		講義・演習	吉田拓郎と井上陽水	レポート提出
4		講義・演習	はっぴいえんどと日本語のロック	レポート提出
5		講義・演習	荒井由美とニューミュージック	制作準備
6		講義・演習	制作日	発表準備
7		講義・演習	発表1	レポート提出
8		講義・演習	細野晴臣と大瀧詠一	レポート提出
9		講義・演習	山下達郎	レポート提出
10		講義・演習	サザンオールスターズ	制作準備
11		講義・演習	制作日	発表準備
12		講義・演習	発表2	発表準備
13		講義・演習	発表3	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			振り返りと自習	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	セルフプロデュース(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	藤井文司
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	「セルフプロデュース」は、年間6回の発表の日と、「J-POPの歴史」「DTM基礎」を2～3限の中で1コマずつ授業を行う日に分 かれます。 発表日には、オリジナル楽曲(作詞／作曲／アレンジ／歌入れ／ミックス)を提出します。 提出した楽曲を、学生が聞いて採点、その集計結果は授業グループのLINEで発表します。						
到達目標	「プリプロ」のようにクライアントからのOKではなく、同じ学校の同世代から支持される楽曲を作ること。 これが、この授業の目的です。制作は個人でも、チーム(授業外の学生を含む)どちらも可です。						
評価方法と基準	出席/平常点 20% 課題 40%(演習) テスト 40%(楽曲/ペーパーテスト)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	制作日	発表準備
2		講義・演習	発表4	レポート提出
3		講義・演習	アルペジオ	レポート提出
4		講義・演習	プラグインエフェクト／オートメーション	レポート提出
5		講義・演習	プラグインエフェクト／オートメーション2	制作準備
6		講義・演習	制作日	発表準備
7		講義・演習	発表5	レポート提出
8		講義・演習	90年代ロック	レポート提出
9		講義・演習	オーディオスライス	レポート提出
10		講義・演習	ボーカルシンセ	制作準備
11		講義・演習	テスト2	テスト
12		講義・演習	制作日	発表準備
13		講義・演習	発表6	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			振り返りと自習	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	空間オーディオデザイン(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	前田基彦
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	イマーシブサウンドを理解し制作フローを実践する授業です。実技と座学で機材 & イマーシブサウンドとの接しかたや楽曲の捉え方までエンジニアの立場から多義に渡り解説します。持ち物は、①授業内で使用する音源等持ち帰り用 USBメモリ・ハードディスクなどの外部記憶媒体 ②自分のリファレンス(基準)となるヘッドフォンまたはイヤホン(接続はTRSまたはミニTRS)						
到達目標	イマーシブの基礎ワークフロー理解。クリエイター/エンジニアとして基礎レベルのサラウンド機材が使用出来るようになる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 出席数40% シラバスを基に要事前学習。上記到達目標項目に関する定期テストを行う。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介 年間計画発表 イマーシブサウンド体験 本質	ノート復習 録音ファイル復習聴取
2		講義・演習	機材設定基礎 ATMOS 360 / モノラル / ステレオ について	ノート復習 録音ファイル復習聴取
3		講義・演習	MV1 キャリブレーションDay1 プロファイル測定をする	ノート復習 録音ファイル復習聴取
4		講義・演習	MV1 キャリブレーションDay2 プロファイル測定をする	ノート復習 録音ファイル復習聴取
5		講義・演習	Immersive配信音源にアクセスし聴く事が出来るようになる	ノート復習 録音ファイル復習聴取
6		講義・演習	Protoolsセッティング基礎1 入出力設定とモニタリング	ノート復習 録音ファイル復習聴取
7		講義・演習	Protoolsセッティング基礎2 DolbyATMOS renderer	ノート復習 録音ファイル復習聴取
8		講義・演習	Protoolsセッティング基礎3 DolbyATMOS renderer Mix1	ノート復習 録音ファイル復習聴取
9		講義・演習	Protoolsセッティング基礎4 DolbyATMOS renderer Mix2	ノート復習 録音ファイル復習聴取
10		講義・演習	Protoolsセッティング基礎5 360 WalkMixCreator設定	ノート復習 録音ファイル復習聴取
11		講義・演習	Protoolsセッティング基礎6 360 WalkMixCreatorMix1	ノート復習 録音ファイル復習聴取
12		講義・演習	Protoolsセッティング基礎7 360 WalkMixCreatorMix2	ノート復習 録音ファイル復習聴取
13		講義・演習	総括 課題提出	ノート復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で録音の楽曲のMix作業	
【使用教科書・教材・参考書】				
JAPRS サウンドレコーディング技術概論 Sound & Recording マガジン				

科目名	空間オーディオデザイン(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	前田基彦
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	イマーシブサウンドを理解し制作フローを実践する授業です。実技と座学で機材 & イマーシブサウンドとの接しかたや楽曲の捉え方までエンジニアの立場から多義に渡り解説します。持ち物は、①授業内で使用する音源等持ち帰り用 USBメモリ・ハードディスクなどの外部記憶媒体 ②自分のリファレンス(基準)となるヘッドフォンまたはイヤホン(接続はTRSまたはミニTRS)						
到達目標	イマーシブの基礎ワークフロー理解。クリエイター/エンジニアとして基礎レベルのサラウンド機材が使用出来るようになる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 出席数40% シラバスを基に要事前学習。上記到達目標項目に関する定期テストを行う。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期課題チェック&コメント	ノート復習 録音ファイル復習聴取
2		講義・演習	HRTF 頭部伝達関数の説明ができるようになる	ノート復習 録音ファイル復習聴取
3		講義・演習	映画のイマーシブ製作基礎の理解	ノート復習 録音ファイル復習聴取
4		講義・演習	Ambisonics1 基礎項目を習得する	ノート復習 録音ファイル復習聴取
5		講義・演習	Ambisonics2 基礎項目を実践・説明する事が出来る	ノート復習 録音ファイル復習聴取
6		講義・演習	Protools以外のソフトでイマーシブを実行する事が出来る1	ノート復習 録音ファイル復習聴取
7		講義・演習	Protools以外のソフトでイマーシブを実行する事が出来る2	ノート復習 録音ファイル復習聴取
8		講義・演習	さまざまな楽曲の表現方法の理解し説明する事が出来る	ノート復習 録音ファイル復習聴取
9		講義・演習	イマーシブMixを通し自己表現のヒントを見つける	ノート復習 録音ファイル復習聴取
10		講義・演習	22.2ch Auro3Dを説明することが出来るようになる	ノート復習 録音ファイル復習聴取
11		講義・演習	さまざまな楽曲の表現方法の理解をする	ノート復習 録音ファイル復習聴取
12		講義・演習	学期末テスト課題中間チェック	ノート復習 録音ファイル復習聴取
13		講義・演習	学期末テスト課題チェック 総括	ノート復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で録音の楽曲のMix作業	
【使用教科書・教材・参考書】				
JAPRS サウンドレコーディング技術概論 Sound & Recording マガジン				

科目名	アレンジング(3) (生楽器知識(3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大貫和紀
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	一年を通して、リズムセクションそしてオーケストラ全ての管弦打楽器のプロの奏者を毎回順番にゲストに招き、楽器の実演と解説を聞き、質疑応答を通して楽器の特性や奏法の知識習得を目指します。サンプルライブラリの技術革新のおかげで生楽器を実際に使用する機会が少なくなった昨今、そうした知識を持つクリエイターやエンジニアは非常に有益です。この生楽器知識で得た情報は、作編曲・エンジニアリングをテーマとするどの授業であれ役立つものであり、また、自身のミュージシャンとしての学習過程において様々な場面で役立つ機会が幾度となく訪れると信じます。						
到達目標	リズムセクションと金管楽器の各楽器の形状、名前、音色をきちんと把握している。 リズムセクションと金管楽器の各楽器の音域、特性、奏法について説明することができる。 リズムセクションと金管楽器の各楽器のアンサンブルにおける役割を説明できる。 楽器の特性をしっかりと正しく作編曲およびレコーディング・ミキシングを実践できる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(筆記60% 実技40%)						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業の心構えとガイダンス。各種楽器の分類とアンサンブルの形態について正しく説明することができる。	授業の心構えとガイダンス。各種楽器の分類とアンサンブルの形態について正しく説明することができる。振り返りと自習	
2		講義・演習	リズムセクション1:ドラムセットの各種パーツの役割、音域、音色、奏法について説明できる。	リズムセクション1:ドラムセットの各種パーツの役割、音域、音色、奏法について説明できる。振り返りと自習	
3		講義・演習	リズムセクション2:エレキベース、アコースティックベースの役割、音域、音色、奏法、各種パーツの役割について説明できる。	リズムセクション2:エレキベース、アコースティックベースの役割、音域、音色、奏法、各種パーツの役割について説明できる。振り返りと自習	
4		講義・演習	リズムセクション3:エレキギター、アコースティックギターの役割、音域、音色、奏法、各種パーツの役割について説明できる。	リズムセクション3:エレキギター、アコースティックギターの役割、音域、音色、奏法、各種パーツの役割について説明できる。振り返りと自習	
5		講義・演習	リズムセクション4:ピアノ、キーボードの役割、音域、音色、奏法、役割について説明できる。	リズムセクション4:ピアノ、キーボードの役割、音域、音色、奏法、役割について説明できる。振り返りと自習	
6		講義・演習	リズムセクション5:実際にグランドピアノ、アップライトピアノを見学に行き、その仕組みを学ぶ。(タカギクラヴィア訪問)	リズムセクション5:実際にグランドピアノ、アップライトピアノを見学に行き、その仕組みを学ぶ。(タカギクラヴィア訪問)振り返りと自習	
7		講義・演習	リズムセクション6:主にジャズポピュラーの現場におけるパーカッションの種類や役割について説明できる。	リズムセクション6:主にジャズポピュラーの現場におけるパーカッションの種類や役割について説明できる。振り返りと自習	
8		講義・演習	シンガー:男性女性シンガーの音域や歌唱法、アンサンブルにおける役割などを学び、説明できる。	シンガー:男性女性シンガーの音域や歌唱法、アンサンブルにおける役割などを学び、説明できる。振り返りと自習	
9		講義・演習	金管楽器1:トランペットとフリューゲルホルンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	金管楽器1:トランペットとフリューゲルホルンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
10		講義・演習	金管楽器2:トロンボーンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	金管楽器2:トロンボーンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
11		講義・演習	金管楽器3:ホルンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	金管楽器3:ホルンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
12		講義・演習	金管楽器4:チューバの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	金管楽器4:チューバの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
13		講義・演習	テスト	テスト	
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			リスニング課題として、毎回学習した楽器に関する曲を提示します。		
【使用教科書・教材・参考書】					
参考書として:「はじめてのオーケストラ・スコア」 野本由紀夫(音楽之友社)					

科目名	アレンジング(3) (インストゥルメンテーション (3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大貫和紀
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	この授業の直前のコマにおこなわれる「生楽器知識」であつかう楽器と連動し、その日に見た楽器についてさらに掘り下げながら、音域、奏法、音色、そしてその楽器のスコアリング等について総合的に学習します。オーケストラ、ビッグバンドのスコアなどを読み解きながら、DAWでのよりリアルな制作ができるよう、そしてレコーディングに必要なスコアを書くことをめざします。前期はリズムセクションと金管楽器について学習します。						
到達目標	リズムセクション、金管楽器の各楽器において、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。様々なジャンルやスタイルにあわせた楽器のアレンジをサウンドで認識できる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(筆記30% 実技70%)						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	授業の心構えとガイダンス。管弦打楽器の分類と、オーケストラとビッグバンドの編成について正しく説明することができる。	授業の心構えとガイダンス。管弦打楽器の分類と、オーケストラとビッグバンドの編成について正しく説明することができる。振り返りと自習	
2		講義・演習	ドラムの記譜について理解があり、ジャンルやスタイルに合わせたドラムのグルーブについて認識できる。	ドラムの記譜について理解があり、ジャンルやスタイルに合わせたドラムのグルーブについて認識できる。振り返りと自習	
3		講義・演習	ベースの記譜について理解があり、ジャンルやスタイルに合わせたベースのアレンジについて基礎的な理解がある。	ベースの記譜について理解があり、ジャンルやスタイルに合わせたベースのアレンジについて基礎的な理解がある。振り返りと自習	
4		講義・演習	ギターの記譜について理解があり、ジャンルやスタイルに合わせたギターのアレンジについて基礎的な理解がある。	ギターの記譜について理解があり、ジャンルやスタイルに合わせたギターのアレンジについて基礎的な理解がある。振り返りと自習	
5		講義・演習	ピアノ・キーボードの記譜について理解があり、ジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。	ピアノ・キーボードの記譜について理解があり、ジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。振り返りと自習	
6		講義・演習	リズムセクションのスコアをひもときながらその処方の確認、様々なジャンルやスタイルのアレンジについて基礎的な理解がある。	リズムセクションのスコアをひもときながらその処方の確認、様々なジャンルやスタイルのアレンジについて基礎的な理解がある。振り返りと自習	
7		講義・演習	パーカッションの記譜について理解があり、ジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。	パーカッションの記譜について理解があり、ジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。振り返りと自習	
8		講義・演習	シンガーのための記譜について理解があり、小編成からクワイヤーまで様々なジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。	シンガーのための記譜について理解があり、小編成からクワイヤーまで様々なジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。振り返りと自習	
9		講義・演習	トランペットの記譜について理解があり、様々なジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。	トランペットの記譜について理解があり、様々なジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。振り返りと自習	
10		講義・演習	トロンボーンの記譜について理解があり、様々なジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。	トロンボーンの記譜について理解があり、様々なジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。振り返りと自習	
11		講義・演習	ホルンの記譜について理解があり、様々なジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。	ホルンの記譜について理解があり、様々なジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。振り返りと自習	
12		講義・演習	チューバの記譜について理解があり、様々なジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。	チューバの記譜について理解があり、様々なジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。振り返りと自習	
13		講義・演習	テスト	テスト	
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	アレンジング(4) (生楽器知識(4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大貫和紀
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	一年を通して、リズムセクションそしてオーケストラ全ての管弦打楽器のプロの奏者を毎回順番にゲストに招き、楽器の実演と解説を聞き、質疑応答を通して楽器の特性や奏法の知識習得を目指します。サンプルライブラリの技術革新のおかげで生楽器を実際に使用する機会が少なくなった昨今、そうした知識を持つクリエイターやエンジニアは非常に有益です。この生楽器知識で得た情報は、作編曲・エンジニアリングをテーマとするどの授業であれ役立つものであり、また、自身のミュージシャンとしての学習過程において様々な場面で役立つ機会が幾度となく訪れると信じます。						
到達目標	木管楽器と弦楽器の各楽器の形状、名前、音色をきちんと把握している。 木管楽器と弦楽器の各楽器の音域、特性、奏法について説明することができる。 木管楽器と弦楽器の各楽器のアンサンブルにおける役割を説明できる。 楽器の特性をしったうえで正しく作編曲およびレコーディング・ミキシングを実践できる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(筆記60% 実技40%)						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	木管楽器1:サクソの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	木管楽器1:サクソの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
2		講義・演習	木管楽器2:フルートの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	木管楽器2:フルートの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
3		講義・演習	木管楽器3:オーボエの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	木管楽器3:オーボエの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
4		講義・演習	木管楽器4:クラリネットの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	木管楽器4:クラリネットの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
5		講義・演習	木管楽器5:ファゴットの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	木管楽器5:ファゴットの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
6		講義・演習	弦楽器1:バイオリンとビオラの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	弦楽器1:バイオリンとビオラの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
7		講義・演習	弦楽器2:チェロの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	弦楽器2:チェロの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
8		講義・演習	弦楽器3:コントラバスの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	弦楽器3:コントラバスの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
9		講義・演習	弦楽器4:ハープの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	弦楽器4:ハープの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
10		講義・演習	その他の楽器1:アコーディオンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	その他の楽器1:アコーディオンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
11		講義・演習	その他の楽器2:三味線の歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	次週のプレゼンテーションに向けた各自まとめ作業	
12		講義・演習	後期に学習した各楽器をふりかえり、学習した内容を各自がまとめプレゼンテーションをおこなう。	試験に向けた振り返りと自習	
13		講義・演習	テスト	テスト	
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			リスニング課題として、毎回学習した楽器に関する曲を提示します。		
【使用教科書・教材・参考書】					
参考書として:「はじめてのオーケストラ・スコア」 野本由紀夫(音楽之友社)					

科目名	アレンジング(4) (インストウルメンテーション(4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大貫和紀
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	この授業の直前のコマにおこなわれる「生楽器知識」であつかう楽器と連動し、その日に見た楽器についてさらに掘り下げながら、音域、奏法、音色、そしてその楽器のスコアリング等について総合的に学習します。オーケストラ、ビッグバンドのスコアなどを読み解きながら、DAWでのよりリアルな制作ができるよう、そしてレコーディングに必要なスコアを書くことをめざします。後期は木管楽器と弦楽器について学習します。						
到達目標	木管楽器、弦楽器の各楽器において、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。 様々なジャンルやスタイルにあわせた楽器のアレンジをサウンドで認識できる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(筆記30% 実技70%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	サクスの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。	サクスの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。振り返りと自習
2		講義・演習	フルート、ピッコロの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。	フルート、ピッコロの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。振り返りと自習
3		講義・演習	オーボエ、イングリッシュホルンの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。	オーボエ、イングリッシュホルンの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。振り返りと自習
4		講義・演習	クラリネット、バスクラリネットの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。	クラリネット、バスクラリネットの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。振り返りと自習
5		講義・演習	ファゴット、コントラファゴットの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。	ファゴット、コントラファゴットの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。振り返りと自習
6		講義・演習	バイオリンとビオラの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。	バイオリンとビオラの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。振り返りと自習
7		講義・演習	チェロの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。	チェロの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。振り返りと自習
8		講義・演習	コントラバスの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。	コントラバスの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。振り返りと自習
9		講義・演習	ハープの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。	ハープの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。振り返りと自習
10		講義・演習	諸外国の様々な民族楽器について考察。その歴史、音域、音色、奏法、アレンジなどを幅広く教養的に理解する。	諸外国の様々な民族楽器について考察。その歴史、音域、音色、奏法、アレンジなどを幅広く教養的に理解する。振り返りと自習
11		講義・演習	生楽器以外の様々なサウンドデザインの素材について考察。シンセやエフェクトを用いてのサウンドFXの制作について。	プレゼンテーション準備
12		講義・演習	1年間通して学習した全ての楽器の振り返りと、学習した内容を各自がまとめプレゼンテーションをおこなう。	試験準備
13		講義・演習	テスト	テスト
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	City Pop Ensemble(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤敬三
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	○City Pop特有の音楽スタイル(リズム・コード・アレンジ)の理解を深める ○バンドアンサンブルにおける各パートの役割とバランスの習得 ○リズムセクション(ドラム・ベース)とハーモニー(鍵盤・ギター)の連携強化 ○楽曲の再現演奏を通じた表現力およびグルーブの向上 ○グループでの演奏を通じたコミュニケーション能力の向上						
到達目標	○City Pop特有のリズムやグルーブを理解し演奏に反映できる ○自分の担当パートの役割を理解し、他パートとバランスよく演奏できる ○バンド全体でタイミングを合わせたアンサンブルができる ○楽曲の構成(Aメロ・サビ等)を理解して演奏できる ○1曲以上を完成度高く合奏できる						
評価方法と基準	○出席重視(学校規定出席率の達成度合い) ○各回の演奏参加および取り組み姿勢 ○パート練習および課題への取り組み状況 ○最終演奏(アンサンブル)の完成度 ○グループ内での協調性・コミュニケーション						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業説明／楽曲紹介	City Pop楽曲を聴く
2		講義・演習	各パート基礎練習①	自パートの音を確認
3		講義・演習	各パート基礎練習②	担当フレーズ練習
4		講義・演習	リズムセクション合わせ	リズムを聴き込む
5		講義・演習	ハーモニー隊合わせ	コード進行確認
6		講義・演習	部分アンサンブル①(Aメロ)	Aメロ練習
7		講義・演習	部分アンサンブル②(サビ)	サビ練習
8		講義・演習	通し演奏①	曲全体を聴く
9		講義・演習	グルーヴ調整	ノリを意識して聴く
10		講義・演習	表現強化(ダイナミクス)	強弱を意識
11		講義・演習	通し演奏②	演奏イメージ整理
12		講義・演習	リハーサル	通し練習
13		講義・演習	最終発表・講評	振り返り準備
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	City Pop Ensemble (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤敬三
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	○City Pop Ensemble (3) で習得したアンサンブル基礎を発展させ、より完成度の高い演奏技術の習得 ○各パートの役割理解を深め、音量・音色・タイミングの精度向上を図る ○ダイナミクス(強弱)やニュアンスなど、楽曲表現の強化 ○楽曲全体の構成を意識した演奏(展開・緩急)の習得 ○複数曲に取り組み、対応力と安定した演奏力を身につける						
到達目標	○他パートとのバランスを考慮しながら安定した演奏ができる ○楽曲内の強弱やニュアンスを意識した表現ができる ○曲全体の構成を理解し、メリハリのある演奏ができる ○複数曲を通して安定したアンサンブル演奏ができる ○グループ内で主体的に調整・コミュニケーションができる						
評価方法と基準	○出席重視(学校規定出席率の達成度合い) ○授業内での演奏参加および取り組み姿勢 ○パート練習およびアンサンブルへの貢献度 ○リハーサルおよび最終演奏の完成度 ○グループ内での協働および改善への取り組み						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前回復習／課題共有／曲追加	(3)の演奏を振り返る
2		講義・演習	新曲パート確認	新曲を聴き込む
3		講義・演習	各パート練習(精度向上)	自パート練習
4		講義・演習	リズムセクション強化	リズムを重点的に聴く
5		講義・演習	ハーモニー調整	コード進行確認
6		講義・演習	部分アンサンブル①	難所を重点練習
7		講義・演習	部分アンサンブル②	フレーズ練習
8		講義・演習	通し演奏①(精度重視)	通し練習
9		講義・演習	ダイナミクス調整	強弱を意識して聴く
10		講義・演習	表現強化(ニュアンス)	参考音源を分析
11		講義・演習	通し演奏②(完成度向上)	改善点整理
12		講義・演習	リハーサル	本番イメージ
13		講義・演習	成果発表・講評	振り返り準備
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	韓国語(3) (韓国語Basic(3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	李美姫
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ハングルの理解、発音、読み、聞き、作文、会話スキルをアップする ②実用的なコミュニケーションができるように話す力を身につける ③教科書で勉強したものを生かして活用できるようにペア又はグループで練習したり発表する						
到達目標	①韓国語で日常会話が可能になること ②必要な韓国語を身につけて気軽に話せるようにする ③韓国語に対して抵抗感、違和感、恐怖心を持たないようにする						
評価方法と基準	1) 定期試験80% 2) 出席数 10% 3) 態度 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介・目標設定・関心事	ハングルの仕組み知る
2		講義・演習	数字を数える	書き方、覚える方法を知る
3		講義・演習	教科書とワークブックを活用	プリント配布
4		講義・演習	リスニングスキルを身につける	CD、Netflix,YouTubeで学習する
5		講義・演習	ペアで学習ができる	会話練習をする
6		講義・演習	韓国の文化を知る	日本の文化との違いを学習する
7		講義・演習	趣味、関心事について作文、発表	授業中に作文、発表する
8		講義・演習	食べ物、映画、ドラマについて話す	宿題として前もって作文してもらう
9		講義・演習	否定・賛成表現を練習する	単語を使って文章を作る練習
10		講義・演習	定期試験	試験前に復習をする
11		講義・演習	過去形を学習する	文法を活用して話す練習をする
12		講義・演習	ゲームをしながら学習する	日記の宿題を出す
13		講義・演習	韓国映画を見る	日本語字幕で鑑賞
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				
できる韓国語初級1, 2、ワークブック、プリント、イラストとゴロで覚える韓国語				

科目名	韓国語(3) (韓国語Entry(3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	李美姫
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ハングルの理解、発音、読み、聞き、作文、会話スキルをアップする ②実用的なコミュニケーションができるように話す力を身につける ③教科書で勉強したものを生かして活用できるようにペア又はグループで練習したり発表する						
到達目標	①韓国語で日常会話が可能になること ②必要な韓国語を身につけて気軽に話せるようにする ③韓国語に対して抵抗感、違和感、恐怖心を持たないようにする						
評価方法と基準	1) 定期試験80% 2) 出席数 10% 3) 態度 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介・目標設定・関心事	ハングルの仕組み知る
2		講義・演習	ハングル文字を覚える	書き方、覚える方法を知る
3		講義・演習	教科書とワークブックを活用	プリント配布
4		講義・演習	リスニングスキルを身につける	CD、Netflix,YouTubeで学習する
5		講義・演習	ペアで学習ができる	会話練習をする
6		講義・演習	韓国の文化を知る	日本の文化との違いを学習する
7		講義・演習	趣味、関心事について作文、発表	授業中に作文、発表する
8		講義・演習	食べ物、映画、ドラマについて話す	宿題として前もって作文してもらう
9		講義・演習	否定・賛成表現を練習する	単語を使って文章を作る練習
10		講義・演習	定期試験	試験前に復習をする
11		講義・演習	可能形を学習する	文法を活用して話す練習をする
12		講義・演習	ゲームをしながら学習する	日記の宿題を出す
13		講義・演習	時間・日程・数字を練習する	書きながら暗記するように進行
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
できる韓国語初級1, 2、ワークブック、プリント、イラストとゴロで覚える韓国語				

科目名	韓国語(3) (韓国語Advance(3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	徐慧精
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1) 韓国語のスキルをアップする。 2) ペアやグループで会話の練習をする。 3) 韓国の社会や文化について学ぶ。						
到達目標	1) 適切なコミュニケーションができるようになる。 2) 韓国の社会や文化について理解を深める。 3) 意思を伝達することができるようになる。						
評価方法と基準	1) 定期試験 60% 2) 出席 10% 3) 授業準備 10% 4) 授業態度 10% 5) 課題 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介、目標設定	自己紹介を書く。
2		講義・演習	初級Ⅱの復習をする。	プリントで練習する。
3		講義・演習	性格について	学んだ文法の練習をする。
4		講義・演習	発表会	発表した作文を直す。
5		講義・演習	TOPIK	TOPIKの練習する。
6		講義・演習	買い物をする。	作文をする。
7		講義・演習	発表会と会話	学んだ文法の練習をする。
8		講義・演習	手紙を書く。	作文をする。
9		講義・演習	-아/어 있다	学んだ文法の練習をする。
10		講義・演習	定期試験	復習をする。
11		講義・演習	TOPIK	TOPIKの練習する。
12		講義・演習	-(으)ㄴ/는/(으)ㄹ 것 같다	学んだ文法の練習をする。
13		講義・演習	CDを聴く。	聴いて書く。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				
できる韓国語初級Ⅱ & ワークブック、プリント。				

科目名	韓国語(3) (韓国語Optional(3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	徐慧精
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1) ハングルの表記を覚える。 2) ペアやグループで会話の練習をする。 3) 韓国の文化について学ぶ。						
到達目標	1) 会話の練習を通して、簡単な挨拶や自己紹介ができるようになる。 2) 言葉を学ぶことで、韓国の社会や文化に対する関心を高める。						
評価方法と基準	1) 定期試験 60% 2) 出席 10% 3) 授業準備 10% 4) 授業態度 10% 5) 課題 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介、目標設定	プリントで練習する。
2		講義・演習	基本母音を知る。	書く練習と発音の練習をする。
3		講義・演習	子音 + 母音 の組み合わせを読む。	書く練習と単語を覚える。
4		講義・演習	激音について	書く練習と発音の練習をする。
5		講義・演習	濃音について	書く練習と発音の練習をする。
6		講義・演習	バッチム	書く練習と発音の練習、単語を覚える。
7		講義・演習	合成母音	書く練習と発音の練習、単語を覚える。
8		講義・演習	発音の変化	発音の練習をする。
9		講義・演習	簡単な会話	会話の練習をする。
10		講義・演習	定期試験	単語や簡単な会話を覚える。
11		講義・演習	-입니다 / -입니까?	文章を作る練習をする。
12		講義・演習	韓国語で自己紹介をする。	自己紹介を書く。
13		講義・演習	発表会と話し合い	聴いて書く。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				
できる韓国語初級Ⅰ & ワークブック、プリント。				

科目名	韓国語(4) (韓国語Basic(4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	李美姫
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ハングルの理解、発音、読み、聞き、作文、会話スキルをアップする ②実用的なコミュニケーションができるように話す力を身につける ③教科書で勉強したものを生かして活用できるようにペア又はグループで練習したり発表する						
到達目標	①韓国語で日常会話が可能になること ②必要な韓国語を身につけて気軽に話せるようにする ③韓国語に対して抵抗感、違和感、恐怖心を持たないようにする						
評価方法と基準	1) 定期試験80% 2) 出席数 10% 3) 態度 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	勉強したいことを聞く・後期の目標設定	予習と復習することの大切さを話す
2		講義・演習	憧れの存在について話し合う	副教材を利用する
3		講義・演習	スポーツについて話し合う	プリント配布
4		講義・演習	感情・関係について話し合う	辞書・翻訳機の使い方を教える
5		講義・演習	旅行・行きたいところについて話し合う	ペアの相手と話し合う
6		講義・演習	最新ニュース、記事を学習する	調べて書いてきてもらう
7		講義・演習	身体・美容について学習する	ネット検索をしてもらって作文を書く
8		講義・演習	地理・国名について学習する	韓国の地理と世界について学習
9		講義・演習	天気・植物について学習する	テスト準備を呼びかける
10		講義・演習	定期試験	試験前に復習を行う
11		講義・演習	季節・気分について学習する	前に出て発表してもらう
12		講義・演習	トレーニング・運動について学習する	ペアを組んで練習する
13		講義・演習	乗り物・歴史について学習する	1年を振り返る
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				
できる韓国語初級1, 2、ワークブック、プリント、イラストとゴロで覚える韓国語				

科目名	韓国語(4) (韓国語Entry(4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	李美姫
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ハングルの理解、発音、読み、聞き、作文、会話スキルをアップする ②実用的なコミュニケーションができるように話す力を身につける ③教科書で勉強したものを生かして活用できるようにペア又はグループで練習したり発表する						
到達目標	①韓国語で日常会話が可能になること ②必要な韓国語を身につけて気軽に話せるようにする ③韓国語に対して抵抗感、違和感、恐怖心を持たないようにする						
評価方法と基準	1) 定期試験80% 2) 出席数 10% 3) 態度 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	勉強したいことを聞く・後期の目標設定	予習と復習することの大切さを話す
2		講義・演習	憧れの存在について話し合う	副教材を利用する
3		講義・演習	スポーツについて話し合う	プリント配布
4		講義・演習	感情・関係について話し合う	辞書・翻訳機の使い方を教える
5		講義・演習	旅行・行きたいところについて話し合う	ペアの相手と話し合う
6		講義・演習	最新ニュース、記事を学習する	調べて書いてきてもらう
7		講義・演習	身体・美容について学習する	ネット検索をしてもらって作文を書く
8		講義・演習	地理・国名について学習する	韓国の地理と世界について学習
9		講義・演習	天気・植物について学習する	テスト準備を呼びかける
10		講義・演習	定期試験	試験前に復習を行う
11		講義・演習	季節・気分について学習する	前に出て発表してもらう
12		講義・演習	トレーニング・運動について学習する	ペアを組んで練習する
13		講義・演習	乗り物・歴史について学習する	1年を振り返る
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				
できる韓国語初級1, 2、ワークブック、プリント、イラストとゴロで覚える韓国語				

科目名	韓国語(4) (韓国語Advance(4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	徐慧精
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1) 韓国語のスキルをアップする。 2) ペアやグループで会話の練習をする。 3) 韓国の社会や文化について学ぶ。						
到達目標	1) 適切なコミュニケーションができるようになる。 2) 韓国の社会や文化について理解を深める。 3) 意思を伝達することができるようになる。						
評価方法と基準	1) 定期試験 60% 2) 出席 10% 3) 授業準備 10% 4) 授業態度 10% 5) 課題 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の復習をする。	復習する。
2		講義・演習	TOPIK	TOPIKの練習する。
3		講義・演習	설날とお正月	長文の作文をする。
4		講義・演習	韓国と日本の違い	会話の練習をする。
5		講義・演習	TOPIK	TOPIKの練習する。
6		講義・演習	집들이について	招待状を書く。
7		講義・演習	CDを聞く。	聴いて書く。
8		講義・演習	学生としての生活について	長文の作文をする。
9		講義・演習	キーボードの使い方	ハングルでメールを送る。
10		講義・演習	定期試験	復習をする。
11		講義・演習	最新のニュース	ニュースの内容を書く。
12		講義・演習	自分将来について	夢の作文
13		講義・演習	一年間の振り返り	意思表示をする。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				
できる韓国語初級Ⅱ & ワークブック、プリント。				

科目名	韓国語(4) (韓国語Optional(4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	徐慧精
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1) 韓国語のスキルをアップする。 2) ペアやグループで会話の練習をする。 3) 韓国の文化について学ぶ。						
到達目標	1) 会話の練習を通して、簡単な挨拶や自己紹介ができるようになる。 2) 言葉を学ぶことで、韓国の社会や文化に対する関心を高める。						
評価方法と基準	1) 定期試験 60% 2) 出席 10% 3) 授業準備 10% 4) 授業態度 10% 5) 課題 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の復習をする。	プリントでの復習。
2		講義・演習	-이 / 가 아닙니다.	否定文の練習をする。
3		講義・演習	職業について	会話の練習をする。
4		講義・演習	部屋の中を観察してみよう。	新しい単語を学ぶ。
5		講義・演習	簡単な質問ができる。	相手の話を聞いて返答をする。
6		講義・演習	家族関係が分かる。	文章を作る。授業内容の復習をする。
7		講義・演習	地名や場所名を覚える。	プリントで単語を覚える。
8		講義・演習	約束について会話する。	会話の練習をする。
9		講義・演習	位置に関する説明ができる。	作文の練習をする。
10		講義・演習	定期試験	復習をする。
11		講義・演習	動画をみて見よう。	聴いて書く練習をする。
12		講義・演習	学んだ単語を確認しよう。	学んだ単語の復習をする。
13		講義・演習	一年間を振り返る。	会話の練習をする。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				
できる韓国語初級Ⅰ & ワークブック、プリント。				

科目名	Global Communication (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	池末信
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	外国人を前に怖がったり恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。						
到達目標	よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、個人的な情報について、質問をしたり、答えたりできる。会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートをしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。						
評価方法と基準	定期テスト(筆記100%)による採点						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	be 動詞 (am, are) を使って自己紹介 (国籍や出身) する、または出身地を尋ねる会話を練習、疑問代名詞 [What] を使って、自分の個人情報相手を伝え、また相手の情報を聞く		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
2		講義・演習	ホテルにチェックインする際の会話を練習する、個人的な経歴等のプロフィールを読む・書く		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
3		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「パーティで新しい人に出会う」・前期発表と運動する内容		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
4		講義・演習	be動詞を使って、家族構成について話す、be動詞の否定文を使って、友達や家族について説明する		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
5		講義・演習	年齢や誕生日について聞く、話す、写真に写っている友達のことについて話す、友達についての紹介文を書く		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
6		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「友達や家族についての情報を比較する」・前期発表と運動する内容		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
7		講義・演習	名詞の所有を表す [s] と [is] を使って、自分の家について話す、[it is] を使って、家具について話す、		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
8		講義・演習	飲み物やお菓子を提供する、受け取る際の会話を練習する、分からない単語について質問する、ホームシェアについてのEメールのやり取りを読む、または、そのEメールを書く		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
9		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「好きな音楽について」・前期発表と運動する内容		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
10		講義・演習	一般動詞「現在形」を使って、お気に入りの物について話す、一般動詞の「現在形」の疑問文を使って、どのようにテクノロジーを使用しているのかを話す		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
11		講義・演習	コミュニケーション手段について話す、相手の話を聞いていることを示す、商品のレビューを読む、書く		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
12		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「異なる週の活動について比較する」・前期発表と運動する内容		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
13		講義・演習	「現在形」肯定文、否定文を使って、平日、週末の行動について話す、「現在形」疑問文を使って、時間・自分のルーティン(日課)について話す		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
14		講義・演習	相手の意見に賛成したり、相手と共通していることを伝える表現を練習する、自分の行動についてのレポートを読む、書く		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
15		講義・演習	Time to Speak: 前期発表		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
準備学習 時間外学習			反復練習を通して身につける		
【使用教科書・教材・参考書】					
EVOLVE 2					

科目名	Global Communication (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	池末信
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	外国人を前に怖がったり恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。						
到達目標	よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、個人的な情報について、質問をしたり、答えたりできる。会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートをしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。						
評価方法と基準	定期テスト(筆記100%)による採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	「現在進行形」肯定文を使って、家事や自宅での行動について話す 「現在進行形」疑問文を使って、旅行について質問する、または答える	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
2		講義・演習	電話で情報を共有する会話を練習する、今起こっていることについてのブログを読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
3		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「最近の生活について」 ・後期発表と運動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
4		講義・演習	[Can / Can' t] (能力) を使って、自分の能力や才能について話す [Can / Can' t] (可能性) を使って、職場や学校でできること、できないことについて話す	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
5		講義・演習	自分が何故その仕事の適任者なのか、説明するための表現を練習する、インターネット上で自分の考えをコメントする	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
6		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「自国民が何が得意かについて」 ・後期発表と運動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
7		講義・演習	[this] と [these] を使って、休暇、旅行について話す [like to, want to, need to, have to] を使って、旅行計画を立てる	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
8		講義・演習	お店でいろいろな情報を聞く時の表現を使って、会話する場所についての説明を読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
9		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「休暇の計画をたてる」 ・後期発表と運動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
10		講義・演習	[be going to] を使って、週末のアウトドア（野外）プランについて話す、[be going to]（疑問文）を使って、異なる様々な旅で何を着るかについて話し合う	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
11		講義・演習	夕方出かける計画を提案するなど、相手を誘う時の表現を練習する オンラインでの招待状を読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
12		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「自分の町での楽しい週末を計画する」・後期発表と運動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
13		講義・演習	be動詞の過去形[was / were]の肯定文と否定文を使って、過去における人物、場所、物について話す、be動詞の過去形[was / were]の疑問文を使って、記憶にある色について話す	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
14		講義・演習	自分の記憶を表現し、映画、俳優について話す 過去の思い出として保管している物についてEメールを書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
15		講義・演習	Time to Speak:後期発表	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
準備学習 時間外学習			反復練習を通して身につける	
【使用教科書・教材・参考書】				
EVOLVE 2				

科目名	日本語講座 (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	神田智子
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	日本国内での就職・デビュー活動に必要な日本語能力を養います。 * 前期は、日本の就職活動の概要理解、業界・企業・職種研究、企業担当者やOB・OG訪問、インターンシップ準備などを行い、日本で働くことをイメージできるようにします。また日本語能力試験の対策を行います。 * 後期は、日本語能力試験対策及び、就職・デビューに関わる面接対策等を行います。						
到達目標	日本国内での就職・デビュー活動に必要な日本語能力を養います。 * 前期は、日本の就職活動の概要理解、業界・企業・職種研究、企業担当者やOB・OG訪問、インターンシップ準備などを行い、日本で働くことをイメージできるようにします。また日本語能力試験の対策を行います。 * 後期は、日本語能力試験対策及び、就職・デビューに関わる面接対策等を行います。						
評価方法と基準	毎回の授業で出される課題(提出物、口頭発表)と前期・後期末試験について、 (1)論理性 (2)独自性 (3)正確性 (4)表現力 (5)意欲 の観点から評価						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	日本の就職・デビュー活動の概要	〈準備〉学歴、資格取得年月の整理
2		講義・演習	履歴書①基本情報の書き方	〈準備〉学歴、資格取得年月の整理
3		講義・演習	業界研究 調査①	業界の自主研究及び資料作成
4		講義・演習	業界研究 調査②	業界の自主研究及び資料作成
5		講義・演習	企業研究 調査① 好きなアーティストの所属先	企業の自主研究及び資料作成
6		講義・演習	企業研究 調査② 好みの企業BEST 5	企業の自主研究及び資料作成
7		講義・演習	N1の試験についての心構え～ 例題①	〈課題〉資料作成
8		講義・演習	レベルチェックテスト(20～30分) テスト答え合わせ解説 N1 状況状態に関する語彙	建前、矛盾 チームワークなどの語彙を使う状況を挙げ、例文作成 読解問題宿題
9		講義・演習	N1文法 導入文型 ～とあって、～ならでは、～にもまして、～からして 例文作成、会話練習 N1語彙 人を見て思う感情表現語彙	あさましい めざましい 根拠り業掘りなどの語彙を使う状況を挙げ、例文作成 読解問題宿題
10		講義・演習	N1文法 導入文型 ～を余儀なくされる ～たりとも ～きらいがある ～あっての 例文作成会話練習 N1相手を気遣う語彙	あいにく 何気ない 独自の などの語彙を使う状況を挙げ 例文作成 読解問題宿題
11		講義・演習	N1文法 導入文型 ～をよそに ～なりに ～ないでもない ～すら～なかった 例文作成、会話練習 N1困惑する感情の語彙 実践問題	不審な 閉口する 反発する などの語彙を使う状況を挙げ 例文作成 読解問題宿題
12		講義・演習	N1文法 導入文型 文法～とは(驚き)～がはやいか ～そばから ～ずにはおかない 例文作成、会話練習 N1時間 時期の語彙 。夏休みに向けて	適宜、時折 古参の などの語彙を使う状況を挙げ例文作成 読解問題宿題。夏休み課題の取り組み
13		講義・演習	振り返り。N1 試験について	夏休み課題の復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			反復練習を通して身につける	
【使用教科書・教材・参考書】				
『外国人留学生のための就活ガイド』				

科目名	日本語講座 (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	神田智子
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	日本国内での就職に有利なJLPTN1取得を目標とし、特に出題されやすい接続詞を抜粋して導入、定着を目指す。併せてすべての基礎となる語彙力向上も目標とする またN1レベルの文法や語彙の使い分けも身につける * 講習ごとに語彙テストを行い、また「使える」語彙力を前提に積極的に会話練習を行う * わかりやすく導入するために例文提示と例文作成を行う						
到達目標	1. JLPTN1合格を目指す 2. 正しい接続詞の使い方を学び、実際に使えるようにする 3. 実際に使える語彙を増やす 読める漢字を増やす						
評価方法と基準	1・前期 期末試験の得点 2・N1レベル文法の習得度 N1レベル語彙の実践問題 正解率 3・出席率 授業態度 以上を基準として総合的に評価する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	N1文法 導入文型 ～ともなると ～もさることながら ～に即した ～をにおいて他にない 例文作成、会話練習 N1相手に対応する語彙	報いる 用心する 勘違い などの語彙を使う状況を挙げ、例文作成 読解問題宿題
2		講義・演習	N1文法 導入文型 ～までもなく ～いかな ～とは言えないまでも ～とい～とい～ 例文作成、会話練習 N1将来未来の語彙	果てしなく 遠からず 粘り強く などの語彙を使う状況を考え 例文作成 読解問題宿題
3		講義・演習	N1文法 導入文型～のをいいことに ～にもほどがある ～ならまだしも ～以前の 例文作成、会話練習 N1物に働かせる語彙	活性化 正常化 目に見えて などの語彙を使う状況を挙げ 例文作成 読解問題宿題
4		講義・演習	N1文法 導入文型 ～たら～たで ～ようものなら ～ならいざしらず ～にこしたことはない 例文作成、会話練習 N1経済の語彙	不況 不振 盛況などの語彙を使う状況を挙げ 例文を作成 読解問題宿題
5		講義・演習	N1文法 導入文型～とはいえ ～といったところだ ～に～ない ～にかこつけて 例文作成、会話練習 N1仕事の語彙	打ち込んでいる 立て込んでいる 乗り切る などの語彙を使う状況を挙げ 例文を作成 読解問題宿題
6		講義・演習	N1模擬試験問題 文法 語彙	文法例文作成 + 読解問題宿題
7		講義・演習	N1模擬試験問題 語彙 漢字	語彙例文作成 + 読解問題宿題
8		講義・演習	N1模擬試験問題 文法 漢字	文法例文作成 + 読解問題宿題
9		講義・演習	N1試験対策	レポート提出
10		講義・演習	企業研究 調査② 好みの企業BEST 5	レポート提出
11		講義・演習	インターンシップ② プロフィールシート作成	〈課題〉資料作成
12		講義・演習	企業に入ってからのこと。OB OGIに聞きたいこと。	レポート提出
13		講義・演習	1年のまとめをプレゼンテーションする。	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
『外国人留学生のための就活ガイド』				

科目名	プリプロダクションゼミ(5)	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員	勝守理
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	実際にクライアントさんから発注を頂いた案件を少人数のグループを組み試行錯誤しながら政策を進めていき作品を完成させる。						
到達目標	発注を頂いたクライアントさんからの採用をコンペで勝ち取る作品を作る。その過程の中で今の音楽業界で本当に必要とされる制作能力、プロデュース能力、作曲能力、作詞能力、編曲能力、グループワークの実践力、コミュニケーション能力、などを身につける。						
評価方法と基準	3回のコンペの成績(優勝、準優勝、佳作、提出、未提出)+夏休み課題提出の合計点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業内容ガイダンス、第1クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
2		講義・演習	第1クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
3		講義・演習	第1クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業
4		講義・演習	第1クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業
5		講義・演習	第1クールコンペ、第2クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
6		講義・演習	第2クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
7		講義・演習	第2クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業
8		講義・演習	第2クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業
9		講義・演習	第2クールコンペ、第3クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
10		講義・演習	第3クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
11		講義・演習	第3クール実習2	コンペに向けて録音、ミックス、マスタリング作業
12		講義・演習	第3クールコンペ、夏休み課題発注、チーム分け	夏休み課題制作
13		講義・演習	夏休み課題発表	作品の管理とまとめ
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各課題に取り組む	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	プリプロダクションゼミ(6)	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員	勝守理
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	実際にクライアントさんから発注を頂いた案件を少人数のグループを組み試行錯誤しながら政策を進めていき作品を完成させる。						
到達目標	発注を頂いたクライアントさんからの採用をコンペで勝ち取る作品を作る。その過程の中で今の音楽業界で本当に必要とされる制作能力、プロデュース能力、作曲能力、作詞能力、編曲能力、グループワークの実践力、コミュニケーション能力、などを身につける。						
評価方法と基準	3回のコンペの成績(優勝、準優勝、佳作、提出、未提出)+春休み課題提出の合計点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	第4クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
2		講義・演習	第4クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
3		講義・演習	第4クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業
4		講義・演習	第4クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業
5		講義・演習	第4クールコンペ、第5クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
6		講義・演習	第5クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
7		講義・演習	第5クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業
8		講義・演習	第5クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業
9		講義・演習	第5クールコンペ、第6クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
10		講義・演習	第6クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
11		講義・演習	第6クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業
12		講義・演習	第6クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業
13		講義・演習	第6クールコンペ、春休み課題発注、チーム分け	作品の管理とまとめ
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各課題に取り組む	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Lyrics (5)	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員	増田祐生
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	昨今の日本の音楽を含むエンターテインメントコンテンツが海外諸国から評価を得ている事例を元に、顕在化している表面部分だけではなく作品ごとの潜在的インスピレーションの源泉を探りながら「日本らしさ」が好まれる context(文脈)を探り 実際に作品に触れ演奏・歌唱をしながら自身の価値観の多様性、クリエイティビティ、自分の言葉づくり、演奏技術を深め、育んでいきます。						
到達目標	国外から日本の音楽が評価を得ている事由を多方面からクリエイティブに解釈し それを元に自身のアーティスト性、音楽性、テクニカルに落とし込むことが出来る。 また過去の優れた作品へのリスペクト、理解度、考察を深め、それらを再解釈・再構築し、演奏・表現出来る。 同時に自身が好む音楽とボーカル・リリックスのアーキテクチャ(構成・構造)を育み、自分にしか発信できない言葉・ストーリーを自らの作品に活かすことができる。						
評価方法と基準	授業出席率 40点、課題提出 40点、毎週の達成 20点の100点満点にて評価						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	授業概要説明、スライド資料を用いながら昨今の海外でのJ-POPの消費のされ方について理解を深める。	ストリーミングサービスなどを利用して未知の楽曲に触れる。	
2		講義・演習	Unknown Listening ①: ブラインドでInstrumental楽曲の背景を「聴いて」「見る」 またシート 項目に従いレタリングする	非言語(歌詞以外)サウンドにフォーカスして様々な楽曲を聴く。	
3		講義・演習	Song Lecture①: 日本の季節を表現するSeasonalな楽曲のリスニング 歌詞のcontext(文脈)の考察をして、レタリングする。また詩のモノログをする。	課題曲①のリスニング	
4		講義・演習	Voice Coloring①: 楽曲の考察を元に情緒を感じる声色を選定し、実際に歌唱する。	課題曲①のリスニング	
5		講義・演習	Song Lecture①: の発表 1人ずつ授業3,4をもとに1コーラスずつ歌唱をする。講師によるフィードバック。	自分のデバイスに歌唱している様子を録音し客観的にリスニングする。	
6		講義・演習	Song Lecture②: 日本の秋を表現するSeasonalな楽曲のリスニング 歌詞のcontext(文脈)の考察をして、レタリングする。また詩のモノログをする。	課題曲②のリスニング□	
7		講義・演習	Voice Coloring②: 楽曲の考察を元に情緒を感じる声色を選定し、実際に歌唱する。	課題曲②のリスニング□	
8		講義・演習	Song Lecture②: の発表 1人ずつ授業6,7をもとに1コーラスずつ歌唱をする。講師によるフィードバック。	自分のデバイスに歌唱している様子を録音し客観的にリスニングする。	
9		講義・演習	Song Lecture③: 現代のJ-POPグループに大きな影響を与えた楽曲のリスニング 歌詞のcontext(文脈)の考察をして、レタリングする。また詩のモノログをする。	課題曲③のリスニング□	
10		講義・演習	Voice Coloring③: 楽曲の考察を元に情緒を感じる声色を選定し、実際に歌唱する。	課題曲③のリスニング□	
11		講義・演習	Song Lecture③: の発表 1人ずつ授業9,10をもとに1コーラスずつ歌唱をする。講師によるフィードバック。	自分のデバイスに歌唱している様子を録音し客観的にリスニングする。	
12		講義・演習	Unknown Listening②: ブラインドでInst楽曲、海外のヴォーカル楽曲の背景を「聴いて」「見る」 またシート項目に従いレタリングする	授業内で触れた音楽を聴くロケーションを変えて「聴いて」「見る」	
13		講義・演習	発表①: 前期取り組んだ楽曲の中から1曲選んで一人ずつ歌唱をする。 また楽曲についてのプレゼンテーションをする。	選曲と準備	
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Lyrics (6)	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員	増田祐生
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	昨今の日本の音楽を含むエンターテインメントコンテンツが海外諸国から評価を得ている事例を元に、顕在化している表面部分だけではなく作品ごとの潜在的インスピレーションの源泉を探りながら「日本らしさ」が好まれる context(文脈)を探り 実際に作品に触れ演奏・歌唱をしながら自身の価値観の多様性、クリエイティビティ、自分の言葉づくり、演奏技術を深め、育んでいきます。						
到達目標	国外から日本の音楽が評価を得ている事由を多方面からクリエイティブに解釈し それを元に自身のアーティスト性、音楽性、テクニカルに落とし込むことが出来る。 また過去の優れた作品へのリスペクト、理解度、考察を深め、それらを再解釈・再構築し、演奏・表現出来る。 同時に自身が好む音楽とボーカル・リリックスのアーキテクチャ(構成・構造)を育み、自分にしか発信できない言葉・ストーリーを自らの作品に活かすことができる。						
評価方法と基準	授業出席率 40点、課題提出 40点、毎週の達成 20点の100点満点にて評価						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	Unknown Listening③: ブラインドでInstrumental楽曲、海外のヴォーカル楽曲の背景を「聴いて」「見る」 またシート項目に従いレタリングする	授業内で触れた音楽を聴くロケーションを変えて「聴いて」「見る」	
2		講義・演習	Song Lecture④: 日本の演歌・歌謡曲ジャンルの楽曲のリスニング 歌詞のcontext(文脈)の考察をして、レタリングする。また詩のモノローグをする。	課題曲④のリスニング	
3		講義・演習	Voice Coloring④: 楽曲の考察を元に情緒を感じる声色を選定し、実際に歌唱する。	課題曲④のリスニング	
4		講義・演習	Song Lecture④: の発表 1人ずつ授業2,3をもとに1コーラスずつ歌唱をする。講師によるフィードバック。	自分のデバイスに歌唱している様子を録音し客観的にリスニングする。	
5		講義・演習	Song Lecture⑤: 日本の「青春」について描かれた楽曲のリスニング 歌詞のcontext(文脈)の考察をして、レタリングする。また詩のモノローグをする。	課題曲⑤のリスニング	
6		講義・演習	Voice Coloring⑤: 楽曲の考察を元に情緒を感じる声色を選定し、実際に歌唱する。	課題曲⑤のリスニング	
7		講義・演習	Song Lecture⑤: の発表 1人ずつ授業5,6をもとに1コーラスずつ歌唱をする。講師によるフィードバック。	自分のデバイスに歌唱している様子を録音し客観的にリスニングする。	
8		講義・演習	Song Lecture⑥: 日本の「恋愛」について描かれた楽曲のリスニング 歌詞のcontext(文脈)の考察をして、レタリングする。また詩のモノローグをする。	課題曲⑥のリスニング	
9		講義・演習	Voice Coloring⑥: 楽曲の考察を元に情緒を感じる声色を選定し、実際に歌唱する。	課題曲⑥のリスニング	
10		講義・演習	Song Lecture⑥: の発表 1人ずつ授業8,9をもとに1コーラスずつ歌唱をする。講師によるフィードバック。	自分のデバイスに歌唱している様子を録音し客観的にリスニングする。	
11		講義・演習	Unknown Listening④: 授業内で取り扱っていないジャンルの楽曲をリスニングする。 全員でショートフレーズを歌唱しながら楽曲のcontextなどをディスカッションする。	自分の中に芽生えた好きな音楽のアーキテクチャ(構造・構成)を理解する	
12		講義・演習	発表②: 自身が選曲・もしくは作詞作曲した楽曲をフルコーラス歌唱、また楽曲についてのプレゼンテーションをする。	自身の言葉で伝える・自身の声で演奏する準備	
13		講義・演習	発表②: 自身が選曲・もしくは作詞作曲した楽曲をフルコーラス歌唱、また楽曲についてのプレゼンテーションをする。	自身の言葉で伝える・自身の声で演奏する準備	
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	DJワークショップ（5）	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	U.D.
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 （単位）	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	DJプレイ全体の流れを設計する「選曲力」と「構成力」を学ぶ。ジャンルや雰囲気の統一、エネルギーのコントロール（上げ下げ）、観客や場面を想定した選曲を意識する。複数曲を用いたDJセット（5～10分程度）を構築し、ストーリー性のあるプレイを目指す。						
到達目標	テーマに沿った選曲ができる 楽曲のエネルギー変化を意識した流れを作れる 複数曲を整理してセットリストを構成できる 5～10分程度のDJセットを準備できる 意図を持って曲順を説明できる						
評価方法と基準	実技テストによる採点と授業出席率の平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	選曲の考え方	好きなジャンルを整理
2		講義・演習	テーマ設定	コンセプト考案
3		講義・演習	エネルギー設計	盛り上がり曲を探す
4		講義・演習	曲順の作り方	プレイリスト作成
5		講義・演習	ストーリー構成	流れを書き出す
6		講義・演習	ミックスとの統合	セット練習
7		講義・演習	ジャンル統一	類似曲探し
8		講義・演習	ジャンルミックス	異ジャンル選び
9		講義・演習	セット作成①	5分構成
10		講義・演習	セット作成②	改善
11		講義・演習	個別フィードバック	修正
12		講義・演習	リハーサル	本番想定
13		講義・演習	ミニ発表	最終確認
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	DJワークショップ（6）	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	U.D.
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 （単位）	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	これまでの学習内容を総合的に活用し、実践的なDJプレイを行う。事前に準備したセットを用いてパフォーマンスを行い、録音・発表・フィードバックを通じて改善点を明確にする。人前でのプレイ経験を積み、自身の課題と今後の成長方針を把握する。						
到達目標	構成したDJセットを実演できる 安定したミックスを維持しながらプレイできる 表現(EQ・エフェクト)を取り入れた演奏ができる フィードバックを受けて自己改善点を言語化できる 一連のDJプレイを自立して行える						
評価方法と基準	実技テストによる採点と授業出席率の平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	発表概要・目標設定	セット構想
2		講義・演習	セット確認①	曲再確認
3		講義・演習	セット確認②	修正
4		講義・演習	表現調整	演出見直し
5		講義・演習	通し練習①	練習
6		講義・演習	通し練習②	安定化
7		講義・演習	個別指導①	改善
8		講義・演習	個別指導②	修正
9		講義・演習	リハーサル①	本番想定
10		講義・演習	リハーサル②	微調整
11		講義・演習	最終調整	確認
12		講義・演習	発表	ー
13		講義・演習	振り返り・講評	プレイを振り返る
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Digital Contents(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	渡部 祐介
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	Adobeの基礎(映像制作の現場で主流のAdobeソフトの基礎を習得する) 基礎技術もさることながら、生きた現場の感覚をお伝えします。						
到達目標	自力で映像制作ができる エンタメ業界への就職した姿を想像する						
評価方法と基準	1) 定期テスト70% 2) 出席数30% 独力での映像制作・書き出し						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	講師自己紹介・講義内容 Photoshop	宿題:Photoshop インストールしておく 授業後提出課題:psdデータの提出
2		講義・演習	映像オペレーション スイッチャー講座	映像オペレーション スイッチャーについてレポート作成
3		講義・演習	Adobe Premier 作品制作	宿題:締め切りを見越した作業 授業後提出課題:premiereのプロジェクトを提出
4		講義・演習	Adobe Premier 作品制作	宿題:締め切りを見越した作業 授業後提出課題:premiereのプロジェクトを提出
5		講義・演習	Adobe Premier 作品制作	宿題:締め切りを見越した作業 授業後提出課題:H.264(.mp4)にて提出
6		講義・演習	Adobe After Effect 使い方	宿題:After effectsインストール、自分の好きな音源データを持ってくる 授業後提出課題:Aeのプロジェクトを提出
7		講義・演習	Adobe After Effect 作品制作	宿題:自分の好きな音源データを持ってくる 授業後提出課題:作業プロジェクトを提出
8		講義・演習	Adobe After Effect 作品制作	宿題:締め切りを見越した作業 授業後提出課題:作業プロジェクトを提出
9		講義・演習	Adobe After Effect 作品制作	宿題:締め切りを見越した作業 授業後提出課題:作業プロジェクトを提出
10		講義・演習	Adobe After Effect 作品制作【テスト】	宿題:締め切りを見越した作業 授業後提出課題:完成品(テストとして採点します)
11		講義・演習	スマホで作る縦型動画、ショート動画	宿題:締め切りを見越した作業 授業後提出課題:作業プロジェクトを提出
12		講義・演習	PCで作る縦型動画、ショート動画	宿題:締め切りを見越した作業 授業後提出課題:作業プロジェクトを提出
13		講義・演習	AI生成をやってみる	宿題:締め切りを見越した作業 授業後提出課題:作業プロジェクトを提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
各自PC(充電器を含む)Adobe Photoshop、Premiere Pro、After effects(illustrator、Media encoder)				

科目名	Digital Contents(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	渡部 祐介
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	adobeの基礎(映像制作の現場で、主流のadobeソフトの基礎を習得する) 配信・SNS動画基礎 映像制作の仕事に携わりたいと思う 基礎技術もさることながら、マインドや現場の実情を伝えていきます。						
到達目標	学内公演等の映像演出						
評価方法と基準	1) 定期テスト70% 2) 出席数30% 独力での映像制作・書き出し						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	現場で役立つAfter Effect	宿題: 締め切りを見越した作業 授業後提出課題: 作業プロジェクトを提出
2		講義・演習	After Effect まとめ	宿題: 締め切りを見越した作業 授業後提出課題: 作業プロジェクトを提出
3		講義・演習	Adobe After Effect 作品制作□	宿題: 締め切りを見越した作業 授業後提出課題: 作業プロジェクトを提出
4		講義・演習	Adobe After Effect 作品制作□	宿題: 締め切りを見越した作業 授業後提出課題: 作業プロジェクトを提出
5		講義・演習	Adobe After Effect 作品制作□	宿題: 架空のtiktok動画の構成を考えてくる 授業後提出課題: 作業プロジェクトを提出
6		講義・演習	Adobe After Effect 作品制作□	宿題: 締め切りを見越した作業 授業後提出課題: tiktokに適した形式で書き出して提出
7		講義・演習	制作企画立案	宿題: 自分の好きな音源データを持ってくる 授業後提出課題: 作業プロジェクトを提出
8		講義・演習	制作企画立案	宿題: 締め切りを見越した作業 授業後提出課題: 作業プロジェクトを提出
9		講義・演習	Adobe after effectを中心に使ったMV	宿題: 締め切りを見越した作業 授業後提出課題: 作業プロジェクトを提出
10		講義・演習	Adobe after effectを中心に使ったMV	宿題: 締め切りを見越した作業 授業後提出課題: 学内舞台納品
11		講義・演習	Adobe after effectを中心に使ったMV	宿題: 締め切りを見越した作業 授業後提出課題: 学内舞台納品
12		講義・演習	Adobe after effectを中心に使ったMV	宿題: 締め切りを見越した作業 授業後提出課題: 学内舞台納品
13		講義・演習	後期まとめ	宿題: 前期書き出し作品を確実に持ってくる。 前期総評、質疑応答など
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
各自PC(充電器を含む)Adobe Photoshop、Premiere Pro、After effects(illustrator、Media encoder)				

科目名	オーケストレーション (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	大貫和紀
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	2年時に履修した「インストゥルメンテーション」で学習した管弦打楽器の各種楽器についての理解をもとに、1年を通してビッグバンドとオーケストラのためのラージアンサンブルのための書法、そしてDAWでの制作における生楽器とサウンドデザイン(シンセや様々なFX)の素材とのハイブリッドな音の構造にも領域を広げていきます。前期では主にポップスやジャズにおけるブラスアンサンブル(2管編成～ビッグバンドまで)のスコアをひもときながら、基礎的な書法を学習し自己の作編曲作品にいかしていきます。						
到達目標	各種金管楽器の特性、アーティキュレーションについて理解がある。 コードネームから様々なボイスイングと、メロディラインを作る知識がある。 小編成(2～5管編成)のブラスアレンジができる。 ビッグバンドの基礎的な書法の理解があり、簡単なアレンジができる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	今後の授業の予定とガイダンス。インストゥルメンテーションとの違い、オーケストレーションの意義の確認。	今後の授業の予定とガイダンス。インストゥルメンテーションとの違い、オーケストレーションの意義の確認。振り返りと自習	
2		講義・演習	コードとスケールの理論、トランペット、トロンボーン、サクソ各種の楽器法、リズムセクションの書法をスコアで確認。	コードとスケールの理論、トランペット、トロンボーン、サクソ各種の楽器法、リズムセクションの書法をスコアで確認。振り返りと自習	
3		講義・演習	ユニゾンとハーモニーについて考察。ユニゾン、オクターブユニゾンによる楽器の重なりから音色の変化を感じ取ることができる。	ユニゾンとハーモニーについて考察。ユニゾン、オクターブユニゾンによる楽器の重なりから音色の変化を感じ取ることができる。振り返りと自習	
4		講義・演習	ハーモニーについての考察① 2～3管編成におけるアレンジのバリエーションと、ボイスイングの理解がある。	ハーモニーについての考察① 2～3管編成におけるアレンジのバリエーションと、ボイスイングの理解がある。振り返りと自習	
5		講義・演習	ハーモニーについての考察② 4～5管編成におけるアレンジのバリエーションと、ボイスイングの理解がある。	ハーモニーについての考察② 4～5管編成におけるアレンジのバリエーションと、ボイスイングの理解がある。振り返りと自習	
6		講義・演習	ビッグバンドにおけるトランペットセクションの書法について考察。そのアレンジ、ボイスイングについて基礎理解がある。	ビッグバンドにおけるトランペットセクションの書法について考察。そのアレンジ、ボイスイングについて基礎理解がある。振り返りと自習	
7		講義・演習	ビッグバンドにおけるトロンボーンセクションの書法について考察。そのアレンジ、ボイスイングについて基礎理解がある。	ビッグバンドにおけるトロンボーンセクションの書法について考察。そのアレンジ、ボイスイングについて基礎理解がある。振り返りと自習	
8		講義・演習	ビッグバンドにおける8ブラス(トランペットとトロンボーン)について考察。そのアレンジ、ボイスイングについて基礎理解がある。	ビッグバンドにおける8ブラス(トランペットとトロンボーン)について考察。そのアレンジ、ボイスイングについて基礎理解がある。振り返りと自習	
9		講義・演習	ビッグバンドにおけるサクソセクションの書法について考察。そのアレンジ、ボイスイングについて基礎理解がある。	ビッグバンドにおけるサクソセクションの書法について考察。そのアレンジ、ボイスイングについて基礎理解がある。振り返りと自習	
10		講義・演習	ビッグバンドにおけるフルアンサンブルの書法について考察。そのアレンジ、ボイスイングについて基礎理解がある。	ビッグバンドにおけるフルアンサンブルの書法について考察。そのアレンジ、ボイスイングについて基礎理解がある。振り返りと自習	
11		講義・演習	スコアリーディング① ビッグバンドの作品分析、そのアレンジやボイスイングについて理解がある。	スコアリーディング① ビッグバンドの作品分析、そのアレンジやボイスイングについて理解がある。振り返りと自習	
12		講義・演習	スコアリーディング② ビッグバンドの作品分析、そのアレンジやボイスイングについて理解がある。	試験準備	
13		講義・演習	これまで学習したビッグバンドの基礎的な処方について確認する試験を実施するとともに、アレンジ作品の提出。	テスト	
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	オーケストレーション (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	大貫和紀
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	前期に学習したプラスアンサンプルの知識と理解のうえに、後期では主にクラシックのオーケストラスコアをひもときながら、オーケストレーションの基礎的な書法を学習するとともに、ポップス、劇版、サウンドデザインなどのジャンルにおいてDAWでのハイブリッドなオーケストレーションを作品に反映できることを目指します。						
到達目標	木管楽器と弦楽器、打楽器の特性、アーティキュレーションについて理解がある。 コードネームから様々なボイシングと、メロディラインを作る知識がある。 オーケストラの書法について基礎的な理解があり、譜面を書くことができる。 DAWでのオーケストラサウンド、サウンドデザイン要素とのハイブリッドな作品を制作できる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	クラシック、フィルムスコア、サウンドデザインの作品をひもときながら、オーケストレーションの意義と学習についてディスカッション。	クラシック、フィルムスコア、サウンドデザインの作品をひもときながら、オーケストレーションの意義と学習についてディスカッション。振り返りと自習	
2		講義・演習	弦楽器各種の楽器法についてふりかえり、書法をスコアで確認。	弦楽器各種の楽器法についてふりかえり、書法をスコアで確認。振り返りと自習	
3		講義・演習	弦楽器のボイシング、アレンジについて考察、その理解をもとにサウンドの分析ができる。	弦楽器のボイシング、アレンジについて考察、その理解をもとにサウンドの分析ができる。振り返りと自習	
4		講義・演習	金管楽器各種の楽器法についてふりかえり、オーケストラにおける書法をスコアで確認。	金管楽器各種の楽器法についてふりかえり、オーケストラにおける書法をスコアで確認。振り返りと自習	
5		講義・演習	金管楽器のボイシング、アレンジについて考察、その理解をもとにサウンドの分析ができる。	金管楽器のボイシング、アレンジについて考察、その理解をもとにサウンドの分析ができる。振り返りと自習	
6		講義・演習	パーカッション各種の楽器法についてふりかえり、オーケストラにおける書法をスコアで確認。	パーカッション各種の楽器法についてふりかえり、オーケストラにおける書法をスコアで確認。振り返りと自習	
7		講義・演習	パーカッションのアレンジについて考察、その理解をもとにサウンドの分析ができる。	パーカッションのアレンジについて考察、その理解をもとにサウンドの分析ができる。振り返りと自習	
8		講義・演習	木管各種の楽器法についてふりかえり、オーケストラにおける書法をスコアで確認。	木管各種の楽器法についてふりかえり、オーケストラにおける書法をスコアで確認。振り返りと自習	
9		講義・演習	木管楽器のアレンジについて考察、その理解をもとにサウンドの分析ができる。	木管楽器のアレンジについて考察、その理解をもとにサウンドの分析ができる。振り返りと自習	
10		講義・演習	サウンドデザインの考察① 生楽器以外のシンセやサウンドFXの素材について知識と理解があり、曲中でのサウンド分析ができる。	サウンドデザインの考察① 生楽器以外のシンセやサウンドFXの素材について知識と理解があり、曲中でのサウンド分析ができる。振り返りと自習	
11		講義・演習	サウンドデザインの考察② オーケストラサウンドとサウンドデザイン素材とのハイブリッドなサウンドの分析ができる。	サウンドデザインの考察② オーケストラサウンドとサウンドデザイン素材とのハイブリッドなサウンドの分析ができる。振り返りと自習	
12		講義・演習	サウンドデザインの考察③ サウンドデザインの素材のみで作られたトラックの分析ができる。	試験準備	
13		講義・演習	これまで学習したオーケストラの基礎的な処方について確認する試験を実施するとともに、アレンジ作品の提出。	テスト	
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	サウンドプロデュース (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	今関 邦裕
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ミキシングの基礎知識、応用、ミキシングの観点からアレンジやレコーディングの重要性を学ぶ。作曲コースのコンペ授業での反省とアドバイス、実演を交えてミキシングによる伝え方を学ぶ。ジャンルという枠にとらわれず、音楽の聴き方を学び様々な音楽に触れる。						
到達目標	楽曲の在り方をミキシングの視点から感じる。 楽曲が伝えたい事を作り手の立場になって一・制作者になる。楽曲が持つ可能性を広げる。						
評価方法と基準	1)授業態度・姿勢100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	スタジオワークでの作法① ミックスルーティングの作り方①	授業内で扱うためのパラデータ作成
2		講義・演習	スタジオワークでの作法② ミックスルーティングの作り方②	授業内で扱うためのパラデータ作成
3		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践1	授業内で扱うためのパラデータ作成
4		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践2	授業内で扱うためのパラデータ作成
5		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践3	授業内で扱うためのパラデータ作成
6		講義・演習	マスタリング基礎	授業内で扱うためのパラデータ作成
7		講義・演習	マスタリング応用	授業内で扱うためのパラデータ作成
8		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践4	授業内で扱うためのパラデータ作成
9		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践5	授業内で扱うためのパラデータ作成
10		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践6	授業内で扱うためのパラデータ作成
11		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践7	授業内で扱うためのパラデータ作成
12		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践8	授業内で扱うためのパラデータ作成
13		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践9	授業内で扱うためのパラデータ作成
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	サウンドプロデュース (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	今関 邦裕
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ミキシングの基礎知識、応用、ミキシングの観点からアレンジやレコーディングの重要性を学ぶ。作曲コースのコンペ授業での反省とアドバイス、実演を交えてミキシングによる伝え方を学ぶ。ジャンルという枠にとらわれず、音楽の聴き方を学び様々な音楽に触れる。						
到達目標	楽曲の在り方をミキシングの視点から感じる。 楽曲が伝えたい事を作り手の立場になって一・制作者になる。楽曲が持つ可能性を広げる。						
評価方法と基準	1)授業態度・姿勢100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践10	授業内で扱うためのパラデータ作成
2		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践11	授業内で扱うためのパラデータ作成
3		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践12	授業内で扱うためのパラデータ作成
4		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践13	授業内で扱うためのパラデータ作成
5		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践14	授業内で扱うためのパラデータ作成
6		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践15	授業内で扱うためのパラデータ作成
7		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践16	授業内で扱うためのパラデータ作成
8		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践17	授業内で扱うためのパラデータ作成
9		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践18	授業内で扱うためのパラデータ作成
10		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践19	授業内で扱うためのパラデータ作成
11		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践20	授業内で扱うためのパラデータ作成
12		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践21	授業内で扱うためのパラデータ作成
13		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践22	授業内で扱うためのパラデータ作成
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	音楽デジタルコンテンツ制作 (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	野崎 貴潤
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	三年間の学習の総決算として、現実に近い環境・形態で、限りなくプロクオリティに近い音楽アルバム制作を出来る様に力をつける						
到達目標	自分達でサウンドプロデュース・スケジュール作成・ミュージシャン発注等を総合した「トータルプロデュース」の力を発揮できる						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:50%、作品提出:50%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	テーマ決定・チーム編成	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
2		講義・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
3		講義・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
4		講義・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
5		講義・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
6		講義・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
7		講義・演習	10分以上のアレンジ・レコーディング・編集済み作品提出	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
8		講義・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
9		講義・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
10		講義・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
11		講義・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
12		講義・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
13		講義・演習	20分以上のアレンジ・レコーディング・編集済み作品提出	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			余裕を持った作成環境を作る為に、効率的な授業・授業外のスケジュールリングを心がける	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	音楽デジタルコンテンツ制作 (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	野崎 貴潤
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	三年間の学習の総決算として、現実に近い環境・形態で、限りなくプロクオリティに近い音楽アルバム制作を出来る様に力をつける						
到達目標	自分達でサウンドプロデュース・スケジュール作成・ミュージシャン発注等を総合した「トータルプロデュース」の力を発揮できる						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:50%、作品提出:50%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	30分以上のアレンジ・レコーディング・編集済み作品提出	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
2		講義・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
3		講義・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
4		講義・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
5		講義・演習	40分以上の全アレンジ・レコーディング・編集済み作品提出	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
6		講義・演習	ミキシング	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
7		講義・演習	ミキシング	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
8		講義・演習	ミキシング	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
9		講義・演習	全作品ミキシング済み作品提出及び確認	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
10		講義・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
11		講義・演習	マスタリング	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
12		講義・演習	全作品マスタリング済み作品提出及び確認	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
13		講義・演習	ジャケット・パッケージ制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			余裕を持った作成環境を作る為に、効率的な授業・授業外のスケジュールリングを心がける	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Art of K-POP (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	KYO-HEY
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ダンスヴォーカルとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。 ②ヴォーカルとダンスの科目に関係し、その両方を同時に行えるようになスキルを身につける。 ③自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドも含め学んで欲しい。 ④踊っても歌がブレない身体作りや両立させる為の体の使い方等を、作品作りを通して向上させる。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	・課題成果「出席・授業態度」:40%・実技試験:60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	個人目標設定を行う	設定した目標に対するアプローチを考える
2		講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (アイソレーション、ヒット、ウォークアウト)	次の講義までに復習を要する
3		講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (アイソレーション、ポップ、サイドスライド)	次の講義までに復習を要する
4		講義・演習	リズムとグループの仕組みを知る	次の講義までに復習を要する
5		講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (体重移動)	次の講義までに復習を要する
6		講義・演習	簡単な動きをつけた時の体の使い方(歌唱)を知る	次の講義までに復習を要する
7		講義・演習	簡単なステップをつけた時の体の使い方(歌唱)を知る	次の講義までに復習を要する
8		講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (リズムを意識して振り付けを行える)	次の講義までに復習を要する
9		講義・演習	振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを行う	次の講義までに復習を要する
10		講義・演習	ステージパフォーマンスの流れを知る	次の講義までに復習を要する
11		講義・演習	振り付け、構成付き歌唱パフォーマンスを行うことができる	次の講義までに復習を要する
12		講義・演習	試験	試験対策
13		講義・演習	試験総括(改善点を知る)	試験で出来なかった部分を復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持って来ること	
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、ワイヤレスマイク、ダミーマイク、キーボード、スニーカー				

科目名	Art of K-POP (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	KYO-HEY
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ダンスヴォーカルとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。 ②ヴォーカルとダンスの科目に関係し、その両方を同時に行えるようになスキルを身につける。 ③自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドも含め学んで欲しい。 ④踊っても歌がブレない身体作りや両立させる為の体の使い方等を、作品作りを通して向上させる。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	・課題成果「出席・授業態度」:40%・実技試験:60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	歌唱時の振付に対する体の使い方を理解する	次の講義までに復習を要する
2		講義・演習	リズムを持続したまま歌唱パフォーマンスが出来る	次の講義までに復習を要する
3		講義・演習	リズム+グループを持続したまま歌唱パフォーマンスが出来る	次の講義までに復習を要する
4		講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる(アイソレーション、ポップ、フレックス)	次の講義までに復習を要する
5		講義・演習	ボディウェイブ初級が出来る	次の講義までに復習を要する
6		講義・演習	ボディウェイブ中級が出来る	次の講義までに復習を要する
7		講義・演習	歌唱パフォーマンス時の体のバランスを自分自身で整えることができる	次の講義までに復習を要する
8		講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる(アイソレーション、ストップ、エアポーズ)	次の講義までに復習を要する
9		講義・演習	自分で振り付け、ステージパフォーマンスを考えることができる	次の講義までに復習を要する
10		講義・演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを行うことができる	次の講義までに復習を要する
11		講義・演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める	次の講義までに復習を要する
12		講義・演習	試験	試験対策
13		講義・演習	試験総括(改善点を知る)	試験で出来なかった部分を復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持って来ること	
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、ワイヤレスマイク、ダミーマイク、キーボード、スニーカー				

科目名	Broadway seminar advance(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	齊藤早春
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ミュージカルで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではミュージカルにおける基礎とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	ミュージカルで活躍していく為に必要な基礎とそのスキルを習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
2		講義・演習	イントネーションテクニックをを理解し実践できる。	イントネーションテクニックを理解し理解し動画にまとめる。
3		講義・演習	即興演奏の基礎を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。
4		講義・演習	ポエムを理解し実践できる。	ポエムを理解し動画にまとめる。
5		講義・演習	ポエムで発声のやり方を理解し実践できる。	ポエムで発声のやり方を理解し動画にまとめる。
6		講義・演習	即興演奏の基礎を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。
7		講義・演習	リード曲のミュージカル研究を理解し実践できる。	リード曲のミュージカル研究を理解し動画にまとめる。
8		講義・演習	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
9		講義・演習	ポエムを理解し実践できる。	ポエムを理解し動画にまとめる。
10		講義・演習	ポエムで発声のやり方を理解し実践できる。	ポエムで発声のやり方を理解し動画にまとめる。
11		講義・演習	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
12		講義・演習	より高度な即興演奏を理解し実践できる。 ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。 ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
13		講義・演習	発表会の流れで練習し実践する。	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ミュージカルで必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Broadway seminar advance(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	齊藤早春
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ミュージカルで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではミュージカルにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	ミュージカルで活躍していく為に応用とそのスキルを習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
2		講義・演習	高度なイントネーションテクニックを理解し実践できる。	イントネーションテクニックを理解し理解し動画にまとめる。
3		講義・演習	高度な即興演奏を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。
4		講義・演習	より深いポエムを理解し実践できる。	ポエムを理解し動画にまとめる。
5		講義・演習	より深いポエムで発声のやり方を理解し実践できる。	ポエムで発声のやり方を理解し動画にまとめる。
6		講義・演習	高度な即興演奏を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。
7		講義・演習	高度なリード曲のミュージカル研究を理解し実践できる。	リード曲のミュージカル研究を理解し動画にまとめる。
8		講義・演習	応用のストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
9		講義・演習	応用のポエムを理解し実践できる。	ポエムを理解し動画にまとめる。
10		講義・演習	応用のポエムで発声のやり方を理解し実践できる。	ポエムで発声のやり方を理解し動画にまとめる。
11		講義・演習	応用のストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
12		講義・演習	より高度な即興演奏を理解し実践できる。 ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。 ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
13		講義・演習	発表会の流れで練習し実践する。	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ミュージカルで必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Inst Ensemble A (5) (Piano Duo(5))	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	橋元 美沙 田原 佑一朗 熊谷 穰
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界で活躍していく為には、ピアノと歌のアンサンブルを重点的に学ぶことが望ましい。本講義ではいくつかのピアノパターンにあわせた歌唱法を学び表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なアンサンブルスキルを習得し実践できる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	POPSリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
2		講義・演習	POPSリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
3		講義・演習	JAZZリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
4		講義・演習	JAZZリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
5		講義・演習	ROCKリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
6		講義・演習	ROCKリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
7		講義・演習	サンバ系リズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
8		講義・演習	サンバ系リズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
9		講義・演習	フリーのリズムを感じながらの表現法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
10		講義・演習	フリーのリズムを感じながらのアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
11		講義・演習	JAZZリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。 JAZZリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
12		講義・演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。 歌からスタートする音楽を学び実践できる	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。 歌からスタートする音楽を学び実践できる
13		講義・演習	試験と復習	1-12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			アンサンブル力を身につける、リズムをよくするための繰り返し練習、週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Inst Ensemble A (6) (Piano Duo (6))	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	橋元 美沙 田原 佑一朗 熊谷 穂
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	リズム、ボリューム、コミュニケーション、曲の構成など、演奏を通してアンサンブル力を育てる						
到達目標	譜面を見ながら演奏もしくは歌唱できるようになる。						
評価方法と基準	実技試験100%%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	POPSリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
2		講義・演習	POPSリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
3		講義・演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
4		講義・演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
5		講義・演習	ROCKリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
6		講義・演習	ROCKリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
7		講義・演習	サンバ系リズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
8		講義・演習	サンバ系リズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
9		講義・演習	フリーのリズムを感じながらの高度な表現法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
10		講義・演習	フリーのリズムを感じながらの高度なアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
11		講義・演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。 JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
12		講義・演習	JAZZリズムにあわせた高度な高度なアドリブ法を習得し実践できる。 歌からスタートする高度な音楽を学び実践できる	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。 歌からスタートする音楽を学び実践できる
13		講義・演習	試験と復習	1-12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			アンサンブル力を身につける、リズムをよくするための繰り返し練習、週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	クリエイティブワークショップ(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	金子勝洋
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	この授業は、音楽理論の基礎を学びながら小作品を制作、発表する。それらを通して、ミュージシャンとしての基礎力向上と、自己表現力を育むことを目標としている。ヴォーカリストは耳を使って音楽をすることに長けており、音楽理論に触れる機会が少ない傾向にある。そのため、創作を通して、音楽理論やハーモニー楽器に触れて、広い視野で音楽を理解する力を養う。そして、他人の評価に挫けたり、全てを委ねてしまうことなく、自らの表現を恐れずに発信できるミュージシャンへと成長することを促す。						
到達目標	①小作品の制作を通して、音楽理論の基礎をより深く理解する。②自分の制作の経緯、意図、想いを言語化し発表する。③授業外で時間の調整を行い、多様なスケジュールの下でも、課題を期日までに創る。④定期的なプレゼンテーションを通して、自分の作品が他者の目に晒されることの緊張や不快感と向き合い、自分らしい対処法を見つける。⑤0から1を創る経験を通して、身の回りにある音楽に対して、尊ぶ気持ちを養う。						
評価方法と基準	①1学期を通して、最低3回のプレゼンテーションを行う。②学期末に1コーラス以上の作品を提出する。③授業が全ての生徒にとってセーフスペースになるよう貢献する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業の概要説明、イントロダクション	課題制作
2		講義・演習	インターバルの復習、Top Liningの実践	課題制作
3		講義・演習	テスト、Show vs Tellを理解する	課題制作
4		講義・演習	トライアドコードの復習、比喩のgroup work	課題制作
5		講義・演習	7thコードの復習、ここまでのまとめの小作曲	課題制作
6		講義・演習	メジャーコード、ワンコードの作曲	課題制作
7		講義・演習	マイナーコード、ワンコードの作曲2	課題制作
8		講義・演習	メジャーコード進行を作って小作曲	課題制作
9		講義・演習	マイナーコード進行を作って小作曲	課題制作
10		講義・演習	キーカラーを理解し小作曲	課題制作
11		講義・演習	期末課題に向けてQ&A	期末課題制作
12		講義・演習	作品提出、期末課題プレゼン1	期末課題制作
13		講義・演習	期末課題プレゼン2	期末課題制作
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
The Songwriter's Workshop Melody, Harmony, Writing Better Lyrics, コード理論大全				

科目名	クリエイティブワークショップ(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	金子勝洋
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	この授業は、音楽理論の基礎を学びながら小作品を制作、発表する。それらを通して、ミュージシャンとしての基礎力向上と、自己表現力を育むことを目標としている。ヴォーカリストは耳を使って音楽をすることに長けており、音楽理論に触れる機会が少ない傾向にある。そのため、創作を通して、音楽理論やハーモニー楽器に触れて、広い視野で音楽を理解する力を養う。そして、他人の評価に挫けたり、全てを委ねてしまうことなく、自らの表現を恐れずに発信できるミュージシャンへと成長することを促す。						
到達目標	①小作品の制作を通して、音楽理論の基礎をより深く理解する。②自分の制作の経緯、意図、想いを言語化し発表する。③授業外で時間の調整を行い、多様なスケジュールの下でも、課題を期日までに創る。④定期的なプレゼンテーションを通して、自分の作品が他者の目に晒されることの緊張や不快感と向き合い、自分らしい対処法を見つける。⑤0から1を創る経験を通して、身の回りにある音楽に対して、尊ぶ気持ちを養う。						
評価方法と基準	①1学期を通して3～4回以上プレゼンをする(回数はクラスによって異なる)②学期末にオリジナル曲をパフォーマンスする。③授業が全ての生徒にとってセーフスペースになるよう貢献する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	理論 テーマ作曲1 曲のトーン	課題制作
2		講義・演習	理論 Q&A	作品原案
3		講義・演習	テーマ作曲1プレゼンテーション	課題制作
4		講義・演習	理論 テーマ作曲2 韻を使った作詞	作品原案
5		講義・演習	理論 Q&A	課題制作
6		講義・演習	テーマ作曲2プレゼンテーション	課題制作
7		講義・演習	理論 テーマ作曲3 New Point of View	課題制作
8		講義・演習	理論 Q&A	作品原案
9		講義・演習	テーマ作曲3プレゼンテーション	課題制作
10		講義・演習	期末パフォーマンスについて	作品の完成
11		講義・演習	Q&A	作品の完成
12		講義・演習	プレゼンテーション group1 パフォーマンス	プレゼンテーション準備
13		講義・演習	プレゼンテーション group2 パフォーマンス	プレゼンテーション準備
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
The Songwriter's Workshop Melody, Harmony, Writing Better Lyrics, コード理論大全				

科目名	アーティストセルフプロデュース(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	上野新
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	サブスク・SNS・AIの進化により、現在のアーティストに必要とされているのは「自己発信力」「セルフプロデュース能力」です。コンテンツ(楽曲など)のリリースを通して、セルフプロデュース能力を養うことがこの授業の目的です。学生の皆さんと一緒にアイデアを出し合いながら、①実践編として、学生の皆さんの「コンテンツ創り」のさらなる活性化をサポートし、その創ったコンテンツをリリース。そしてそのコンテンツのヒットを目指します。また、②座学編として、アーティスト活動を行なうために必要な知識を学びます(SNS/YouTube/サブスクの活用方法、著作権印税/原盤印税/アーティスト印税などの権利周り、ライブビジネス、グッズビジネス、ファンクラブビジネス、商標登録など)。数多くの新たなエンタメツールが生まれる中、音楽業界は大きな転換期にあります。過去に囚われないこれからのセルフプロデュースの可能性を学生の皆さんと一緒に考えていきます。						
到達目標	コンテンツ発表を通して自らをヒットさせる アーティスト活動を行なうために必要な知識の習得						
評価方法と基準	□総合的な授業態度 ・・・出席率 ・・・それぞれのキャラクターを大事にした能動的アティテュード						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	オリエンテーション	好きなアーティストの活動(SNS・発信)を調べる
2		講義・演習	コンテンツ創りサポート/自分のアーティスト資料作成	自分の強み・好きな音楽を整理する
3		講義・演習	コンテンツ創りサポート/自分のアーティスト資料作成	参考にしたいアーティストを1組分析
4		講義・演習	コンテンツ創りサポート/活動プラン作成	将来やりたい活動を簡単に書き出す
5		講義・演習	コンテンツ創りサポート/活動プラン作成	ターゲット(誰に届けたいか)を考える
6		講義・演習	コンテンツ創りサポート/宣伝プラン作成	SNSで気になる投稿を保存・分析
7		講義・演習	コンテンツ創りサポート/宣伝プラン作成	発信内容(動画・画像)アイデアを考える
8		講義・演習	コンテンツ創りサポート/SNSの活用方法①	自分がよく使うSNSの特徴を整理
9		講義・演習	コンテンツ創りサポート/YouTube・サブスクの活用方法①	好きな動画・配信コンテンツの工夫を見る
10		講義・演習	コンテンツ創りサポート/CDやサブスクでいくら儲かるの? -1(権利ビジネス)	音楽の収益方法を調べる
11		講義・演習	コンテンツ創りサポート/CDやサブスクでいくら儲かるの? -2(権利ビジネス)	著作権・配信について調べる
12		講義・演習	音源発表	発表用コンテンツを整理する
13		講義・演習	振り返り	自分の活動を振り返りメモする
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	アーティストセルフプロデュース(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	上野新
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	サブスク・SNS・AIの進化により、現在のアーティストに必要とされているのは「自己発信力」=「セルフプロデュース能力」です。コンテンツ(楽曲など)のリリースを通して、セルフプロデュース能力を養うことがこの授業の目的です。学生の皆さんと一緒にアイデアを出し合いながら、①実践編として、学生の皆さんの「コンテンツ創り」のさらなる活性化をサポートし、その創ったコンテンツをリリース。そしてそのコンテンツのヒットを目指します。また、②座学編として、アーティスト活動を行なうために必要な知識を学びます(SNS/YouTube/サブスクの活用方法、著作権印税/原盤印税/アーティスト印税などの権利周り、ライブビジネス、グッズビジネス、ファンクラブビジネス、商標登録など)。数多くの新たなエンタメツールが生まれる中、音楽業界は大きな転換期にあります。過去に囚われないこれからのセルフプロデュースの可能性を学生の皆さんと一緒に考えていきます。						
到達目標	コンテンツ発表を通して自らをヒットさせる アーティスト活動を行なうために必要な知識の習得						
評価方法と基準	□総合的な授業態度 ・・・出席率 ・・・それぞれのキャラクターを大事にした能動的アティテュード						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	コンテンツ創りサポート/活動プラン作成	自分の活動目標(半年～1年)を書き出す
2		講義・演習	コンテンツ創りサポート/活動プラン作成	理想の活動スケジュールを簡単に考える
3		講義・演習	コンテンツ創りサポート/宣伝プラン作成	SNSで伸びている投稿を3つ調べる
4		講義・演習	コンテンツ創りサポート/宣伝プラン作成	自分が発信したい内容をリスト化
5		講義・演習	コンテンツ創りサポート/ファンクラブビジネス	好きなアーティストのファンクラブ内容を調べる
6		講義・演習	コンテンツ創りサポート/グッズビジネス	アーティストグッズの種類や価格を調べる
7		講義・演習	コンテンツ創りサポート/登録商標	アーティスト名・ロゴの重要性を考える
8		講義・演習	コンテンツ創りサポート/出演料の計算方法	ライブ出演の仕組み(チケット・ギャラ)を調べる
9		講義・演習	コンテンツ創りサポート/ライブ制作	好きなライブ映像を見て構成を分析する
10		講義・演習	コンテンツ創りサポート/海外進出の仕方	海外で活動しているアーティストを調べる
11		講義・演習	音源発表	自分の作品(音源・動画)を整理する
12		講義・演習	振り返り	授業で学んだことをメモにまとめる
13		講義・演習	今後のエンタメビジネス	音楽業界の今後について気になるニュースを調べる
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	イベントセルフプロデュース(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	上野新
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	サブスク・SNS・AIの進化により、現在のアーティストに必要とされているのは「自己発信力」=「セルフプロデュース能力」です。 イベント制作を通してセルフプロデュース能力を養うことがこの授業の目的です。 完全実践編として、学生の皆さん自らが自らをプロデュースするイベントを開催。 自らが出演しながらイベントの企画制作・宣伝・運営のすべてを学生の皆さんが行ない、イベントの成功と自らのヒットを目指します。 数多くの新たなエンタメツールが生まれる中、音楽業界は大きな転換期にあります。 過去に囚われないこれからのイベントセルフプロデュースの可能性を学生の皆さんと一緒に考えていきます。						
到達目標	自らが出演するイベントの企画制作・宣伝・運営を通して、イベント＆自らをヒットさせる						
評価方法と基準	□総合的な授業態度 ・・・出席率 ・・・それぞれのキャラクターを大事にした能動的アティテュード						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	オリエンテーション	印象に残っているイベントを1つ思い出し内容を振り返る
2		講義・演習	イベント開催に向けての企画立案	やってみたいイベントのアイデアを3つ出す
3		講義・演習	イベント開催に向けての企画立案	ターゲット(誰向けか)を考える
4		講義・演習	イベント開催に向けての企画立案	イベントの目的(何を達成したいか)を整理する
5		講義・演習	イベント開催に向けての準備 / SNS活用方法	集客が多いSNS投稿を調べる
6		講義・演習	イベント開催に向けての準備 / YouTube活用方法	イベント動画やライブ映像を視聴する
7		講義・演習	イベント開催に向けての準備 / サブスク活用方法	配信イベントやアーティスト事例を調べる
8		講義・演習	イベント開催に向けての準備 / 宣伝プラン作成	告知方法(SNS・チラシ等)を考える
9		講義・演習	イベント開催に向けての準備 / 宣伝プラン作成	投稿内容やスケジュールを考える
10		講義・演習	イベント開催に向けての準備	イベントに必要な要素(場所・人・機材)を書き出す
11		講義・演習	イベント開催に向けての準備	当日の流れ(タイムテーブル)を想像してみる
12		講義・演習	イベント開催(仮)	自分の役割や動きを整理する
13		講義・演習	振り返り	イベントの良かった点・改善点をまとめる
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	イベントセルフプロデュース(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	上野新
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	サブスク・SNS・AIの進化により、現在のアーティストに必要とされているのは「自己発信力」=「セルフプロデュース能力」です。 イベント制作を通してセルフプロデュース能力を養うことがこの授業の目的です。 完全実践編として、学生の皆さん自らが自らをプロデュースするイベントを開催。 自らが出演しながらイベントの企画制作・宣伝・運営のすべてを学生の皆さんが行ない、イベントの成功と自らのヒットを目指します。 数多くの新たなエンタメツールが生まれる中、音楽業界は大きな転換期にあります。 過去に囚われないこれからのイベントセルフプロデュースの可能性を学生の皆さんと一緒に考えていきます。						
到達目標	自らが出演するイベントの企画制作・宣伝・運営を通して、イベント&自らをヒットさせる						
評価方法と基準	□総合的な授業態度 ・・・出席率 ・・・それぞれのキャラクターを大事にした能動的アティテュード						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	イベント開催に向けての企画立案	興味のあるイベントを3つ挙げて内容を調べる
2		講義・演習	イベント開催に向けての企画立案	自分がやりたいイベントの方向性を決める
3		講義・演習	イベント開催に向けての企画立案	ターゲット(誰向けか)を具体化する
4		講義・演習	イベント開催に向けての企画立案	イベントの目的(何を達成したいか)を整理
5		講義・演習	イベント開催に向けての企画立案	イベント内容(ライブ・企画など)を考える
6		講義・演習	イベント開催に向けての企画立案	似たイベントと差別化できる点を考える
7		講義・演習	イベント開催に向けての企画立案	必要な要素(場所・出演者・機材)を書き出す
8		講義・演習	イベント開催に向けての準備 / 宣伝プラン作成	SNSで集客が成功している事例を調べる
9		講義・演習	イベント開催に向けての準備 / 宣伝プラン作成	告知投稿の内容アイデアを考える
10		講義・演習	イベント開催に向けての準備	当日の流れ(タイムテーブル)を想像する
11		講義・演習	イベント開催に向けての準備	自分の役割や動きを整理する
12		講義・演習	イベント開催(仮)	不安点や課題を事前書き出す
13		講義・演習	振り返り	イベント成功の条件を自分なりにまとめる
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Recワークショップ 2 (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	前田基彦
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	エンジニアの仕事に関わる基礎項目を習得する為の授業です。基礎知識を得る事で他科目の理解を深められます。難しい項目もありますが判りやすく授業をしますので頑張って参加し次年度の応用に対応出来るよう学習してください。実技と座学で機材＆音との接しかたや楽曲の捉え方まで多義に渡り解説します。服装はエンジニアリングを行うにふさわしい格好(行動しやすい靴や服で参加する事。スカートは避ける事。) 持ち物は、①授業内で使用する音源等持ち帰り用 USBメモリ・ハードディスクなどの外部記憶媒体 ②自分のリファレンス(基準)となるヘッドフォンまたはイヤホン(接続はTRSまたはミニTRS)						
到達目標	レコーディングのワークフローを説明できる。機材の基礎的使用・レコーディング業界標準のProtocols(プロトツールズ)の基本的な使用方法を理解し実践できる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 出席数40% シラバスを基に要事前学習。上記到達目標項目に関する定期テストを行う。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	1年間の計画 機材廻り信号の流れを説明できる	ノート復習
2		講義・演習	音の聴き方① モニター環境について述べる ことができる	楽曲準備 解析復習
3		講義・演習	プロツールズについて説明できる	WEBサイト閲覧
4		講義・演習	マイク① マイクの種類を説明できる	マイク情報収集
5		講義・演習	エフェクター① エフェクターの種類を説明できる	エフェクター情報収集
6		講義・演習	機材廻り信号の流れ② Rec信号の流れを説明できる	ノート復習
7		講義・演習	レコーディング① VocalRecが実践できる	シグナル/ワークフロー復習
8		講義・演習	音の聴き方② 音の聴き方を説明できる	楽曲準備 解析復習
9		講義・演習	機材の情報収集を実践できる	WEBサイト閲覧
10		講義・演習	レコーディング②様々な楽器録音が実践できる	シグナルフロー復習
11		講義・演習	レコーディング③様々な楽器録音が実践できる	シグナル/ワークフロー復習
12		講義・演習	レコーディング④様々な楽器録音が実践できる	録音ファイル復習聴取
13		講義・演習	エフェクター③ エフェクターの使用方法を説明できる	プラグイン復習操作
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で録音の楽曲のMix作業	
【使用教科書・教材・参考書】				
JAPRS サウンドレコーディング技術概論 Sound & Recording マガジン				

科目名	Recワークショップ 2 (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	前田基彦
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	エンジニアの仕事に関わる基礎項目を習得する為の授業です。基礎知識を得る事で他科目の理解を深められます。難しい項目もありますが判りやすく授業をしますので頑張って参加し次年度の応用に対応出来るよう学習してください。実技と座学で機材＆音との接しかたや楽曲の捉え方まで多義に渡り解説します。服装はエンジニアリングを行うにふさわしい格好(行動しやすい靴や服で参加する事。スカートは避ける事。) 持ち物は、①授業内で使用する音源等持ち帰り用 USBメモリ・ハードディスクなどの外部記憶媒体 ②自分のリファレンス(基準)となるヘッドフォンまたはイヤホン(接続はTRSまたはミニTRS)						
到達目標	レコーディングのワークフローを説明できる。機材の基礎的使用・レコーディング業界標準のProtocols(プロトツールズ)の基本的な使用方法を理解し実践できる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 出席数40% シラバスを基に要事前学習。上記到達目標項目に関する定期テストを行う。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	エフェクター④ エフェクターの使用方法を説明できる	プラグイン復習操作
2		講義・演習	サラウンド① サラウンドについて説明できる	サラウンド情報収集
3		講義・演習	ハンダ付け ケーブル作成が実践出来る	ケーブルチェック
4		講義・演習	ミックス作業を述べることができる	ワークフロー復習
5		講義・演習	音の聴き方③ 音の聴き方を説明できる	楽曲準備 解析復習
6		講義・演習	サラウンド②サラウンドのセットアップができる	サラウンド情報収集
7		講義・演習	スタジオ機材メンテナンスが出来る	配布資料確認
8		講義・演習	マスタリングの概略が説明できる	配布資料確認
9		講義・演習	ラウドネスレベルについて説明できる	配布資料確認
10		講義・演習	ライブレコーディングについて説明できる	配布資料確認
11		講義・演習	ライブレコーディングのセッティングが出来る	配布資料確認
12		講義・演習	ライブRec総括とミックス作業概要の説明ができる	ノート復習
13		講義・演習	総括	ノート復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で録音の楽曲のMix作業	
【使用教科書・教材・参考書】				
JAPRS サウンドレコーディング技術概論 Sound & Recording マガジン				

科目名	池末ゼミ(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	池末信
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	(1)基礎的歌唱力の向上(2)表現力や伝える力など、シンガーがステージの上で発揮すべき技術を得る 以上二点を目的とするクラス。様々なジャンルに挑戦する中で自分の新しい可能性を知り、自分の弱点や強みを踏まえてプロとして観客にどんなステージを見せたいか、を課題曲や本番を通して学んでいきます。						
到達目標	基礎力(発声、リズム、発音など)と応用力(表現力、パフォーマンスなど)を高め、学期末の発表会で発揮する						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介、自分の音楽的長所と短所の分析	クラス内発表曲準備
2		講義・演習	クラス内発表会	基礎曲練習
3		講義・演習	基礎曲歌唱指導/前期発表会で何を発揮したいか	基礎曲練習/自由課題曲練習
4		講義・演習	基礎曲歌唱指導/自由課題曲歌唱指導	基礎曲練習/自由課題曲練習
5		講義・演習	基礎曲歌唱指導/自由課題曲歌唱指導	基礎曲練習/自由課題曲練習
6		講義・演習	基礎曲歌唱指導/自由課題曲歌唱指導	基礎曲練習/自由課題曲練習
7		講義・演習	基礎曲歌唱指導/自由課題曲歌唱指導	基礎曲練習/自由課題曲練習
8		講義・演習	基礎曲歌唱指導/自由課題曲歌唱指導	基礎曲練習/自由課題曲練習
9		講義・演習	基礎曲歌唱指導/自由課題曲歌唱指導	基礎曲練習/自由課題曲練習
10		講義・演習	基礎曲歌唱指導/自由課題曲歌唱指導	基礎曲練習/自由課題曲練習
11		講義・演習	前期発表会の曲決定	発表会準備
12		講義・演習	発表会の曲歌唱指導	発表会準備
13		講義・演習	発表会の曲歌唱指導	発表会準備
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	池末ゼミ(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	池末信
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	(1)基礎的歌唱力の向上(2)表現力や伝える力など、シンガーがステージの上で発揮すべき技術を得る 以上二点を目的とするクラス。様々なジャンルに挑戦する中で自分の新しい可能性を知り、自分の弱点や強みを踏まえてプロとして観客にどんなステージを見せたいか、を課題曲や本番を通して学んでいきます。						
到達目標	基礎力(発声、リズム、発音など)と応用力(表現力、パフォーマンスなど)を高め、学期末の発表会で発揮する						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期発表会のリフレクションと後期の目標設定	課題曲の選曲
2		講義・演習	基礎曲歌唱指導/自由課題曲歌唱指導	基礎曲練習/自由課題曲練習
3		講義・演習	基礎曲歌唱指導/自由課題曲歌唱指導	基礎曲練習/自由課題曲練習
4		講義・演習	基礎曲歌唱指導/自由課題曲歌唱指導	基礎曲練習/自由課題曲練習
5		講義・演習	基礎曲歌唱指導/自由課題曲歌唱指導	基礎曲練習/自由課題曲練習
6		講義・演習	基礎曲歌唱指導/自由課題曲歌唱指導	基礎曲練習/自由課題曲練習
7		講義・演習	基礎曲歌唱指導/自由課題曲歌唱指導	基礎曲練習/自由課題曲練習
8		講義・演習	後期発表会の曲決定	発表会準備
9		講義・演習	発表会の曲歌唱指導	発表会準備
10		講義・演習	発表会の曲歌唱指導	発表会準備
11		講義・演習	発表会の曲歌唱指導	発表会準備
12		講義・演習	発表会の曲歌唱指導	発表会準備
13		講義・演習	発表会の曲歌唱指導	発表会準備
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で録音の楽曲のMix作業	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	ProTools for Creator's (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	大貫和紀
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	制作現場で常に要求されるPro Toolsを確実にコントロールするための知識を習得する。						
到達目標	Avid Pro tools 110レベルのコントロールを習得する。その上で打ち込みを含めたオリジナル楽曲を作成する。						
評価方法と基準	課題提出 出席重視 ALP Pro Tools110テスト合格(90点以上)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	Mixの基本8 Midi Instrument	レポート提出
2		講義・演習	Mixの基本9 Master FX	レポート提出
3		講義・演習	オリジナル楽曲の基本配置	レポート提出
4		講義・演習	オリジナル楽曲へのMidi Instrument追加	レポート提出
5		講義・演習	MA1	レポート提出
6		講義・演習	MA2	レポート提出
7		講義・演習	MA3	レポート提出
8		講義・演習	MAのMIX課題	時間内に終わらない時は次週迄に終わらせる
9		講義・演習	個別のMixへのアドバイス	時間内に終わらない時は次週迄に終わらせる
10		講義・演習	個別のMixへのアドバイス	時間内に終わらない時は次週迄に終わらせる
11		講義・演習	個別のMixへのアドバイス	時間内に終わらない時は次週迄に終わらせる
12		講義・演習	Mixの最終仕上げ	時間内に終わらない時は次週迄に終わらせる
13		講義・演習	Mixの提出	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	ProTools for Creator's (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	大貫和紀
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	制作現場で常に要求されるPro Toolsを確実にコントロールするための知識を習得する。						
到達目標	Avid Pro tools 110レベルのコントロールを習得する。その上で打ち込みを含めたオリジナル楽曲を作成する。						
評価方法と基準	課題提出 出席重視 ALP Pro Tools110テスト合格(90点以上)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ALP Protools101 1	レポート提出
2		講義・演習	ALP Protools101 2	レポート提出
3		講義・演習	ALP Protools101 3	レポート提出
4		講義・演習	ALP Protools101 4	レポート提出
5		講義・演習	ALP Protools101 試験	試験対策
6		講義・演習	ALP Protools110 1	レポート提出
7		講義・演習	ALP Protools110 2	レポート提出
8		講義・演習	ALP Protools110 3	レポート提出
9		講義・演習	ALP Protools110 4	レポート提出
10		講義・演習	ALP Protools110 5	レポート提出
11		講義・演習	ALP Protools110 6	レポート提出
12		講義・演習	ALP Protools110 7	レポート提出
13		講義・演習	ALP Protools110 試験	試験対策
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	MusicProductionTechniques for EngineerProducer 2 (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	勝守理
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1コマの座学に引き続き座学の内容に基づいた1コマの実習を行う。デジタル録音の仕組みから高度な編集技術、レコーディングからマスタリングに至るまでさまざまな知識とスキルの習得を目指す。現在音楽業界でスタンダードに行われているプロフェッショナルレベルの作業の実習。						
到達目標	プロの作曲家、編曲家、エンジニア、アーティストとして最低限知っておかなければいけない制作の知識、録音、編集等のスキルなどを身につける						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ボーカル録音1、レイテンシー、インプットミキサー部屋鳴り、リフレクションフィルター	間違い探し1
2		講義・演習	ボーカル録音2、マイクプリアンプ、ボーカルディレクション1	間違い探し2
3		講義・演習	ボーカル録音3、エンジニアのポジションボーカルディレクション2	間違い探し3
4		講義・演習	アコギ録音、マイキング、ばみり、道具の準備、TIPS、ディレクション	間違い探し4
5		講義・演習	エレキギターの録音1、プラグイン処理、レイテンシーUNISONテクノロジー、歪系エフェクターの種類	反復練習
6		講義・演習	エレキギターの録音2、もっと優れた方法Palmer、Kemper、多くの方法の比較	反復練習
7		講義・演習	アナログ感と歪み1録音機材の進化と音楽発展の歴史	反復練習
8		講義・演習	アナログ感と歪み2、ミックスへの応用、いろんな傾向のプラグイン、リアンプ、	反復練習
9		講義・演習	マスタリング1マスタリングの基礎、DAW上のプラグイン	反復練習
10		講義・演習	マスタリング2ラウドネス、配信用、WAVELAB、	反復練習
11		講義・演習	総合実習1(色)	反復練習
12		講義・演習	総合実習2(国)	反復練習
13		講義・演習	後期まとめ、後期試験	完全解答作成
14		講義・演習	イベント実践を通してレコーディングスキルを学ぶ	イベントに向けての準備
15		講義・演習	イベント実践を通して制作スキルを学ぶ	イベントに向けての準備
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	MusicProductionTechniques for EngineerProducer 2 (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	勝守理
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1コマの座学に引き続き座学の内容に基づいた1コマの実習を行う。デジタル録音の仕組みから高度な編集技術、レコーディングからマスタリングに至るまでさまざまな知識とスキルの習得を目指す。現在音楽業界でスタンダードに行われているプロフェッショナルレベルの作業の実習。						
到達目標	プロの作曲家、編曲家、エンジニア、アーティストとして最低限知っておかなければいけない制作の知識、録音、編集等のスキルなどを身につける						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	レコーディングとは？デジタルとアナログ	身の回りにあるレコーディング機材
2		講義・演習	サンプリング周波数、ビット深度とエイリアスノイズと倍音、LPF	自分の機材を知る
3		講義・演習	各種接続フォーマット、各種保存フォーマット、Dante、MADI、圧縮フォーマット	自分が使用しているフォーマットを知る
4		講義・演習	だまされずにカタログを読む、f特、ダイナミックレンジ、THD+N、	カタログを読み解く
5		講義・演習	他のスタジオとの連携、OMF、AAF、ListenToリモートデスクトップ、	リモートレコーディング、データ互換
6		講義・演習	ワードクロックとは、マスターとスレーブクロックジェネレーター、	外部スタジオで気をつけること
7		講義・演習	MIXの基本、EQの意味、コンプの動作、複数の空間系の掛け方、オートメーション	自分の作品の見直し
8		講義・演習	MIXの応用、ステムミックス、パラレルミックス高度なオートメーション	自分の作品の見直し
9		講義・演習	オーディオ編集、リズム修正の基本エラスティック、スライス	反復練習
10		講義・演習	オーディオ編集、高度なリズム修正マルチトラックスライス、エラスティックの限界	反復練習
11		講義・演習	オーディオ編集、ピッチ修正の基本Melodyne、Auto-Tune	反復練習
12		講義・演習	オーディオ編集、高度なピッチ修正Melodyne2、Auto-Tune2	反復練習
13		講義・演習	前期まとめ、前期試験	完全解答作成
14		講義・演習	イベント実践を通してMIXスキルを学ぶ	イベントに向けての準備
15		講義・演習	イベント実践を通して編集スキルを学ぶ	イベントに向けての準備
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	音楽総合教育実践ゼミ(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	多田彰文
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	学生たちの「わからない」を解決し、高みを目指す授業内容 1年次必修でもあり、音楽制作に重要な「音楽理論」にはじまり、「DAW」「作曲・編曲」「生楽器知識」「スタジオ録音」「ミックス」など、しっかりと理解できていますか？ひょっとして、自身がいま「何をわかっていないか」がわからなくて、困っていたりしませんか？これらを補完する内容として、学生たちが現時点でまだ理解できていない部分を授業で一緒に解決していきましょう！Q&A形式による楽曲共同制作(Co-Writing)、生楽器スタジオ録音&ディレクション実習、音楽ジャンルやヒット曲の解析、音楽最先端技術(AI作曲・サウンドメイク・歌声合成ソフト活用)なども取り入れる予定。必要に応じ、個別でのカウンセリング(相談)にも応じます。						
到達目標	☆耳を鍛える ☆音を知る ☆楽器を知る → 音の知識・音楽理論活用・楽器の種類と奏法・ソフトウェア音源への活用術 ☆音場や空間を知る ☆録音方法を知る → 音響知識・ミックス知識・エフェクターの活用方法(補正的から積極的なものまで) ☆時代背景を知る ☆ジャンルを知る ☆なぜヒット曲なのかを知る → 音楽というものの基礎を理解し、自身の作品へ出力する ☆発信とセルフプロデュース能力を養う → 配信動画の作成・模擬インタビュー動画作成・アーティストショット作成など 上記を総合し、卒業後に向かう音楽業界への即戦力をつける						
評価方法と基準	○出席率重視(学校規定出席率) ○各自の楽曲音源提出(早期段階での提出の形をとります) ☆そのほか、各学生の進捗度も常にチェックしていきます						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の概要説明 ～ 作曲共同実践1	わからないことは何かを考えておく
2		講義・演習	課題音源提出の説明 ～ 作曲共同実践2	最新制作音源を準備しておく
3		講義・演習	作曲におけるメロディーとコード(和音)の関係性	音楽理論などはあらかじめ復習しておく
4		講義・演習	編曲共同実践1	レポート提出
5		講義・演習	編曲共同実践2	レポート提出
6		講義・演習	編曲の基本説明	レポート提出
7		講義・演習	作曲と編曲の共同作業(Co-Writing) 1	作曲編曲の作業準備
8		講義・演習	作曲と編曲の共同作業(Co-Writing) 2	作曲編曲の作業準備
9		講義・演習	録音についての説明と実習1	実習のレポートと課題提出
10		講義・演習	録音についての説明と実習2	実習のレポートと課題提出
11		講義・演習	AI作曲の導入と制作	制作準備
12		講義・演習	歌声合成ソフト比較研究	レポート提出
13		講義・演習	前期まとめ	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各課題に取り組む	
【使用教科書・教材・参考書】				
ミュージックセオリー(TSM音楽理論書)／多田作成「MIXDOWN作業のポイント」				

科目名	音楽総合教育実践ゼミ(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	多田彰文
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	学生たちの「わからない」を解決し、高みを目指す授業内容 1年次必修でもあり、音楽制作に重要な「音楽理論」にはじまり、「DAW」「作曲・編曲」「生楽器知識」「スタジオ録音」「ミックス」など、しっかりと理解できていますか？ひょっとして、自身がいま「何をわかっていないか」がわからなくて、困っていたりしませんか？これらを補完する内容として、学生たちが現時点でまだ理解できていない部分を授業で一緒に解決していきましょう！Q&A形式による楽曲共同制作（Co-Writing）、生楽器スタジオ録音&ディレクション実習、音楽ジャンルやヒット曲の解析、音楽最先端技術（AI作曲・サウンドメイク・歌声合成ソフト活用）なども取り入れる予定。必要に応じ、個別でのカウンセリング（相談）にも応じます。						
到達目標	☆耳を鍛える ☆音を知る ☆楽器を知る → 音の知識・音楽理論活用・楽器の種類と奏法・ソフトウェア音源への活用術 ☆音場や空間を知る ☆録音方法を知る → 音響知識・ミックス知識・エフェクターの活用方法（補正的から積極的なものまで） ☆時代背景を知る ☆ジャンルを知る ☆なぜヒット曲なのかを知る → 音楽というものの基礎を理解し、自身の作品へ出力する ☆発信とセルフプロデュース能力を養う → 配信動画の作成・模擬インタビュー動画作成・アーティストショット作成など 上記を総合し、卒業後に向かう音楽業界への即戦力をつける						
評価方法と基準	○出席率重視（学校規定出席率） ○提出小論文（感想文ではありません） A4用紙 800字以内（手書き・テキスト打ち両方可） 課題例：「音楽制作における音楽理論の有効性について、その見解を述べなさい。」 ☆そのほか、各学生の進捗度も常にチェックしていきます						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	後期の概要説明～楽曲制作共同作業1	わからないことは何かを考えておく
2		講義・演習	課題小論文提出の説明～ヒット曲の解析	レポート提出
3		講義・演習	楽曲制作共同作業2	レポート提出
4		講義・演習	楽曲制作共同作業3	レポート提出
5		講義・演習	楽曲制作共同作業4	レポート提出
6		講義・演習	配信の知識とセルフプロデュース	撮影のためのVisualセルフチェック
7		講義・演習	配信動画の作成とセルフプロデュース	撮影のためのVisualセルフチェック
8		講義・演習	模擬インタビュー	撮影のためのVisualセルフチェック
9		講義・演習	録音実習3	実習準備
10		講義・演習	録音実習4	実習準備
11		講義・演習	録音実習5	実習準備
12		講義・演習	業界へのアピール方法と結果の出し方	レポート提出
13		講義・演習	後期まとめ	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各課題に取り組む	
【使用教科書・教材・参考書】				
ミュージックセオリー(ＴＳＭ音楽理論書)／多田作成「MIXDOWN作業のポイント」				

科目名	アレンジング with Sibelius(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	大貫和紀
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽譜制作ソフトの定番であるSibeliusの使い方をマスターするとともに、アレンジを構築する際にDAWで音を探しながら行う方法から脱却し頭の中のイメージから構築する方法を習得する						
到達目標	Sibeliusの使い方を理解し入力ができるようにする。管楽器の特性を理解して2管のアレンジができるようになる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	リードシートの作成方法について	リードシートの作成方法について 振り返りと自習。
2		講義・演習	リードシートの作成の演習	リードシートの作成の演習 振り返りと自習。
3		講義・演習	リードシート+ピアノ伴奏譜の作成について	リードシート+ピアノ伴奏譜の作成について 振り返りと自習。
4		講義・演習	リードシート+ピアノ伴奏譜の作成の演習	リードシート+ピアノ伴奏譜の作成の演習 振り返りと自習。
5		講義・演習	リズム譜の作成	リズム譜の作成 振り返りと自習。
6		講義・演習	リードシート+ピアノ+リズム譜を作成	リードシート+ピアノ+リズム譜を作成 振り返りと自習。
7		講義・演習	ギター譜を作成について	ギター譜を作成について 振り返りと自習。
8		講義・演習	ギター譜を作成の演習	ギター譜を作成の演習 振り返りと自習。
9		講義・演習	イントロを作成について	イントロを作成について 振り返りと自習。
10		講義・演習	アウトロを作成について	アウトロを作成について 振り返りと自習。
11		講義・演習	管楽器のレンジとトランスポーズ	管楽器のレンジとトランスポーズ 振り返りと自習。
12		講義・演習	ユニゾンとガイドトーンのアレンジ	ユニゾンとガイドトーンのアレンジ 振り返りと自習。
13		講義・演習	前期のアレンジ課題の提出	課題に取り組み期限内に提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			振り返りと自習	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	アレンジング with Sibelius(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	大貫和紀
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽譜制作ソフトの定番であるSibeliusの使い方をマスターするとともに、アレンジを構築する際にDAWで音を探しながら行う方法から脱却し頭の中のイメージから構築する方法を習得する						
到達目標	Sibeliusの使い方を理解し、管楽器の特性を理解して5管+ストリングスのアレンジができるようになる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	インストゥルメンテーションを理解する。	インストゥルメンテーションを理解する。 振り返りと自習。
2		講義・演習	管弦楽器によるSolo Unisonのアレンジ	管弦楽器によるSolo Unisonのアレンジ 振り返りと自習。
3		講義・演習	2part Soliの構築が出来る様になる。	2part Soliの構築が出来る様になる。 振り返りと自習。
4		講義・演習	4way close Drop2 Drop3 Drop2+4のVoicing の構築	4way close Drop2 Drop3 Drop2+4のVoicing の構築 振り返りと自習。
5		講義・演習	4part Soliの構築が出来る様になる。	4part Soliの構築が出来る様になる。 振り返りと自習。
6		講義・演習	3part Soliの構築が出来る様になる。	3part Soliの構築が出来る様になる。 振り返りと自習。
7		講義・演習	5part Soliの構築が出来る様になる。	5part Soliの構築が出来る様になる。 振り返りと自習。
8		講義・演習	Spread voicingとアプローチノート	Spread voicingとアプローチノート 振り返りと自習。
9		講義・演習	Guide Tone backing	Guide Tone backing 振り返りと自習。
10		講義・演習	Inner voicing embellishment	Inner voicing embellishment 振り返りと自習。
11		講義・演習	5管と弦を含むアレンジ1	5管と弦を含むアレンジ1 振り返りと自習。
12		講義・演習	5管と弦を含むアレンジ2	5管と弦を含むアレンジ2 振り返りと自習。
13		講義・演習	後期アレンジ課題提出	課題に取り組み期限内に提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			振り返りと自習	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	セルフプロデュース(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	藤井文司
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	「セルフプロデュース」は、年間6回の発表の日と、「J-POPの歴史」「DTM基礎」を2～3限の中で1コマずつ授業を行う日に分 かれます。 発表日には、オリジナル楽曲(作詞／作曲／アレンジ／歌入れ／ミックス)を提出します。 提出した楽曲を、学生が聞いて採点、その集計結果は授業グループのLINEで発表します。						
到達目標	「プリプロ」のようにクライアントからのOKではなく、同じ学校の同世代から支持される楽曲を作ること。 これが、この授業の目的です。制作は個人でも、チーム(授業外の学生を含む)どちらも可です。						
評価方法と基準	出席/平常点 20% 課題 40%(演習) テスト 40%(楽曲/ペーパーテスト)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	オリエン	レポート提出
2		講義・演習	60年代のJ-POP	レポート提出
3		講義・演習	吉田拓郎と井上陽水	レポート提出
4		講義・演習	はっぴいえんどと日本語のロック	レポート提出
5		講義・演習	荒井由美とニューミュージック	制作準備
6		講義・演習	制作日	発表準備
7		講義・演習	発表1	レポート提出
8		講義・演習	細野晴臣と大瀧詠一	レポート提出
9		講義・演習	山下達郎	レポート提出
10		講義・演習	サザンオールスターズ	制作準備
11		講義・演習	制作日	発表準備
12		講義・演習	発表2	発表準備
13		講義・演習	発表3	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			振り返りと自習	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	セルフプロデュース(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	藤井文司
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	「DTM」は主にシンセ、サンプラー、ブレイクビーツ、プラグインエフェクト、オートメーションなどを学ぶ授業です。						
到達目標	空間的な音作りができること／かっこいいリズムトラックが作れる。この二つが目標です。						
評価方法と基準	出席/平常点 20% 課題 40%(演習) テスト 40%(楽曲/ペーパーテスト)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	制作日	発表準備
2		講義・演習	発表4	レポート提出
3		講義・演習	アルペジオ	レポート提出
4		講義・演習	プラグインエフェクト／オートメーション	レポート提出
5		講義・演習	プラグインエフェクト／オートメーション2	制作準備
6		講義・演習	制作日	発表準備
7		講義・演習	発表5	レポート提出
8		講義・演習	90年代ロック	レポート提出
9		講義・演習	オーディオスライス	レポート提出
10		講義・演習	ボーカルシンセ	制作準備
11		講義・演習	テスト2	テスト
12		講義・演習	制作日	発表準備
13		講義・演習	発表6	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			振り返りと自習	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	企画プロデュース・プラクティス ワークショップ 3 (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	片桐豊
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴	ラジオ局で番組やイベント・コンサート等、そして芸能事務所でファンイベントや演劇等、30年以上に渡り、様々な企画制作に携わっている。						
授業の学習 内容	エンタメ業界(社会)は、仕事やプロジェクトを遂行する上で、様々な職業の方達が関わっており、それぞれの職種やポジションで多様な役割を担い、その役割を果たすことで成立しています。この授業では、仕事や就職に対して近視眼的かつ短絡的に考えがちな学生たちの視野を広げ、大局を洞察しながら自分が携わっているプロジェクトの中で、全体の成功を目指して自分の役割を果たしていけるよう、多様な視点や深い洞察を持つためのヒントを教授、さらには業界の歴史や仕組みなど、上の世代の先輩たちと働く上で必要な心構えも伝授します。また、学生が提案するアイデアを元に学科横断的なオーガナイズやプロデュースワークを実践するイベント制作を行い、ゼロから1を生み出す楽しさや、やり遂げることの充実感を体感し、そうした経験から学生自身の将来目標の選択肢や可能性を広げる場とする。						
到達目標	これまで知らなかった職種の存在や立場を認識し、業界の全体像を理解できるようになる。 企画書や台本の文章の文脈から行間を読み取り、作り手の意図やターゲットに対する訴求ポイントを考察できるようになる。 自分の意思やアイデアを言語化し、他者に伝えるように説明できるようになる。(コミュニケーション・プレゼンスキルの向上) 独善的な行動ではなく、他者の意見を尊重しチームとして協調しながらアジェンダ(課題)に取り組めるようになる。 対外的あるいは社会への影響も意識した俯瞰的視点を持ちながら、目の前の課題に取り組めるようになる。 日本や世界の歴史、宗教やイデオロギーも含め、これからの時代のエンタメを生み出すために世の中のことに興味を持てるようになる。						
評価方法と基準	■出席率:50%(勤勉さ、持続性、基礎体力) ■受講態度:25% (アイデアや協調性、質問力、キャラクターなどを含む人間性) ■到達目標に対する達成度:25%(業務遂行スキル)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業ガイダンス／自己紹介(講師＆各生徒)	現時点での将来目標を語れるようにしておく
2		講義・演習	エンタメ業界の仕事概論 番組やコンサート、イベントに関わる職種と役割	ライブやコンサート、舞台等のパンフレットのなもの(スタッフクレジット掲載)を見つけてみる
3		講義・演習	文章や台本を読み解く(考察・分析する)ために	自分が得意な分野、苦手な分野を認識しておく
4		講義・演習	学校内定番イベントを企画しよう 企画の発想の仕方と企画書の書き方	企画考案にむけての疑問点・質問を考えておく
5		講義・演習	今注目しているエンタメコンテンツとその魅力の考察	好きなコンテンツを選び、その魅力について言語化、分析説明する準備をしておく
6		講義・演習	企画プレゼン① 生徒が考えたイベント企画の発表	学内定番イベントの企画考案
7		講義・演習	企画プレゼン② 生徒が考えたイベント企画の発表	学内定番イベントの企画考案
8		講義・演習	企画会議 提案された企画のブラッシュアップミーティング	他者の企画へのプラスアイデアの検討
9		講義・演習	企画会議 実施プラン検討・実現に向けた留意点	実施に向けた疑問点を挙げておく
10		講義・演習	実施プランの決定と役割分担 担当業務における課題の共有	学校各所への相談調整
11		講義・演習	企画遂行経過報告とアドバイス、意見交換 ●業界考察(メディアと芸能プロの関係)	学校各所や対外的な交渉、役割ごとの準備
12		講義・演習	企画実施に向けた段階チェックと広報計画 ●業界考察(SNSとの関わり方)	学校HP等での宣伝活動
13		講義・演習	企画遂行経過報告とアドバイス、意見交換 ●業界考察(エンタメ業界と広告企業の関係)	学校各所や対外的な交渉、役割ごとの準備
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	企画プロデュース・プラクティス ワークショップ 3 (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	片桐豊
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴	ラジオ局で番組やイベント・コンサート等、そして芸能事務所でファンイベントや演劇等、30年以上に渡り、様々な企画制作に携わっている。						
授業の学習 内容	エンタメ業界(社会)は、仕事やプロジェクトを遂行する上で、様々な職業の方達が関わっており、それぞれの職種やポジションで多様な役割を担い、その役割を果たすことで成立しています。この授業では、仕事や就職に対して近視眼的かつ短絡的に考えがちな学生たちの視野を広げ、大局を洞察しながら自分が携わっているプロジェクトの中で、全体の成功を目指して自分の役割を果たしていけるよう、多様な視点や深い洞察力を持つためのヒントを教授、さらには業界の歴史や仕組みなど、上の世代の先輩たちと働く上で必要な心構えも伝授します。また、学生が提案するアイデアを元に学科横断的なオーガナイズやプロデュースワークを実践するイベント制作を行い、ゼロから1を生み出す楽しさや、やり遂げることの充実感を体感し、そうした経験から学生自身の将来目標の選択肢や可能性を広げる場とする。						
到達目標	これまで知らなかった職種の存在や立場を認識し、業界の全体像を理解できるようになる。 企画書や台本の文章の文脈から行間を読み取り、作り手の意図やターゲットに対する訴求ポイントを考察できるようになる。 自分の意思やアイデアを言語化し、他者に伝わるように説明できるようになる。(コミュニケーション・プレゼンスキルの向上) 独善的な行動ではなく、他者の意見を尊重しチームとして協調しながらアジェンダ(課題)に取り組めるようになる。 対外的あるいは社会への影響も意識した俯瞰的視点を持ちながら、目の前の課題に取り組めるようになる。 日本や世界の歴史、宗教やイデオロギーも含め、これからの時代のエンタメを生み出すために世の中のことに興味を持てるようになる。						
評価方法と基準	■出席率:50%(勤勉さ、持続性、基礎体力) ■受講態度:25% (アイデアや協調性、質問力、キャラクターなどを含む人間性) ■到達目標に対する達成度:25%(業務遂行スキル)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	イベント実施を受けての反省会	夏休み期間にイベント実施
2		講義・演習	学校内定番イベントを企画しよう 企画の発想の仕方と企画書の書き方	企画考案にむけての疑問点・質問を考えておく
3		講義・演習	今注目しているエンタメコンテンツとその魅力の考察	好きなコンテンツを選び、その魅力について言語化、分析説明する準備をしておく
4		講義・演習	企画プレゼン① 生徒が考えたイベント企画の発表	学内定番イベントの企画考案
5		講義・演習	企画プレゼン② 生徒が考えたイベント企画の発表	学内定番イベントの企画考案
6		講義・演習	企画会議 提案された企画のブラッシュアップミーティング	他者の企画へのプラスアイデアの検討
7		講義・演習	企画会議 実施プラン検討・実現に向けた留意点	実施に向けた疑問点を挙げておく
8		講義・演習	実施プランの決定と役割分担 担当業務における課題の共有	学校各所への相談調整
9		講義・演習	企画遂行経過報告とアドバイス、意見交換 ●業界考察(メディアと芸能プロの関係)	学校各所や対外的な交渉、役割ごとの準備
10		講義・演習	企画実施に向けた段階チェックと広報計画 ●業界考察(SNSとの関わり方)	学校HP等での宣伝活動
11		講義・演習	企画遂行経過報告とアドバイス、意見交換 ●業界考察(エンタメ業界と広告企業の関係)	学校各所や対外的な交渉、役割ごとの準備
12		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ①	レポート提出
13		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ①	レポート提出
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ②	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ②	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Music Production Essentials 2(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	松下真也
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	職業作曲家に必要な全ての応用的なテクニックを学び、楽曲のクオリティをプロレベルまで押し上げる。						
到達目標	個人の目標が叶えられるだけのクオリティを持つ楽曲を完成させる						
評価方法と基準	最終的な目標にどれだけ近づくことができたか。授業の内容を身につけられたか。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	音作り基礎:アレンジ/ミックス/マスタリングの役割と、それによる変化具合について	授業内容の復習
2		講義・演習	音作り基礎:現在主流なジャンルと使われ方について	授業内容の復習
3		講義・演習	音作り基礎:適切な音源の選び方とその扱い方	授業内容の復習
4		講義・演習	音作り基礎:レイヤーテクニック	授業内容の復習と実践
5		講義・演習	音作り基礎:倍音コントロール	授業内容の復習と実践
6		講義・演習	アレンジ基礎:リズム楽器が楽曲に与える影響	授業内容の復習と実践
7		講義・演習	アレンジ基礎:コード楽器が楽曲に与える影響	授業内容の復習と実践
8		講義・演習	アレンジ基礎:FXなどの使い方/セクションの切り替え方	授業内容の復習と実践
9		講義・演習	ミックス基礎:安易なミックスが引き起こす問題と音作りの重要性	授業内容の復習
10		講義・演習	ミックス基礎:楽曲に奥行きを出す方法①	授業内容の復習と実践
11		講義・演習	ミックス基礎:楽曲に奥行きを出す方法②	授業内容の復習と実践
12		講義・演習	マスタリング基礎:マスタリングの意味と役割	マスタリング実践
13		講義・演習	テスト	授業内容を自分の楽曲に取り入れる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Music Production Essentials 2(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	松下真也
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	前期で学んだ基礎を発展させ、実践的な制作・ミックス・マスタリングを通して、商用レベルの楽曲制作力と表現力を磨く。						
到達目標	クオリティだけでなく、コンセプト・完成度・再現性を備えた楽曲を複数制作し、自身の制作スタイルを確立する。						
評価方法と基準	制作物の完成度、各課題への取り組み、授業内での改善プロセスを総合的に評価する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	制作フロー再確認:後期の制作テーマ設定と目標管理	自身の制作テーマを検討
2		講義・演習	アレンジ応用①:ジャンル再現とスタイル分析	リファレンス曲分析
3		講義・演習	アレンジ応用②:展開構成とストーリーテリング	構成案作成
4		講義・演習	サウンドデザイン応用①:音作りの方向性設計	音色パターン制作
5		講義・演習	サウンドデザイン応用②:質感・空間の作り込み	実践課題
6		講義・演習	ミックス応用①:音像整理とバランス最適化	ミックス修正
7		講義・演習	ミックス応用②:ダイナミクスと立体感の強化	ミックス実践
8		講義・演習	ミックス応用③:リファレンス比較とブラッシュアップ	比較・改善
9		講義・演習	マスタリング応用①:楽曲の最終調整と音圧設計	マスタリング実践
10		講義・演習	マスタリング応用②:配信を前提とした音作り	書き出し設定確認
11		講義・演習	制作実践①:オリジナル楽曲制作(個別指導)	制作継続
12		講義・演習	制作実践②:最終仕上げ・作品提出準備	最終調整
13		講義・演習	作品発表・講評	改善点の整理
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	空間オーディオプロデュース1(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	前田基彦
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	イマーシブサウンドを理解し制作フローを実践する授業です。実技と座学で機材 & イマーシブサウンドとの接しかたや楽曲の捉え方までエンジニアの立場から多義に渡り解説します。持ち物は、①授業内で使用する音源等持ち帰り用 USBメモリ・ハードディスクなどの外部記憶媒体 ②自分のリファレンス(基準)となるヘッドフォンまたはイヤホン(接続はTRSまたはミニTRS)						
到達目標	イマーシブの基礎ワークフロー理解。クリエイター/エンジニアとして基礎レベルのサラウンド機材が使用出来るようになる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 出席数40% シラバスを基に要事前学習。上記到達目標項目に関する定期テストを行う。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介 年間計画発表 イマーシブサウンド体験 本質	ノート復習 録音ファイル復習聴取
2		講義・演習	機材設定基礎 ATMOS 360 / モノラル / ステレオ について	ノート復習 録音ファイル復習聴取
3		講義・演習	MV1 キャリブレーションDay1 プロファイル測定をする	ノート復習 録音ファイル復習聴取
4		講義・演習	MV1 キャリブレーションDay2 プロファイル測定をする	ノート復習 録音ファイル復習聴取
5		講義・演習	Immersive配信音源にアクセスし聴く事が出来るようになる	ノート復習 録音ファイル復習聴取
6		講義・演習	Protoolsセッティング基礎1 入出力設定とモニタリング	ノート復習 録音ファイル復習聴取
7		講義・演習	Protoolsセッティング基礎2 DolbyATMOS renderer	ノート復習 録音ファイル復習聴取
8		講義・演習	Protoolsセッティング基礎3 DolbyATMOS renderer Mix1	ノート復習 録音ファイル復習聴取
9		講義・演習	Protoolsセッティング基礎4 DolbyATMOS renderer Mix2	ノート復習 録音ファイル復習聴取
10		講義・演習	Protoolsセッティング基礎5 360 WalkMixCreator設定	ノート復習 録音ファイル復習聴取
11		講義・演習	Protoolsセッティング基礎6 360 WalkMixCreatorMix1	ノート復習 録音ファイル復習聴取
12		講義・演習	Protoolsセッティング基礎7 360 WalkMixCreatorMix2	ノート復習 録音ファイル復習聴取
13		講義・演習	総括 課題提出	ノート復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で録音の楽曲のMix作業	
【使用教科書・教材・参考書】				
JAPRS サウンドレコーディング技術概論 Sound & Recording マガジン				

科目名	空間オーディオプロデュース1(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	前田基彦
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	イマーシブサウンドを理解し制作フローを実践する授業です。実技と座学で機材 & イマーシブサウンドとの接しかたや楽曲の捉え方までエンジニアの立場から多義に渡り解説します。持ち物は、①授業内で使用する音源等持ち帰り用 USBメモリ・ハードディスクなどの外部記憶媒体 ②自分のリファレンス(基準)となるヘッドフォンまたはイヤホン(接続はTRSまたはミニTRS)						
到達目標	イマーシブの基礎ワークフロー理解。クリエイター/エンジニアとして基礎レベルのサラウンド機材が使用出来るようになる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 出席数40% シラバスを基に要事前学習。上記到達目標項目に関する定期テストを行う。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期課題チェック&コメント	ノート復習 録音ファイル復習聴取
2		講義・演習	HRTF 頭部伝達関数の説明ができるようになる	ノート復習 録音ファイル復習聴取
3		講義・演習	映画のイマーシブ製作基礎の理解	ノート復習 録音ファイル復習聴取
4		講義・演習	Ambisonics1 基礎項目を習得する	ノート復習 録音ファイル復習聴取
5		講義・演習	Ambisonics2 基礎項目を実践・説明する事が出来る	ノート復習 録音ファイル復習聴取
6		講義・演習	Protools以外のソフトでイマーシブを実行する事が出来る1	ノート復習 録音ファイル復習聴取
7		講義・演習	Protools以外のソフトでイマーシブを実行する事が出来る2	ノート復習 録音ファイル復習聴取
8		講義・演習	さまざまな楽曲の表現方法の理解し説明する事が出来る	ノート復習 録音ファイル復習聴取
9		講義・演習	イマーシブMixを通し自己表現のヒントを見つける	ノート復習 録音ファイル復習聴取
10		講義・演習	22.2ch Auro3Dを説明することが出来るようになる	ノート復習 録音ファイル復習聴取
11		講義・演習	さまざまな楽曲の表現方法の理解をする	ノート復習 録音ファイル復習聴取
12		講義・演習	学期末テスト課題中間チェック	ノート復習 録音ファイル復習聴取
13		講義・演習	学期末テスト課題チェック 総括	ノート復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で録音の楽曲のMix作業	
【使用教科書・教材・参考書】				
JAPRS サウンドレコーディング技術概論 Sound & Recording マガジン				
東京スクールオブミュージック専門学校渋谷				

科目名	生楽器知識 (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	大貫和紀		
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位				
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一								
教員の略歴									
授業の学習 内容	一年を通して、リズムセクションそしてオーケストラ全ての管弦打楽器のプロの奏者を毎回順番にゲストに招き、楽器の実演と解説を聞き、質疑応答を通して楽器の特性や奏法の知識習得を目指します。サンプルライブラリの技術革新のおかげで生楽器を実際に使用する機会が少なくなった昨今、そうした知識を持つクリエイターやエンジニアは非常に有益です。この生楽器知識で得た情報は、作編曲・エンジニアリングをテーマとするどの授業であれ役立つものであり、また、自身のミュージシャンとしての学習過程において様々な場面で役立つ機会が幾度となく訪れると信じます。								
到達目標	リズムセクションと金管楽器の各楽器の形状、名前、音色をきちんと把握している。 リズムセクションと金管楽器の各楽器の音域、特性、奏法について説明することができる。 リズムセクションと金管楽器の各楽器のアンサンブルにおける役割を説明できる。 楽器の特性をしっかりと正しく作編曲およびレコーディング・ミキシングを実践できる。								
評価方法と基準	1) 定期テスト(筆記60% 実技40%)								

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業の心構えとガイダンス。各種楽器の分類とアンサンブルの形態について正しく説明することができる。	授業の心構えとガイダンス。各種楽器の分類とアンサンブルの形態について正しく説明することができる。振り返りと自習	
2		講義・演習	リズムセクション1:ドラムセットの各種パーツの役割、音域、音色、奏法について説明できる。	リズムセクション1:ドラムセットの各種パーツの役割、音域、音色、奏法について説明できる。振り返りと自習	
3		講義・演習	リズムセクション2:エレキベース、アコースティックベースの役割、音域、音色、奏法、各種パーツの役割について説明できる。	リズムセクション2:エレキベース、アコースティックベースの役割、音域、音色、奏法、各種パーツの役割について説明できる。振り返りと自習	
4		講義・演習	リズムセクション3:エレキギター、アコースティックギターの役割、音域、音色、奏法、各種パーツの役割について説明できる。	リズムセクション3:エレキギター、アコースティックギターの役割、音域、音色、奏法、各種パーツの役割について説明できる。振り返りと自習	
5		講義・演習	リズムセクション4:ピアノ、キーボードの役割、音域、音色、奏法、役割について説明できる。	リズムセクション4:ピアノ、キーボードの役割、音域、音色、奏法、役割について説明できる。振り返りと自習	
6		講義・演習	リズムセクション5:実際にグランドピアノ、アップライトピアノを見学に行き、その仕組みを学ぶ。(タカギクラヴィア訪問)	リズムセクション5:実際にグランドピアノ、アップライトピアノを見学に行き、その仕組みを学ぶ。(タカギクラヴィア訪問)振り返りと自習	
7		講義・演習	リズムセクション6:主にジャズポピュラーの現場におけるパーカッションの種類や役割について説明できる。	リズムセクション6:主にジャズポピュラーの現場におけるパーカッションの種類や役割について説明できる。振り返りと自習	
8		講義・演習	シンガー:男性女性シンガーの音域や歌唱法、アンサンブルにおける役割などを学び、説明できる。	シンガー:男性女性シンガーの音域や歌唱法、アンサンブルにおける役割などを学び、説明できる。振り返りと自習	
9		講義・演習	金管楽器1:トランペットとフリューゲルホルンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	金管楽器1:トランペットとフリューゲルホルンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
10		講義・演習	金管楽器2:トロンボーンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	金管楽器2:トロンボーンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
11		講義・演習	金管楽器3:ホルンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	金管楽器3:ホルンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
12		講義・演習	金管楽器4:チューバの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	金管楽器4:チューバの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
13		講義・演習	テスト	テスト	
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			リスニング課題として、毎回学習した楽器に関する曲を提示します。		
【使用教科書・教材・参考書】					
参考書として:「はじめてのオーケストラ・スコア」 野本由紀夫(音楽之友社)					
東京スクールオブミュージック専門学校渋谷					

科目名	生楽器知識 (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	大貫和紀
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	一年を通して、リズムセクションそしてオーケストラ全ての管弦打楽器のプロの奏者を毎回順番にゲストに招き、楽器の実演と解説を聞き、質疑応答を通して楽器の特性や奏法の知識習得を目指します。サンプルライブラリの技術革新のおかげで生楽器を実際に使用する機会が少なくなった昨今、そうした知識を持つクリエイターやエンジニアは非常に有益です。この生楽器知識で得た情報は、作編曲・エンジニアリングをテーマとするどの授業であれ役立つものであり、また、自身のミュージシャンとしての学習過程において様々な場面で役立つ機会が幾度となく訪れると信じます。						
到達目標	木管楽器と弦楽器の各楽器の形状、名前、音色をきちんと把握している。 木管楽器と弦楽器の各楽器の音域、特性、奏法について説明することができる。 木管楽器と弦楽器の各楽器のアンサンブルにおける役割を説明できる。 楽器の特性をしっかりと正しく作編曲およびレコーディング・ミキシングを実践できる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(筆記60% 実技40%)						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	木管楽器1:サクソの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	木管楽器1:サクソの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
2		講義・演習	木管楽器2:フルートの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	木管楽器2:フルートの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
3		講義・演習	木管楽器3:オーボエの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	木管楽器3:オーボエの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
4		講義・演習	木管楽器4:クラリネットの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	木管楽器4:クラリネットの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
5		講義・演習	木管楽器5:ファゴットの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	木管楽器5:ファゴットの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
6		講義・演習	弦楽器1:バイオリンとビオラの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	弦楽器1:バイオリンとビオラの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
7		講義・演習	弦楽器2:チェロの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	弦楽器2:チェロの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
8		講義・演習	弦楽器3:コントラバスの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	弦楽器3:コントラバスの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
9		講義・演習	弦楽器4:ハープの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	弦楽器4:ハープの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
10		講義・演習	その他の楽器1:アコーディオンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	その他の楽器1:アコーディオンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
11		講義・演習	その他の楽器2:三味線の歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	次週のプレゼンテーションに向けた各自まとめ作業	
12		講義・演習	後期に学習した各楽器をふりかえり、学習した内容を各自がまとめプレゼンテーションをおこなう。	試験に向けた振り返りと自習	
13		講義・演習	テスト	テスト	
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			リスニング課題として、毎回学習した楽器に関する曲を提示します。		
【使用教科書・教材・参考書】					
参考書として:「はじめてのオーケストラ・スコア」 野本由紀夫(音楽之友社)					

科目名	Music History (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	西田 剛
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	この授業の目的は「音楽を考える力」を育むことであり、主にヨーロッパ及びアメリカで発生し発展してきた芸術音楽について概要を学びます。 その歴史(中世～20世紀)の中で対位法、オペラ、無調性音楽などに触れ、形式を理解するとともに、音楽的な視野を広めます。						
到達目標	西洋音楽の進化について深い理解を示すことができる。それは、楽曲を聴いた時の分析力となり、その曲の歴史的な位置づけ・意味合いがわかるようになる。 そして、自分の作品と西洋音楽を深いレベルで結びつけることができるようになる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 平常点40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	中世の音楽 音楽の始まり～グレゴリオ聖歌 教会旋法	授業の進め方(資料、音源、DVD、実演)の確認 レベルチェック:小テスト 身近なクラシック曲(あし笛の踊り)
2		講義・演習	ルネッサンス期の音楽	配布プリント(年表、ルネサンス、バッハのメヌエット) 目標再確認、メヌエットで学ぶ対位法、ルネサンス音楽を聴く
3		講義・演習	バロック期の音楽(オペラ)	バロックという時代を知る。 オペラの始まり1600～バッハの死1750 名作: 蝶々夫人 椿姫 魔笛 コシ・ファン・トゥッテ 鑑賞 考察: オペラ歌手 ソプラノ(コロラトゥーラ、リリコ、などの違いを聴き分ける)
4		講義・演習	J.S.バッハの音楽	バロックとバッハ 時代と背景 対位法、カノン形式について学習する 主よ、人の望みの喜びよ バッハベルのカノン オペラとオラトリオ などフ リントに沿って学習
5		講義・演習	クラシック音楽”の時代(ハイドン、モーツァ ルト)	モーツァルトと古典派、ソナタ形式と交響曲の構成を理解する。その他、協奏 曲とはどんな音楽か説明できるようにする。
6		講義・演習	ここまでのポイント整理	カノン形式、ソナタ形式、交響曲の構成、オペラと オラトリオの違いなどを言葉で説明できる。
7		講義・演習	クラシック音楽”の時代(ベートーベン)	ベートーヴェンと古典派～ロマン派の流れを理解する 交響曲『運命』(ソナタ形式)、エリーゼのために、月光など代表曲。 ハイド ン『天地創造』(オラトリオ)
8		講義・演習	初期ロマン派の音楽(シューベルト、ペルリ オーズ)	ロマン派①シューベルト ペルリオーズなど考察 ショパン、シューマン、リスト、メンデルスゾーン(主だったピアノ曲) を聴き ピアノという楽器の歴史を理解する。
9		講義・演習	後期ロマン派の音楽(ワーグナー、マーラー)	ロマン派②ワーグナー、フェリクス、ゴットフリート・アスマスと世、ワグネル ス、ドヴォルザーク 前週からの2週で、ロマン派の音楽が重視した人間の感情や個性を理解す る。
10		講義・演習	20世紀の音楽(ストラヴィンスキー)	1882～1971 初期の3 作品『火の鳥』、『ペト ルーシュカ』、『春の祭典』)
11		講義・演習	20世紀の音楽(シェーンベルグ) ケージ、ヴェーブルン 芸術音楽	シェーンベルクを中心に20世紀の音楽 12音技法の解 説 音列を知る その他(サティ、ラヴェルなど)
12		講義・演習	テスト	
13		講義・演習	振り返り	中世から20世紀までの時代を振り返り、曲の雰囲気やイデオロギがどのように 確認する。 オーケストラの基本編成や様々なジャンル(交響曲、協奏曲、ピアノ曲)を再 認識する。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Global Communication (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	池末信
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	外国人を前に怖がったり恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。						
到達目標	よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、個人的な情報について、質問をしたり、答えたりできる。会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートをしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。						
評価方法と基準	定期テスト(筆記100%)による採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	be動詞(am, are)を使って自己紹介(国籍や出身)する、または出身地を尋ねる会話を練習する、疑問代名詞(who)を使って自分の個人情報を尋ねる、個人的な経歴等のプロフィールを読む・書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
2		講義・演習	be動詞(are)を使って家族構成について話す、be動詞の否定文を使って、希望や意志について説明する	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
3		講義・演習	新しい人に出会う」 +前期発表と連動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
4		講義・演習	be動詞の否定文を使って、希望や意志について説明する	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
5		講義・演習	友達に写っている友達のことについて話す、友達に自分の紹介文を書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
6		講義・演習	友達や家族についての情報を比較する」 +前期発表と連動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
7		講義・演習	自分の家について話す、[it is]を使って、家具について話す	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
8		講義・演習	自分の好きな食べ物や飲み物を提供し、受け取る際の会話を練習する、分からない単語について質問する	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
9		講義・演習	モーションジェスチャーのゲームを楽しむ」について」 +前期発表と連動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
10		講義・演習	一般動詞現在形を使って、お気に入りの物のことについて話す、一般動詞の「現在形」の疑問文を使って、相手の好きな物について質問する	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
11		講義・演習	商品について話していることを示す、商品のレビューを読む・書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
12		講義・演習	自分の好きな活動について比較する」 +前期発表と連動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
13		講義・演習	自分の将来の行動について話す、 「現在形」疑問文を使って、時間と利益のトレードオフを伝える表現を練習する、自分の行動についてのレポートを書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
14		講義・演習		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
15		講義・演習	Time to Speak: 前期発表	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Global Communication (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	池末信
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	外国人を前に怖がったり恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。						
到達目標	よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、個人的な情報について、質問をしたり、答えたりできる。会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートをしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。						
評価方法と基準	定期テスト(筆記100%)による採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	「現在進行形」肯定文を使って、家事や自宅での行動について話す 「現在進行形」疑問文を使って、旅行について質問する、または答える	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
2		講義・演習	電話で情報を共有する会話を練習する、今起こっていることについてのブログを読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
3		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「最近の生活について」 ・後期発表と運動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
4		講義・演習	[Can / Can' t] (能力) を使って、自分の能力や才能について話す [Can / Can' t] (可能性) を使って、職場や学校でできること、できないことについて話す	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
5		講義・演習	自分が何故その仕事の適任者なのか、説明するための表現を練習する、インターネット上で自分の考えをコメントする	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
6		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「自国民が何が得意かについて」 ・後期発表と運動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
7		講義・演習	[this] と [these] を使って、休暇、旅行について話す [like to, want to, need to, have to] を使って、旅行計画を立てる	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
8		講義・演習	お店でいろいろな情報を聞く時の表現を使って、会話する場所についての説明を読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
9		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「休暇の計画をたてる」 ・後期発表と運動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
10		講義・演習	[be going to] を使って、週末のアウトドア（野外）プランについて話す、[be going to]（疑問文）を使って、異なる様々な旅で何を着るかについて話し合う	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
11		講義・演習	夕方出かける計画を提案するなど、相手を誘う時の表現を練習する オンラインでの招待状を読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
12		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「自分の町での楽しい週末を計画する」・後期発表と運動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
13		講義・演習	be動詞の過去形[was / were]の肯定文と否定文を使って、過去における人物、場所、物について話す、be動詞の過去形[was / were]の疑問文を使って、記憶にある色について話す	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
14		講義・演習	自分の記憶を表現し、映画、俳優について話す 過去の思い出として保管している物についてEメールを書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
15		講義・演習	Time to Speak:後期発表	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
準備学習 時間外学習			反復練習を通して身につける	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	韓国語(5) (韓国語Basic(5))	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	李美姫
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ハングルの理解、発音、読み、聞き、作文、会話スキルをアップする ②実用的なコミュニケーションができるように話す力を身につける ③教科書で勉強したものを生かして活用できるようにペア又はグループで練習したり発表する						
到達目標	①韓国語で日常会話が可能になること ②必要な韓国語を身につけて気軽に話せるようにする ③韓国語に対して抵抗感、違和感、恐怖心を持たないようにする						
評価方法と基準	1) 定期試験80% 2) 出席数 10% 3) 態度 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介・目標設定・関心事	ハングルの仕組み知る
2		講義・演習	数字を数える	書き方、覚える方法を知る
3		講義・演習	教科書とワークブックを活用	プリント配布
4		講義・演習	リスニングスキルを身につける	CD、Netflix,YouTubeで学習する
5		講義・演習	ペアで学習ができる	会話練習をする
6		講義・演習	韓国の文化を知る	日本の文化との違いを学習する
7		講義・演習	趣味、関心事について作文、発表	授業中に作文、発表する
8		講義・演習	食べ物、映画、ドラマについて話す	宿題として前もって作文してもらう
9		講義・演習	否定・賛成表現を練習する	単語を使って文章を作る練習
10		講義・演習	定期試験	試験前に復習をする
11		講義・演習	過去形を学習する	文法を活用して話す練習をする
12		講義・演習	ゲームをしながら学習する	日記の宿題を出す
13		講義・演習	韓国映画を見る	日本語字幕で鑑賞
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				
できる韓国語初級1, 2、ワークブック、プリント、イラストとゴロで覚える韓国語				

科目名	韓国語(5) (韓国語Entry(5))	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	李美姫
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ハングルの理解、発音、読み、聞き、作文、会話スキルをアップする ②実用的なコミュニケーションができるように話す力を身につける ③教科書で勉強したものを生かして活用できるようにペア又はグループで練習したり発表する						
到達目標	①韓国語で日常会話が可能になること ②必要な韓国語を身につけて気軽に話せるようにする ③韓国語に対して抵抗感、違和感、恐怖心を持たないようにする						
評価方法と基準	1) 定期試験80% 2) 出席数 10% 3) 態度 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介・目標設定・関心事	ハングルの仕組み知る
2		講義・演習	ハングル文字を覚える	書き方、覚える方法を知る
3		講義・演習	教科書とワークブックを活用	プリント配布
4		講義・演習	リスニングスキルを身につける	CD、Netflix,YouTubeで学習する
5		講義・演習	ペアで学習ができる	会話練習をする
6		講義・演習	韓国の文化を知る	日本の文化との違いを学習する
7		講義・演習	趣味、関心事について作文、発表	授業中に作文、発表する
8		講義・演習	食べ物、映画、ドラマについて話す	宿題として前もって作文してもらう
9		講義・演習	否定・賛成表現を練習する	単語を使って文章を作る練習
10		講義・演習	定期試験	試験前に復習をする
11		講義・演習	可能形を学習する	文法を活用して話す練習をする
12		講義・演習	ゲームをしながら学習する	日記の宿題を出す
13		講義・演習	時間・日程・数字を練習する	書きながら暗記するように進行
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				
できる韓国語初級1, 2、ワークブック、プリント、イラストとゴロで覚える韓国語				

科目名	韓国語(5) (韓国語Advance(5))	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	徐慧精
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1) 韓国語のスキルをアップする。 2) ペアやグループで会話の練習をする。 3) 韓国の社会や文化について学ぶ。						
到達目標	1) 適切なコミュニケーションができるようになる。 2) 韓国の社会や文化について理解を深める。 3) 意思を伝達することができるようになる。						
評価方法と基準	1) 定期試験 60% 2) 出席 10% 3) 授業準備 10% 4) 授業態度 10% 5) 課題 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介、目標設定	自己紹介を書く。
2		講義・演習	初級Ⅱの復習をする。	プリントで練習する。
3		講義・演習	性格について	学んだ文法の練習をする。
4		講義・演習	発表会	発表した作文を直す。
5		講義・演習	TOPIK	TOPIKの練習する。
6		講義・演習	買い物をする。	作文をする。
7		講義・演習	発表会と会話	学んだ文法の練習をする。
8		講義・演習	手紙を書く。	作文をする。
9		講義・演習	-아/어 있다	学んだ文法の練習をする。
10		講義・演習	定期試験	復習をする。
11		講義・演習	TOPIK	TOPIKの練習する。
12		講義・演習	-(으)ㄴ/는/(으)ㄹ 것 같다	学んだ文法の練習をする。
13		講義・演習	CDを聴く。	聴いて書く。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				
できる韓国語初級Ⅱ & ワークブック、プリント。				

科目名	韓国語(5) (韓国語Opcional(5))	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	徐慧精
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1) ハングルの表記を覚える。 2) ペアやグループで会話の練習をする。 3) 韓国の文化について学ぶ。						
到達目標	1) 会話の練習を通して、簡単な挨拶や自己紹介ができるようになる。 2) 言葉を学ぶことで、韓国の社会や文化に対する関心を高める。						
評価方法と基準	1) 定期試験 60% 2) 出席 10% 3) 授業準備 10% 4) 授業態度 10% 5) 課題 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介、目標設定	プリントで練習する。
2		講義・演習	基本母音を知る。	書く練習と発音の練習をする。
3		講義・演習	子音 + 母音 の組み合わせを読む。	書く練習と単語を覚える。
4		講義・演習	激音について	書く練習と発音の練習をする。
5		講義・演習	濃音について	書く練習と発音の練習をする。
6		講義・演習	バッチム	書く練習と発音の練習、単語を覚える。
7		講義・演習	合成母音	書く練習と発音の練習、単語を覚える。
8		講義・演習	発音の変化	発音の練習をする。
9		講義・演習	簡単な会話	会話の練習をする。
10		講義・演習	定期試験	単語や簡単な会話を覚える。
11		講義・演習	-입니다 / -입니까?	文章を作る練習をする。
12		講義・演習	韓国語で自己紹介をする。	自己紹介を書く。
13		講義・演習	発表会と話し合い	聴いて書く。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				
できる韓国語初級Ⅰ & ワークブック、プリント。				

科目名	韓国語(6) (韓国語Basic(6))	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	李美姫
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ハングルの理解、発音、読み、聞き、作文、会話スキルをアップする ②実用的なコミュニケーションができるように話す力を身につける ③教科書で勉強したものを生かして活用できるようにペア又はグループで練習したり発表する						
到達目標	①韓国語で日常会話が可能になること ②必要な韓国語を身につけて気軽に話せるようにする ③韓国語に対して抵抗感、違和感、恐怖心を持たないようにする						
評価方法と基準	1) 定期試験80% 2) 出席数 10% 3) 態度 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	勉強したいことを聞く・後期の目標設定	予習と復習することの大切さを話す
2		講義・演習	憧れの存在について話し合う	副教材を利用する
3		講義・演習	スポーツについて話し合う	プリント配布
4		講義・演習	感情・関係について話し合う	辞書・翻訳機の使い方を教える
5		講義・演習	旅行・行きたいところについて話し合う	ペアの相手と話し合う
6		講義・演習	最新ニュース、記事を学習する	調べて書いてきてもらう
7		講義・演習	身体・美容について学習する	ネット検索をしてもらって作文を書く
8		講義・演習	地理・国名について学習する	韓国の地理と世界について学習
9		講義・演習	天気・植物について学習する	テスト準備を呼びかける
10		講義・演習	定期試験	試験前に復習を行う
11		講義・演習	季節・気分について学習する	前に出て発表してもらう
12		講義・演習	トレーニング・運動について学習する	ペアを組んで練習する
13		講義・演習	乗り物・歴史について学習する	1年を振り返る
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	韓国語(6) (韓国語Entry(6))	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	李美姫
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ハングルの理解、発音、読み、聞き、作文、会話スキルをアップする ②実用的なコミュニケーションができるように話す力を身につける ③教科書で勉強したものを生かして活用できるようにペア又はグループで練習したり発表する						
到達目標	①韓国語で日常会話が可能になること ②必要な韓国語を身につけて気軽に話せるようにする ③韓国語に対して抵抗感、違和感、恐怖心を持たないようにする						
評価方法と基準	1) 定期試験80% 2) 出席数 10% 3) 態度 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	勉強したいことを聞く・後期の目標設定	予習と復習することの大切さを話す
2		講義・演習	憧れの存在について話し合う	副教材を利用する
3		講義・演習	スポーツについて話し合う	プリント配布
4		講義・演習	感情・関係について話し合う	辞書・翻訳機の使い方を教える
5		講義・演習	旅行・行きたいところについて話し合う	ペアの相手と話し合う
6		講義・演習	最新ニュース、記事を学習する	調べて書いてきてもらう
7		講義・演習	身体・美容について学習する	ネット検索をしてもらって作文を書く
8		講義・演習	地理・国名について学習する	韓国の地理と世界について学習
9		講義・演習	天気・植物について学習する	テスト準備を呼びかける
10		講義・演習	定期試験	試験前に復習を行う
11		講義・演習	季節・気分について学習する	前に出て発表してもらう
12		講義・演習	トレーニング・運動について学習する	ペアを組んで練習する
13		講義・演習	乗り物・歴史について学習する	1年を振り返る
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	韓国語(6) (韓国語Advance(6))	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	徐慧精
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1) 韓国語のスキルをアップする。 2) ペアやグループで会話の練習をする。 3) 韓国の社会や文化について学ぶ。						
到達目標	1) 適切なコミュニケーションができるようになる。 2) 韓国の社会や文化について理解を深める。 3) 意思を伝達することができるようになる。						
評価方法と基準	1) 定期試験 60% 2) 出席 10% 3) 授業準備 10% 4) 授業態度 10% 5) 課題 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の復習をする。	復習する。
2		講義・演習	TOPIK	TOPIKの練習する。
3		講義・演習	설날とお正月	長文の作文をする。
4		講義・演習	韓国と日本の違い	会話の練習をする。
5		講義・演習	TOPIK	TOPIKの練習する。
6		講義・演習	집들이について	招待状を書く。
7		講義・演習	CDを聞く。	聴いて書く。
8		講義・演習	学生としての生活について	長文の作文をする。
9		講義・演習	キーボードの使い方	ハングルでメールを送る。
10		講義・演習	定期試験	復習をする。
11		講義・演習	最新のニュース	ニュースの内容を書く。
12		講義・演習	自分将来について	夢の作文
13		講義・演習	一年間の振り返り	意思表示をする。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	韓国語(6) (韓国語Opcional(6))	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	徐慧精
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1) 韓国語のスキルをアップする。 2) ペアやグループで会話の練習をする。 3) 韓国の文化について学ぶ。						
到達目標	1) 会話の練習を通して、簡単な挨拶や自己紹介ができるようになる。 2) 言葉を学ぶことで、韓国の社会や文化に対する関心を高める。						
評価方法と基準	1) 定期試験 60% 2) 出席 10% 3) 授業準備 10% 4) 授業態度 10% 5) 課題 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の復習をする。	プリントでの復習。
2		講義・演習	-이 / 가 아닙니다.	否定文の練習をする。
3		講義・演習	職業について	会話の練習をする。
4		講義・演習	部屋の中を観察してみよう。	新しい単語を学ぶ。
5		講義・演習	簡単な質問ができる。	相手の話を聞いて返答をする。
6		講義・演習	家族関係が分かる。	文章を作る。授業内容の復習をする。
7		講義・演習	地名や場所名を覚える。	プリントで単語を覚える。
8		講義・演習	約束について会話する。	会話の練習をする。
9		講義・演習	位置に関する説明ができる。	作文の練習をする。
10		講義・演習	定期試験	復習をする。
11		講義・演習	動画をみて見よう。	聴いて書く練習をする。
12		講義・演習	学んだ単語を確認しよう。	学んだ単語の復習をする。
13		講義・演習	一年間を振り返る。	会話の練習をする。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	日本語講座 (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	神田智子
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	日本国内での就職・デビュー活動に必要な日本語能力を養います。 * 前期は、日本の就職活動の概要理解、業界・企業・職種研究、企業担当者やOB・OG訪問、インターンシップ準備などを行い、日本で働くことをイメージできるようにします。また日本語能力試験の対策を行います。 * 後期は、日本語能力試験対策及び、就職・デビューに関わる面接対策等を行います。						
到達目標	1. 日本の企業や業界について理解する。 2. OB・OG訪問やインターンシップを通じて日本での就業を体験し、就職への具体的なイメージを掴む。 3. 日本語で履歴書が書けるようになる。 4. 面接に対応できる日本語力やビジネスマナーを身に付ける。 5. 日本語能力試験N1への合格、または同等の日本語力を身につける。						
評価方法と基準	毎回の授業で出される課題(提出物、口頭発表)と前期・後期末試験について、 (1)論理性 (2)独自性 (3)正確性 (4)表現力 (5)意欲 の観点から評価						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	日本の就職・デビュー活動の概要	〈準備〉学歴、資格取得年月の整理
2		講義・演習	履歴書①基本情報の書き方	〈準備〉学歴、資格取得年月の整理
3		講義・演習	業界研究 調査①	業界の自主研究及び資料作成
4		講義・演習	業界研究 調査②	業界の自主研究及び資料作成
5		講義・演習	企業研究 調査① 好きなアーティストの所属先	企業の自主研究及び資料作成
6		講義・演習	企業研究 調査② 好みの企業BEST 5	企業の自主研究及び資料作成
7		講義・演習	N1の試験についての心構え～ 例題①	〈課題〉資料作成
8		講義・演習	レベルチェックテスト(20～30分)テスト答え合わせ解説 N1 状況状態に関する語彙	建前、矛盾 チームワークなどの語彙を使う状況を挙げ、例文作成 読解問題宿題
9		講義・演習	N1文法 導入文型 ～とあって、～ならではの、～にもまして、～からして 例文作成、会話練習 N1語彙 人を見て思う感情表現語彙	あさましい めざましい 根拠り業掘りなどの語彙を使う状況を挙げ、例文作成 読解問題宿題
10		講義・演習	N1文法 導入文型 ～を余儀なくされる ～たりとも ～きらいがある ～あつての 例文作成会話練習 N1相手を気遣う語彙	あいにく 何気ない 独自の などの語彙を使う状況を挙げ 例文作成 読解問題宿題
11		講義・演習	N1文法 導入文型 ～をよそに ～なりに ～ないでもない ～すら～なかった 例文作成、会話練習 N1困惑する感情の語彙 実践問題	不審な 閉口する 反発する などの語彙を使う状況を挙げ 例文作成 読解問題宿題
12		講義・演習	N1文法 導入文型 文法～とは(驚き)～がはやいか ～そばから ～ずにはおかない 例文作成、会話練習 N1時間 時期の語彙 。夏休みに向けて	適宜、時折 古参の などの語彙を使う状況を挙げ例文作成 読解問題宿題。夏休み課題の取り組み
13		講義・演習	振り返り。N1 試験について	夏休み課題の復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			反復練習を通して身につける	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	日本語講座 (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	神田智子
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	日本国内での就職に有利なJLPTN1取得を目標とし、特に出題されやすい接続詞を抜粋して導入、定着を目指す。併せてすべての基礎となる語彙力向上も目標とする またN1レベルの文法や語彙の使い分けも身につける * 講習ごとに語彙テストを行い、また「使える」語彙力を前提に積極的に会話練習を行う * わかりやすく導入するために例文提示と例文作成を行う						
到達目標	1. JLPTN1合格を目指す 2. 正しい接続詞の使い方を学び、実際に使えるようにする 3. 実際に使える語彙を増やす 読める漢字を増やす						
評価方法と基準	1・前期 期末試験の得点 2・N1レベル文法の習得度 N1レベル語彙の実践問題 正解率 3・出席率 授業態度 以上を基準として総合的に評価する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	N1文法 導入文型 ～ともなると ～もさることながら ～に即した ～を置いて他にない 例文作成、会話練習 N1相手に対応する語彙	報いる 用心する 勘違い などの語彙を使う状況を挙げ、例文作成 読解問題宿題
2		講義・演習	N1文法 導入文型 ～までもなく ～いかな ～とは言えないまでも ～とい～とい～ 例文作成、会話練習 N1将来未来の語彙	果てしなく 遠からず 粘り強く などの語彙を使う状況を考え 例文作成 読解問題宿題
3		講義・演習	N1文法 導入文型～のをいいことに ～にもほどがある ～ならまだしも ～以前の 例文作成、会話練習 N1物に働きかける語彙	活性化 正常化 目に見えて などの語彙を使う状況を挙げ 例文作成 読解問題宿題
4		講義・演習	N1文法 導入文型 ～たら～たで ～ようものなら ～ならいざしらず ～にこしたことはない 例文作成、会話練習 N1経済の語彙	不況 不振 盛況などの語彙を使う状況を挙げ 例文を作成 読解問題宿題
5		講義・演習	N1文法 導入文型～とはいえ ～といったところだ ～に～ない ～にかこつけて 例文作成、会話練習 N1仕事の語彙	打ち込んでいる 立て込んでいる 乗り切る などの語彙を使う状況を挙げ 例文を作成 読解問題宿題
6		講義・演習	N1模擬試験問題 文法 語彙	文法例文作成 + 読解問題宿題
7		講義・演習	N1模擬試験問題 語彙 漢字	語彙例文作成 + 読解問題宿題
8		講義・演習	N1模擬試験問題 文法 漢字	文法例文作成 + 読解問題宿題
9		講義・演習	N1試験対策	レポート提出
10		講義・演習	企業研究 調査② 好みの企業BEST 5	レポート提出
11		講義・演習	インターンシップ② プロフィールシート作成	〈課題〉資料作成
12		講義・演習	企業に入ってからのこと。OB OGIに聞きたいこと。	レポート提出
13		講義・演習	1年のまとめをプレゼンテーションする。	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			反復練習を通して身につける	
【使用教科書・教材・参考書】				